

第33回 会社説明会

中間決算・業績予想
経営戦略
みんなの銀行

2021年11月24日

Part I 中間決算・業績予想

● 2021年度 中間決算サマリー	3
● 2021年度 業績予想	4
● トップラインの推移 上期実績	5
● トップラインの推移 修正年度計画	6
● 2021年度 連結純利益 前年比要因	7
● 資金利益	8
● 総貸出金平残	9
● 総資金平残（預金+NCD）	10
● 有価証券	11
● 非資金利益	12
● 経費	13
● 信用コスト・不良債権	14

Part II 経営戦略

● FFGを取り巻く経営環境	16
● 第6次中期経営計画の進捗	17
● 法人ビジネス	18,19
● 個人ビジネス	20
● 市場運用	21
● サステナビリティ	22
● 持続的な利益成長	23
● 資本政策・株主還元	24

Part III みんなの銀行

● 顧客獲得の状況	26,27
● サービスの利用状況	28,29
● アライアンスの状況	30,31
● 国内外のアワードにおける受賞実績	32
● 計数計画のポイント	33

Part IV 【参考資料】 計数

● 国内貸出金平残（銀行別）	35
● 国内貸出金残高（業種別）	36
● アパートローンの状況	37
● 国内資金平残（銀行別）	38
● 国内貸出金利回り（セグメント別）	39
● 国内預貸金利回り（銀行別）	40
● 預貸金の種類別構成比	41
● 有価証券（銀行別）	42
● 非資金利益・資産運用商品販売額（銀行別）	43
● 経費・信用コスト（銀行別）	44
● 不良債権・自己資本比率	45

Part V 【参考資料】 九州経済

● マーケットシェア	47
● 九州経済指標	48~54

Part I

中間決算・業績予想

損益（3行単体合算）

（億円）

【公表比】	3行単体合算		福岡銀行（単体）		熊本銀行（単体）		十八親和銀行（単体）	
	中間期 実績	前年 同期比	中間期 実績	前年 同期比	中間期 実績	前年 同期比	中間期 実績	前年 同期比
業務粗利益	1,026	18	687	25	97	4	242	▲ 11
資金利益	924	27	608	32	90	0	227	▲ 5
国内部門	854	15	551	21	90	0	214	▲ 6
国際部門	70	12	57	11	0	▲ 0	13	1
非資金利益	102	▲ 9	79	▲ 7	7	4	16	▲ 6
役務等利益	122	30	90	22	7	4	25	5
特定・その他利益（債券除く）	13	▲ 0	12	▲ 3	0	0	1	2
債券関係損益	▲ 33	▲ 39	▲ 23	▲ 26	0	▲ 0	▲ 10	▲ 13
経費（△）	579	▲ 36	332	▲ 9	65	▲ 3	182	▲ 24
実質業務純益	447	55	355	34	31	7	61	14
一般貸倒引当金（△）	5	5	0	0	0	0	9	9
業務純益	441	49	355	34	31	7	51	5
コア業務純益 【+61】	480	93	378	60	31	7	71	27
臨時損益	45	▲ 10	34	▲ 20	▲ 2	▲ 9	16	23
経常利益 【+68】	487	39	390	14	32	10	67	27
特別損益	▲ 3	1	▲ 1	▲ 1	▲ 0	▲ 0	▲ 2	2
税引前中間純利益	483	40	388	13	29	▲ 2	66	30
法人税等（△）	129	20	110	17	7	1	11	2
中間純利益 【+51】	355	21	278	▲ 4	22	▲ 3	54	28
信用コスト（△） 【▲ 25】	3	74	▲ 10	29	0	11	14	34

※公表比は2021年5月14日公表の予想対比

損益（FFG連結）

【公表比】	中間期 実績	前年同期比
業務粗利益	1,101	+25
実質業務純益	400	+63
コア業務純益	433	+101
経常利益 【+55】	405	+20
連結中間純利益（※） 【+34】	279	+17

連結調整

中間純利益（3行単体合算）	355
FFG単体	▲ 42
みんなの銀行関連	▲ 25
子会社損益	▲ 6
その他	▲ 2
FFG連結中間純利益	279

※親会社株主に帰属する中間純利益。

Point 1 コア業務純益は480億円

- ▶ 前年同期比+93億円
- 資金利益の堅調な推移、好調な投信販売を主因とした役務利益の上ブレに加え、統合効果等による経費減少が要因
- ▶ 公表比+61億円
- 国内有価証券利息の上ブレを主因とした資金利益の増加に加え、投信手数料の増加、経費削減により公表比上ブレ

Point 2 信用コストは3億円の繰入

- ▶ 信用コストは3億円の繰入と低位な水準に留まった
- ▶ 前年同期比+74億円、公表比▲ 25億円

Point 3 連結中間純利益は279億円

- ▶ 前年同期比+17億円
- ▶ 公表比+34億円
- コア業務純益の上ブレに加え、前年統合関連費用の剥落もあり、連結中間純利益は前年比、公表比ともにプラス

損益（3行単体合算）

（億円）

	3行単体合算		福岡銀行（単体）		熊本銀行（単体）		十八親和銀行（単体）	
	通期計画	前年比	通期計画	前年比	通期計画	前年比	通期計画	前年比
【公表比】								
業務粗利益	2,083	58	1,396	57	196	7	491	▲ 6
資金利益	1,843	54	1,213	62	184	6	447	▲ 14
国内部門	1,704	30	1,099	40	184	6	421	▲ 16
国際部門	139	24	114	21	0	▲ 0	25	2
非資金利益	240	4	183	▲ 4	12	1	45	7
役務等利益	237	33	176	19	11	1	51	13
特定・その他利益（債券除く）	21	▲ 5	18	▲ 8	1	0	2	3
債券関係損益	▲ 18	▲ 23	▲ 11	▲ 15	0	0	▲ 8	▲ 8
経費（△）	1,162	▲ 62	671	▲ 13	132	▲ 1	359	▲ 48
実質業務純益	922	120	725	70	64	8	133	42
コア業務純益	940	143	736	85	64	8	140	50
経常利益	942	206	766	110	57	▲ 3	119	98
当期純利益	684	110	551	56	42	▲ 5	91	59
信用コスト（△）	32	29	7	▲ 17	4	13	21	33

損益（FFG連結）

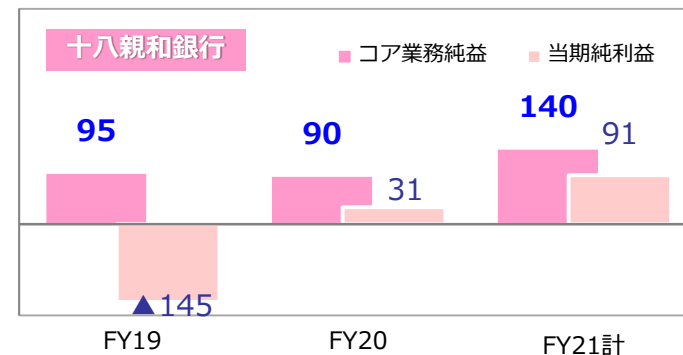
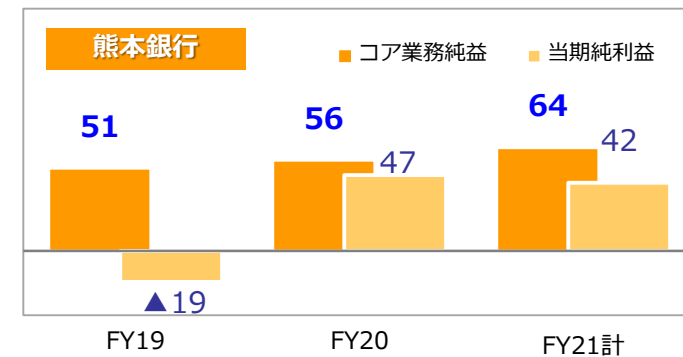
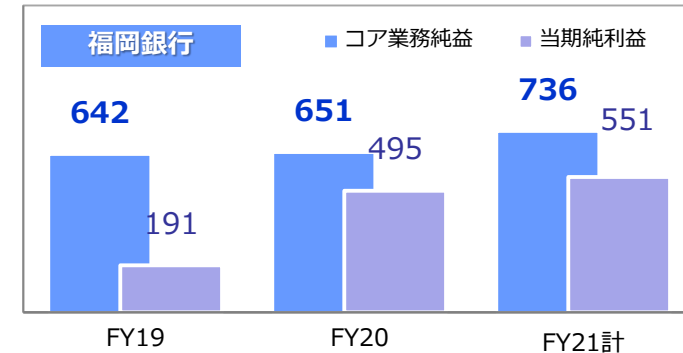
	通期計画	前年比
【公表比】		
業務粗利益	2,236	+64
実質業務純益	809	+121
コア業務純益	827	+144
経常利益	780	+176
連結当期純利益（※）	530	+83

連結調整

当期純利益（3行単体合算）	684
FFG単体	▲96
みんなの銀行関連	▲63
子会社損益	16
その他	▲11
FFG連結当期純利益	530

【銀行別】損益推移

（億円）



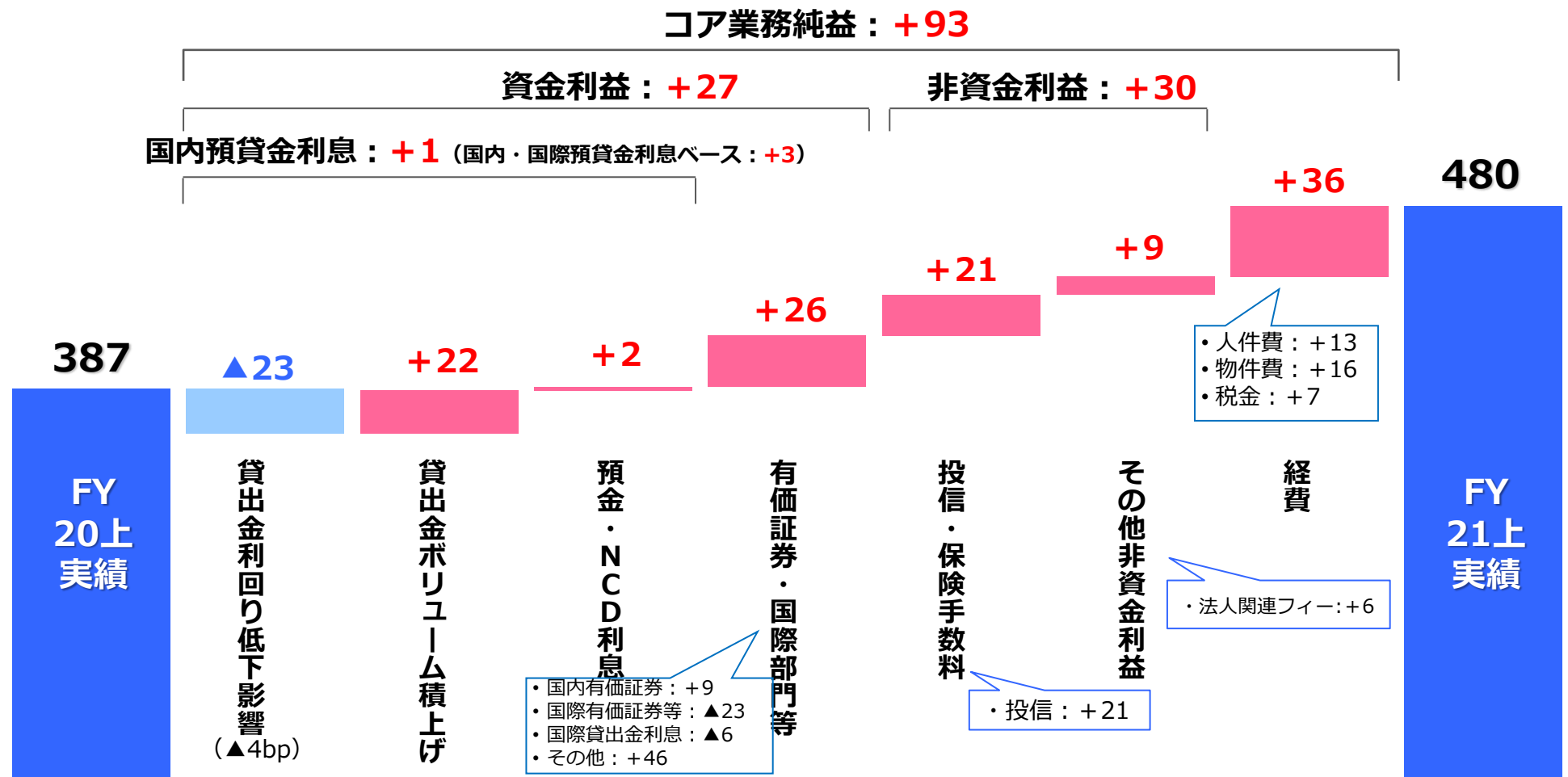
※FY19は単体合算ベース

トップラインの推移① 上期実績

- コア業務純益は、前年同期比+93億円と順調に進捗
- 資金利益は、前年同期比+27億円。非資金利益は投信販売の伸長を主因に、前年同期比+30億円。経費は、十八親和銀行合併によるコストシナジー効果が牽引し、前年同期比+36億円

2021年度上期実績【前年同期比】

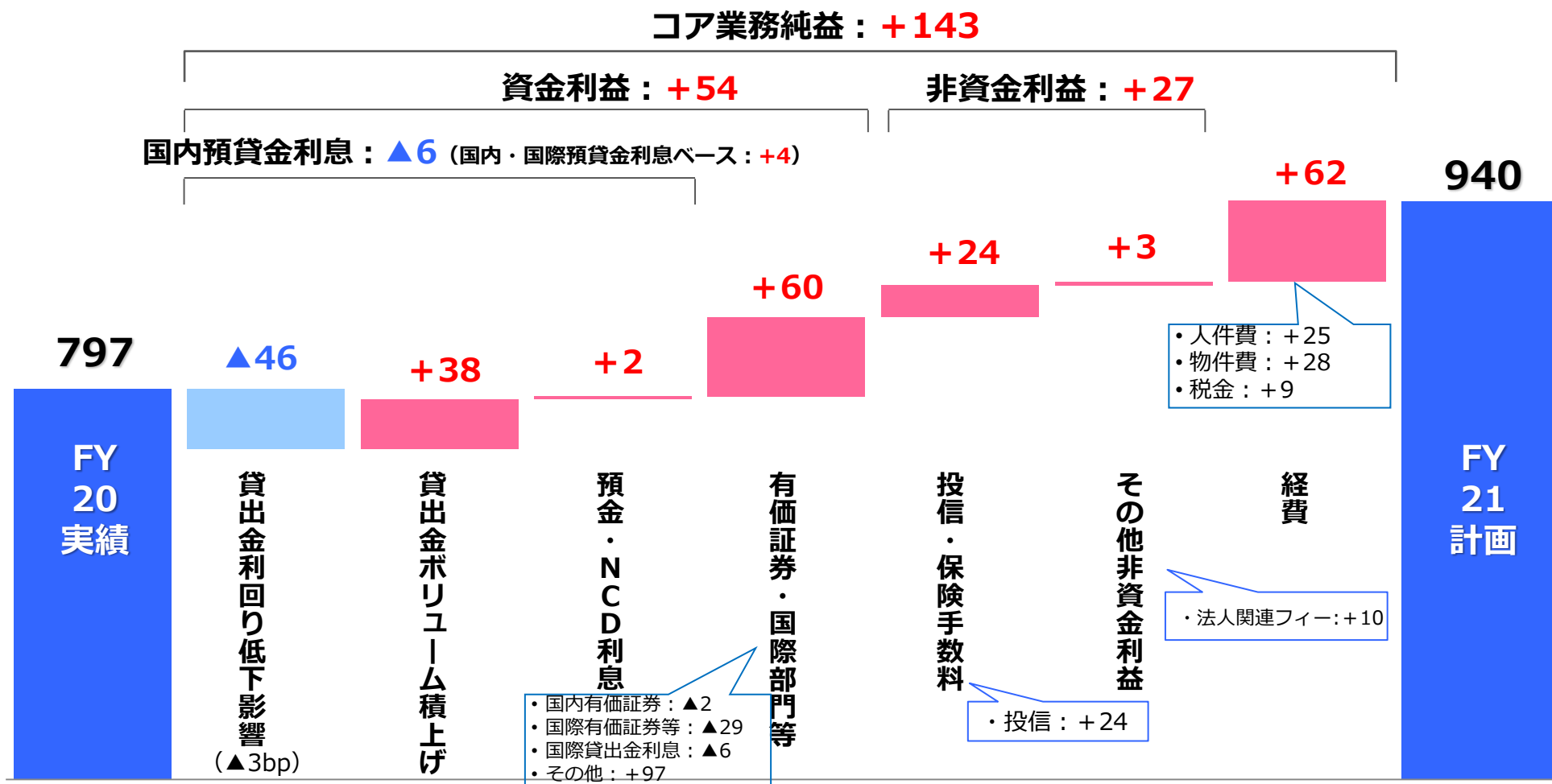
(億円)



- コア業務純益は、前年比+143億円、公表比+100億円の940億円を計画

2021年度通期計画【前年比】

(億円)

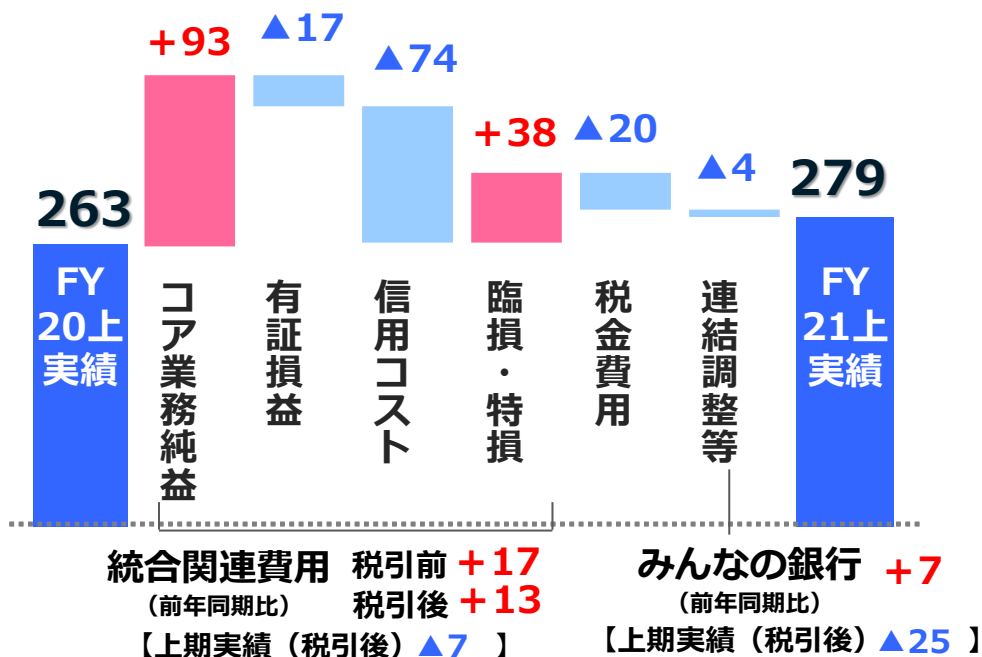


2021年度連結純利益 前年比要因

- 連結中間純利益は279億円（前年同期比+17億円、公表比+34億円）
- 連結当期純利益は530億円を計画（前年比+83億円、公表比+30億円）

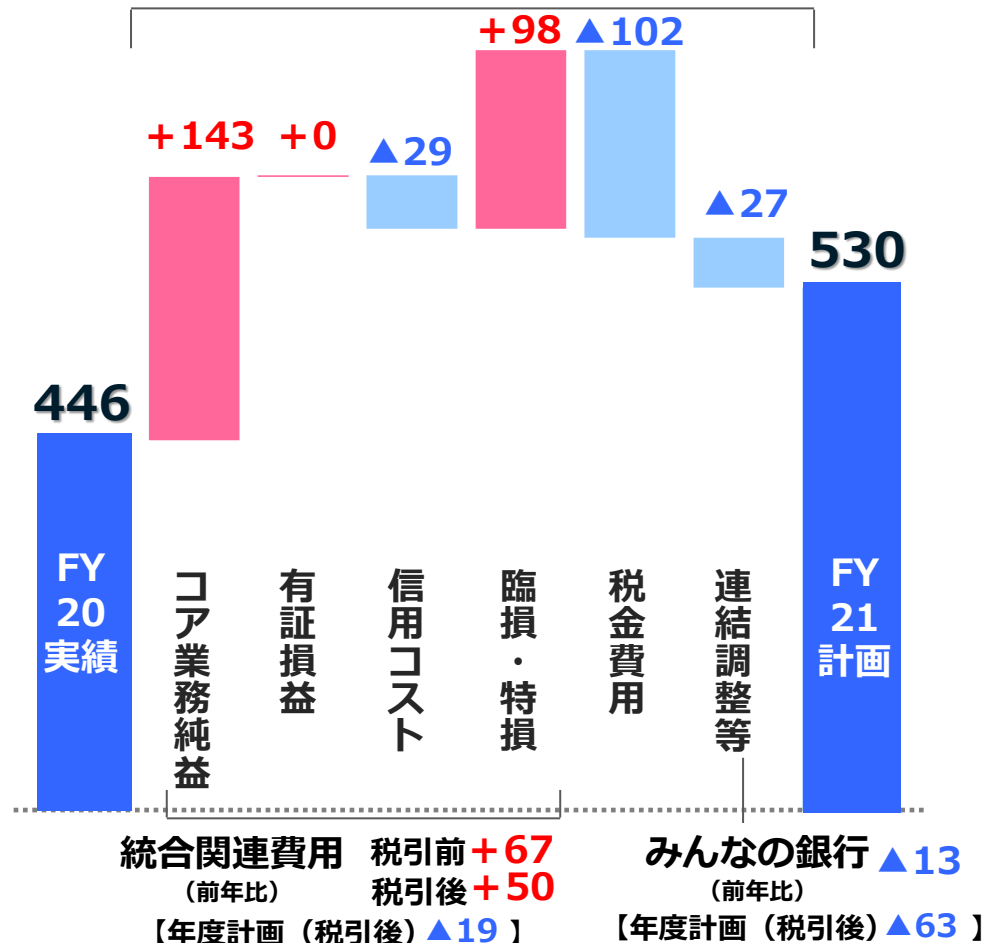
連結中間純利益【前年同期比】（億円）

前年同期比+17（税引後）



連結当期純利益【前年比】（億円）

前年比+83（税引後）



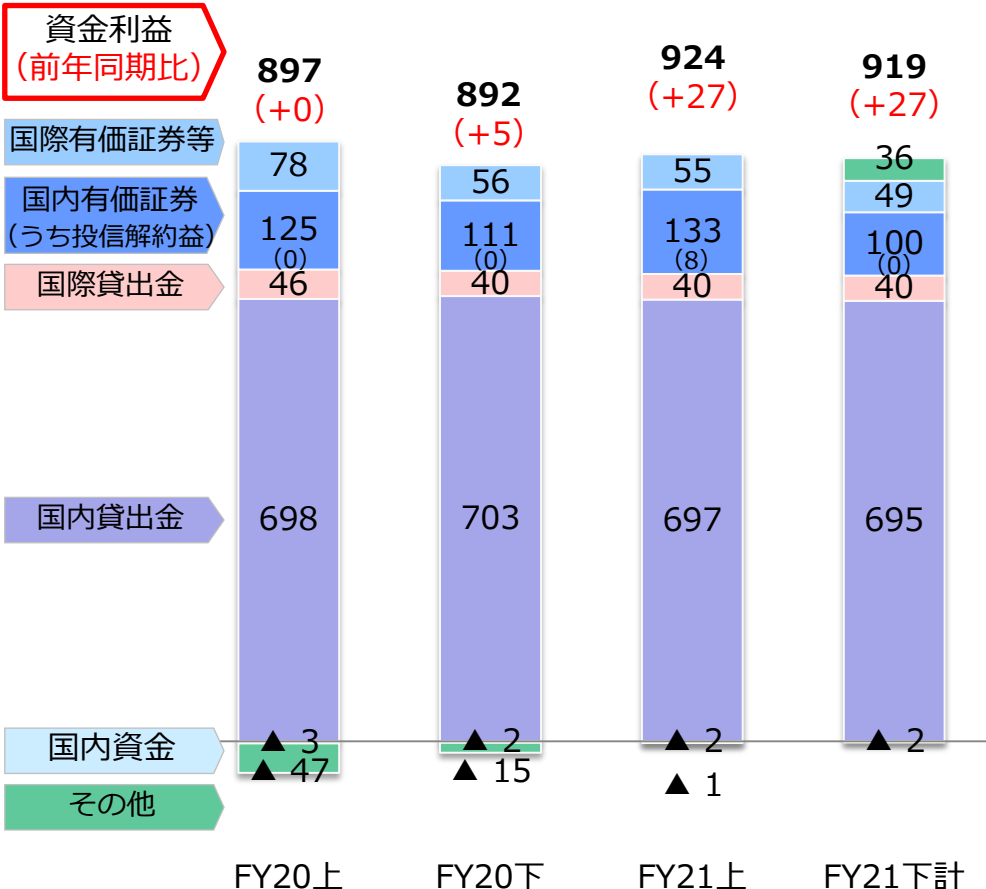
資金利益

- 資金利益は円債償還による収益減少を、有価証券の多様化投資拡大や外貨調達コスト改善により、前年対比で増加を計画
- 国内預貸金粗利鞘は貸出金利回り低下幅の縮小によりほぼ横ばいで推移する計画

資金利益（3行単体合算）

* 国内貸出金・・・FFG向け・政府向け貸出金を除く
* 国内資金・・・国内預金+NCD

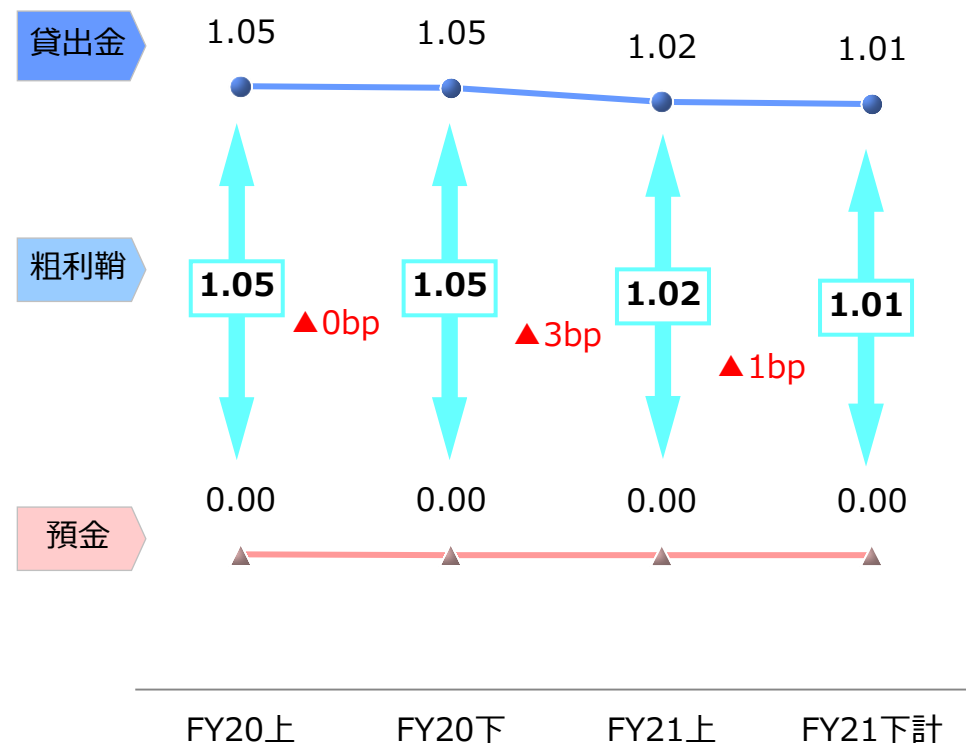
(億円)



国内預貸金粗利鞘（3行単体合算）

* 国内貸出金・・・FFG向け・政府向け貸出金を除く
* 国内資金・・・国内預金+NCD

(%)

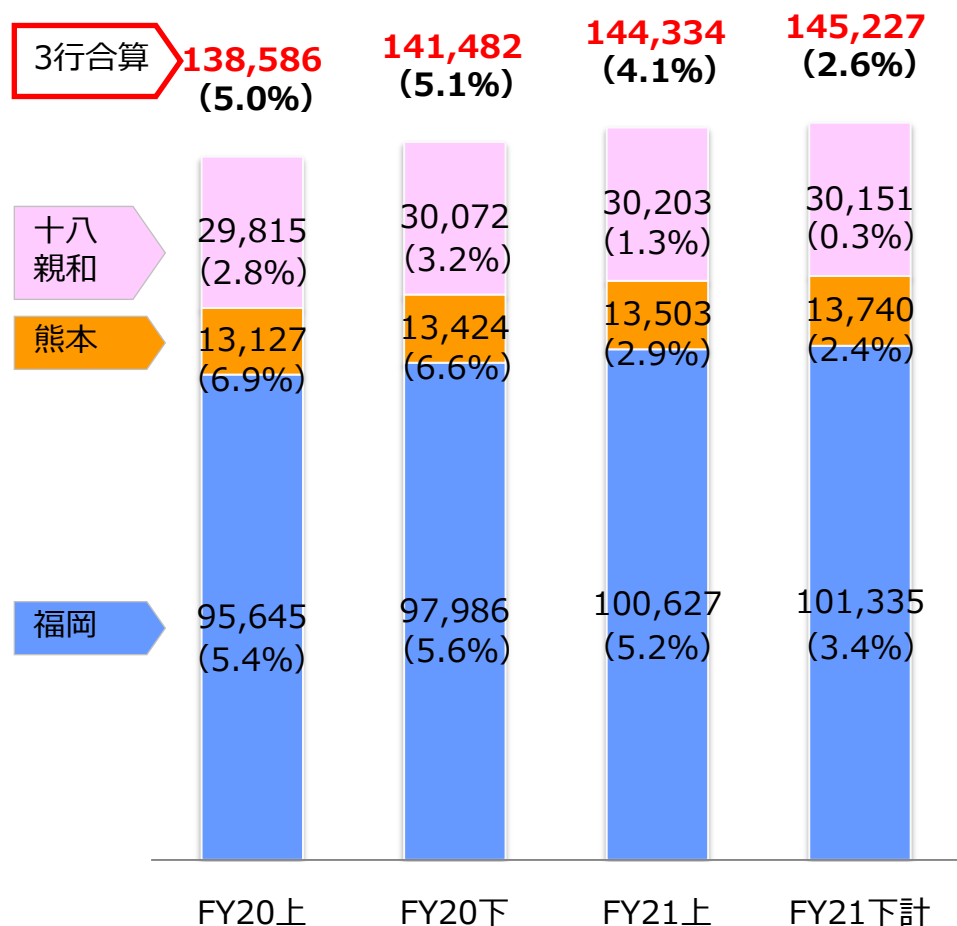


総貸出金平残

- 上期の総貸出金平残は引続きコロナ関連貸出増が牽引し、年率+4.1%と高い年率を維持
- 下期は資金繰り支援を継続するものの、これまでのペースからは一服し、+2.6%を計画

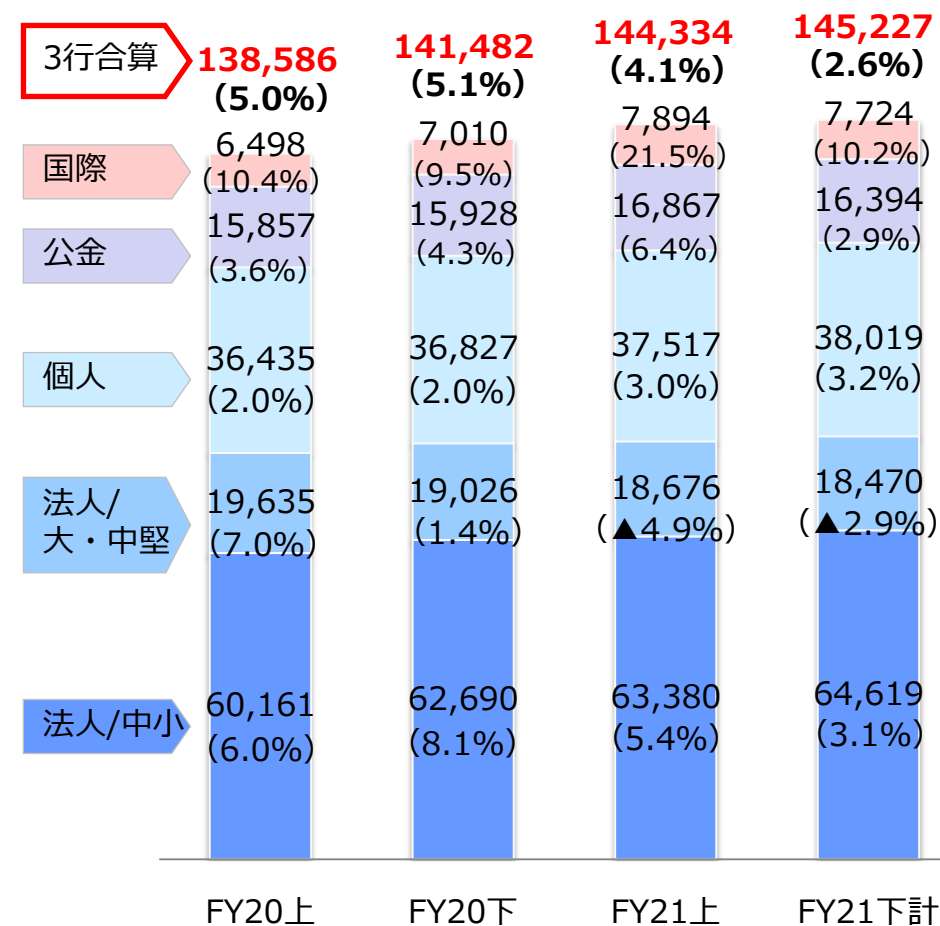
総貸出金（国内＋国際）

* : FFG向け・政府向け貸出金を除く () 内は年率 (億円)



総貸出金（セグメント別）

* : FFG向け・政府向け貸出金を除く () 内は年率 (億円)

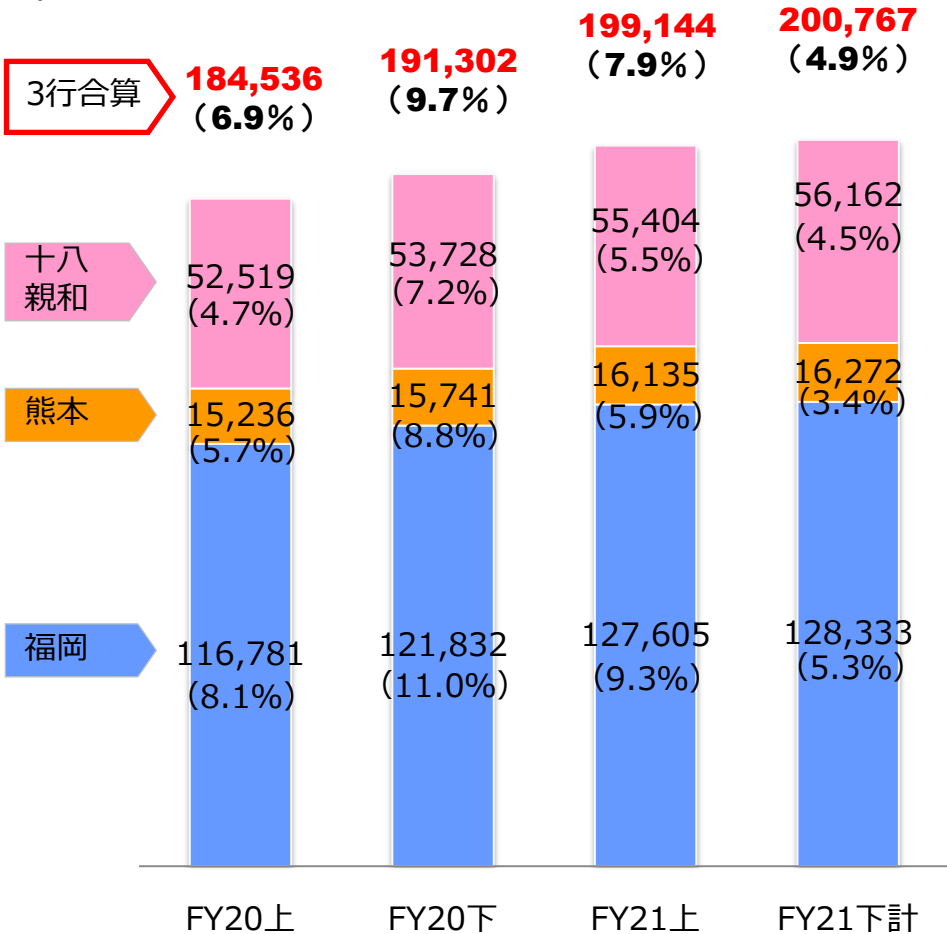


総資金平残（預金+NCD）

- 上期は各行・各セグメントともに、総資金平残は大きく増加
- 下期も引続き増加基調が継続する計画

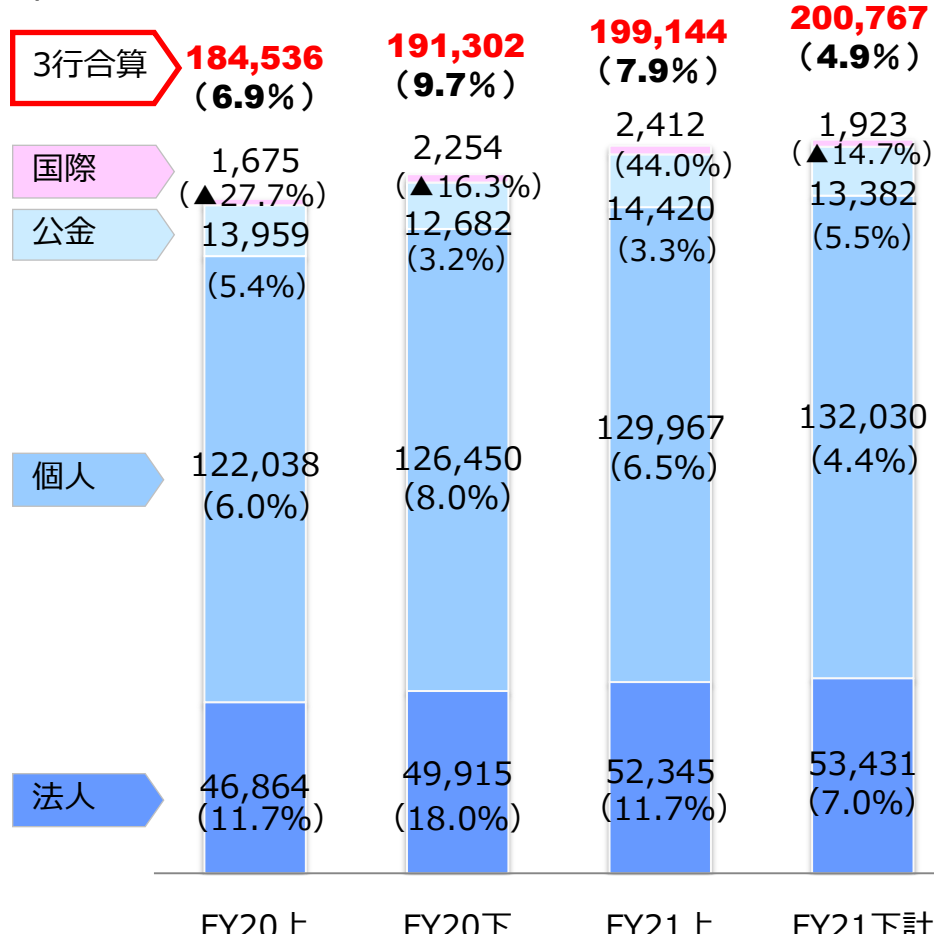
総資金（国内+国際）

() 内は年率 (億円)



総資金（セグメント別）

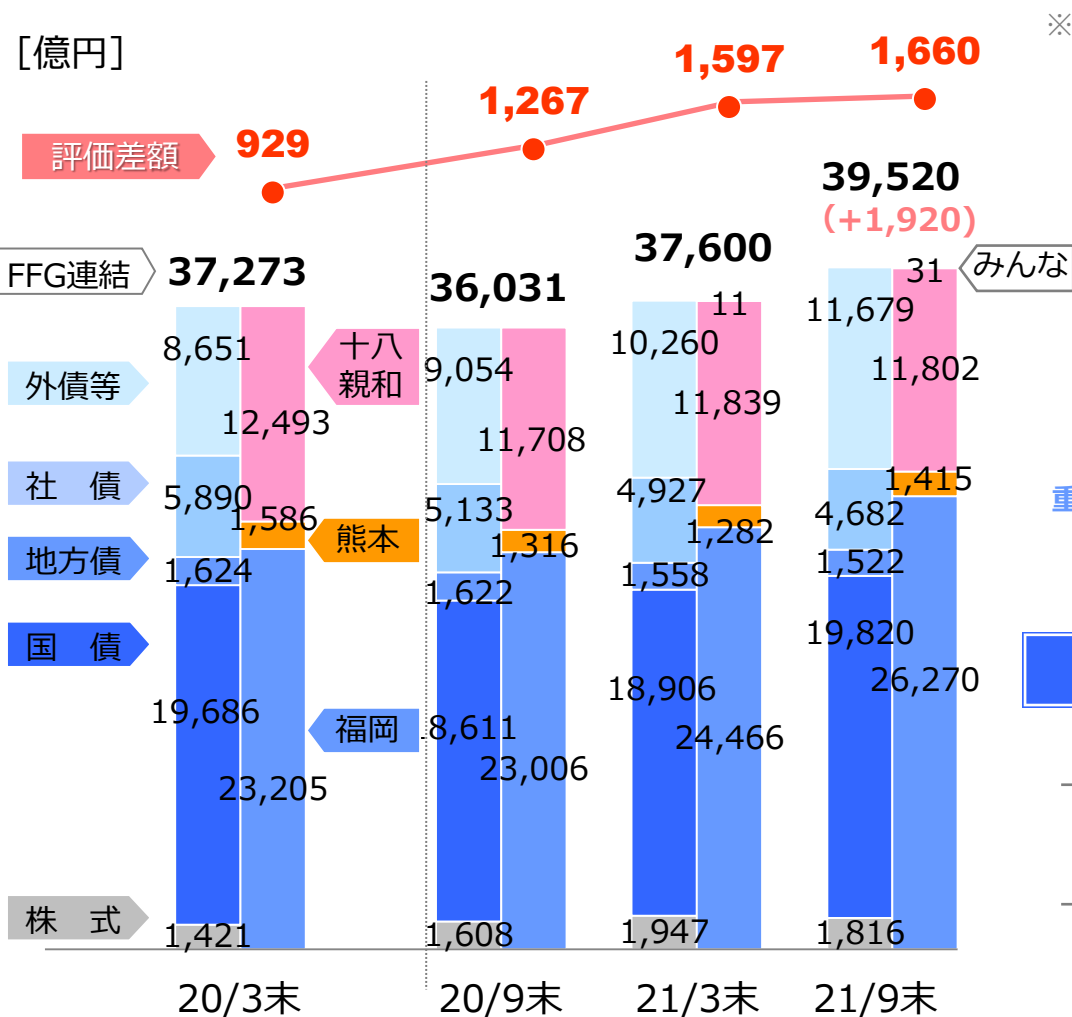
() 内は年率 (億円)



※ セグメント別の内訳は3行で平仄を合わせた残高を記載

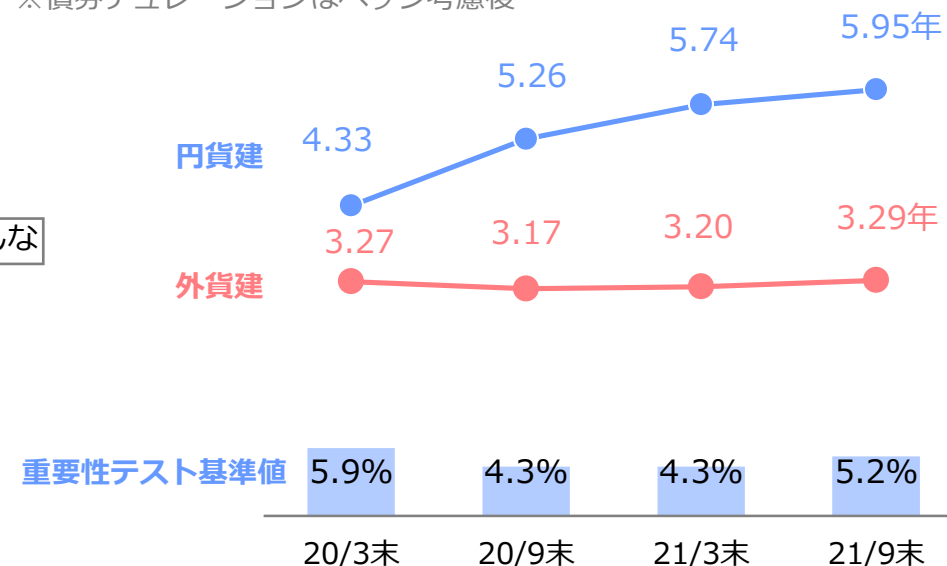
- 2021年9月末の有価証券評価損益は+1,660億円
- 円債デュレーションは長期化したものの、金利リスクに関する重要性テスト基準値は低位

その他有価証券残高・評価差額（FFG連結）



債券デュレーション・重要性テスト基準値

※債券デュレーションはヘッジ考慮後



有価証券関連実現損益（3行単体合算）

〔億円〕	FY19下	FY20上	FY20下	FY21上
株式	0	27	23	49
債券	▲6	5	▲1	▲33
合計	▲6	33	23	16

- 非資金利益は、好調に推移している資産運用商品手数料や法人関連フィーを中心として増強する計画
- 資産運用商品販売は、長期分散投資を意識した販売スタイルをより一層定着させ積上げを図る

非資金利益（3行合算＋FFG証券）

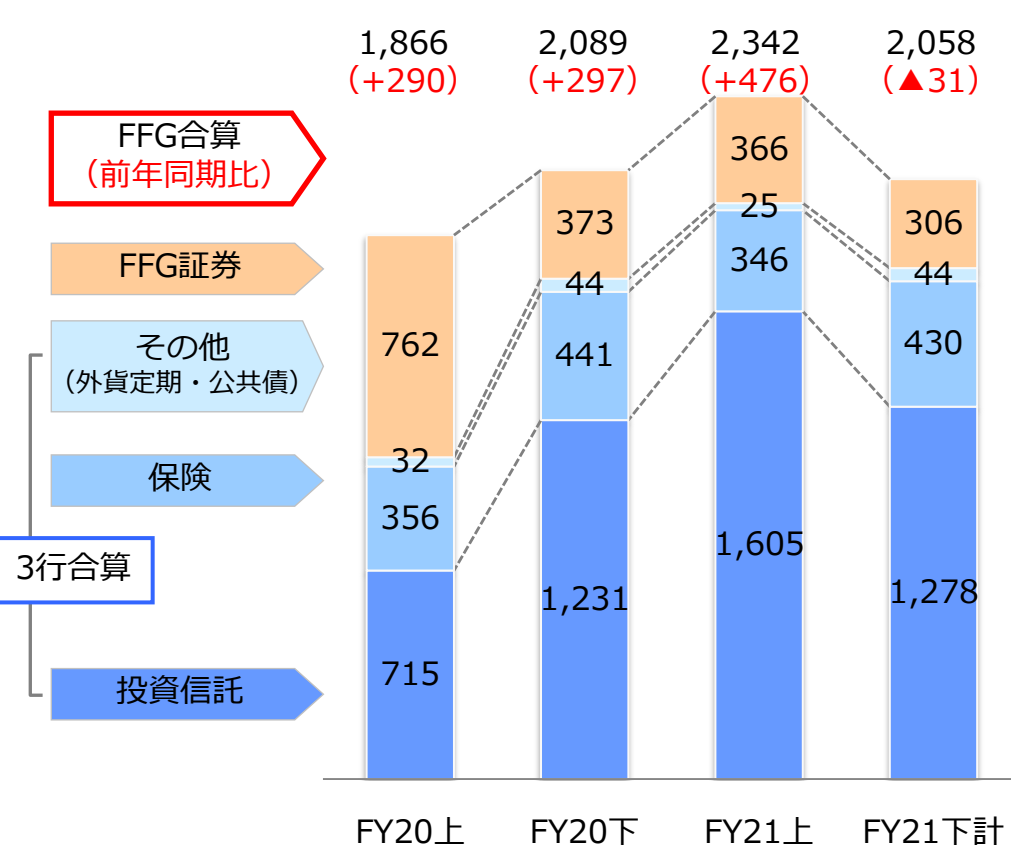
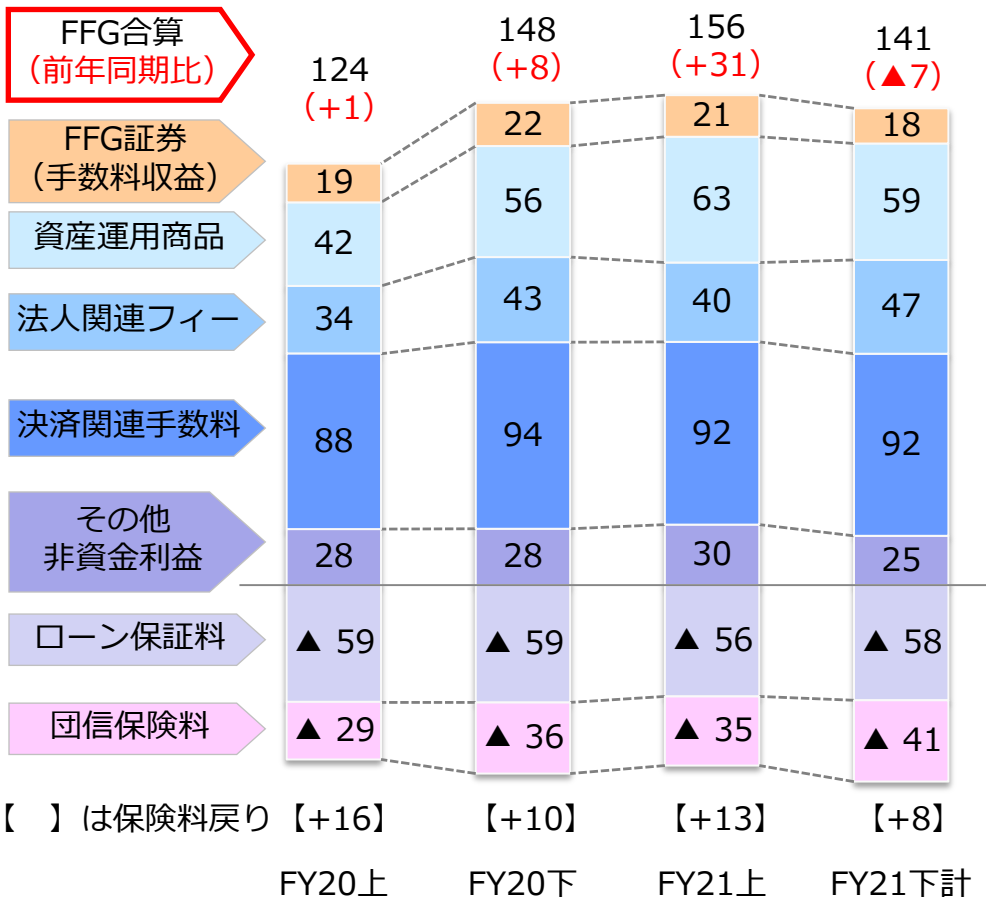
資産運用商品販売額

* 債券関連損益を除く

(億円)

* FFG証券は投資信託・債券販売額の合計

(億円)



- 2021年度経費は、十八親和銀行における統合シナジー効果の実現や3行における経費削減策の展開により、前年度比▲62億円の1,162億円を計画

単位:億円

3行合算経費・連結OHR

(カッコ内は前年比)

連結コアOHR

(3行合算:OHR)

FY20実績 **68.5%**

(57.7%)

FY21計画 **63.3%**

(55.8%)

1,224

1,162(▲62)

3行合算

税金

物件費

人件費

616

114

608

61

53

540

269

271

570

285

284

579(▲36)

106(▲8)

583(▲25)

54(▲7)

51(▲2)

512(▲28)

253(▲16)

259(▲12)

545(▲25)

272(▲13)

273(▲12)

※ コアOHR=経費 / (業務粗利益-債券関連損益)

※ OHR=経費 / 業務粗利益

実績
FY20上

実績
FY20下

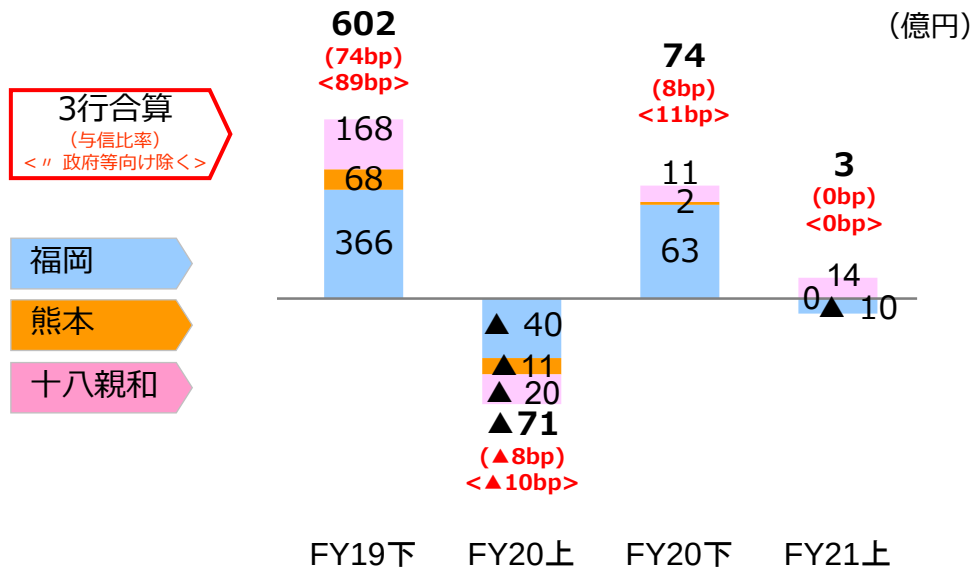
実績
FY21上

計画
FY21下

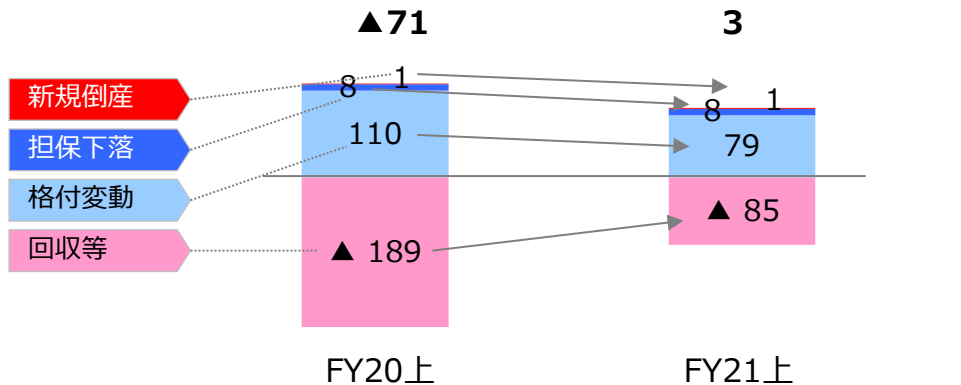
信用コスト・不良債権

- 信用コストは、前年の戻り益剥落により前年比+74億円となるも、3億円の繰入と低位な水準に留まる
- 貸倒引当金は2,000億円超、引当率1.0%と引き続き高水準を維持

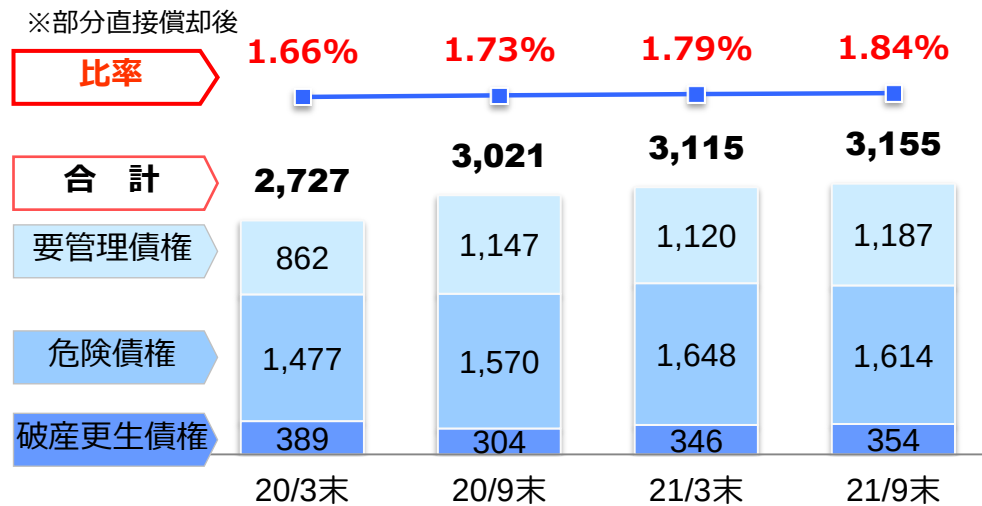
信用コスト（3行合算）



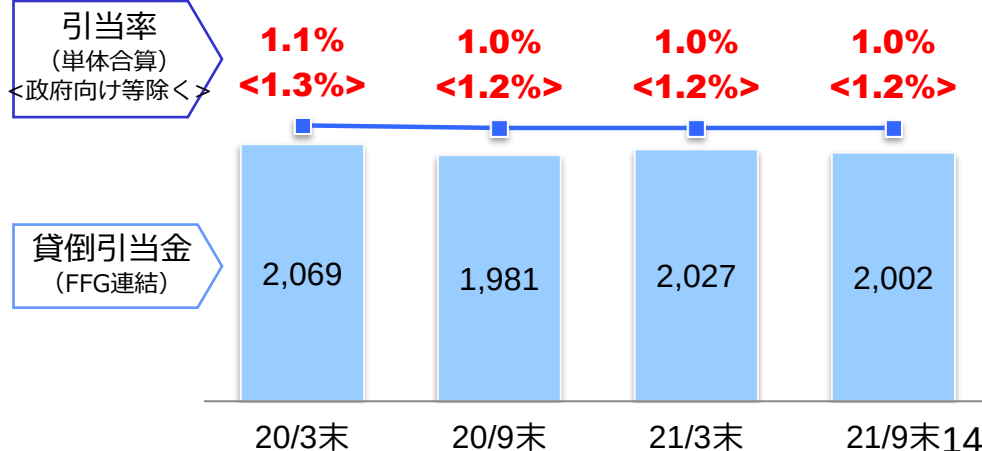
■ FY20上 信用コスト内訳



不良債権残高・比率（3行合算）



貸倒引当金・引当率の推移



Part II

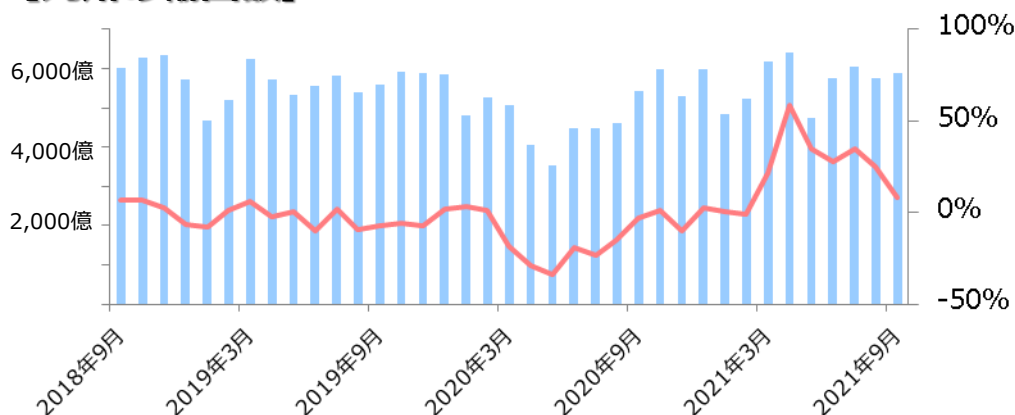
経営戦略

- 九州経済は緩やかな回復を見通すが、引き続き先行きは不透明であり下振れのリスクも想定
- 急速な環境変化は成長の好機。FFGは持続的な成長に向けた取組みを加速

九州経済の状況

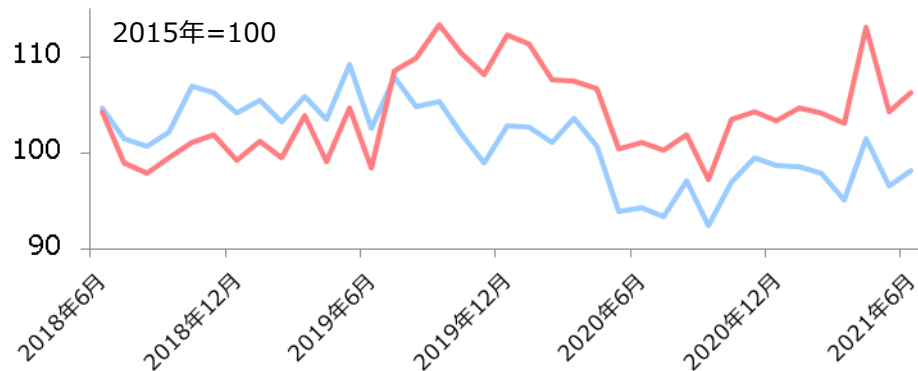
【九州の輸出額】

■ 価額（円） ■ 前年比 出所：九州経済調査協会



【民間企業設備投資】

■ 全国 ■ 九州 出所：九州経済調査協会

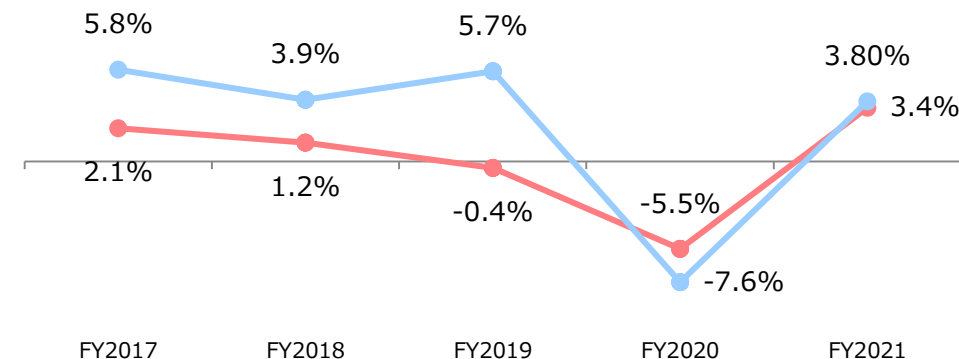


今後の見通し

【九州域内総生産】

出所：九州経済調査協会

● 域内総生産 ● 民間設備投資



【新型コロナウイルスへの対応】

経済の下ぶれリスク

- 感染収束時期は不透明
- 債務負担増大による倒産懸念

据置期間の終了

- FY23をピークに無利子融資の元本返済開始

本業支援に注力

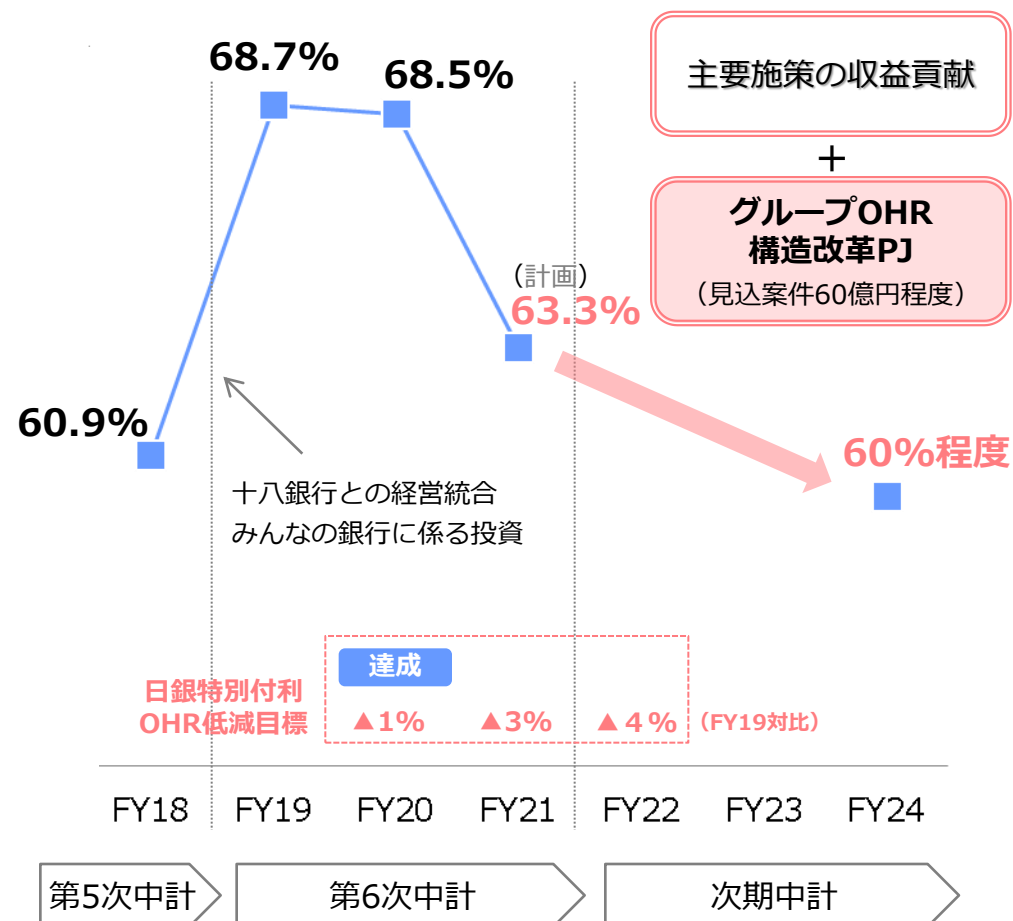
- 経営改善支援
- 事業再生
- M&A・事業承継
- デジタル化支援
- SDG s 支援

- 第6次中計の主要施策はいずれも順調に進捗し、順次投資効果が実現。次期中計以降に本格化
- 主要施策の収益貢献と経費削減により、FY24の連結コアOHRを60%程度に改善

主要施策の進捗

これまでの取組み	成果
業務改革 - 店頭タブレット導入 - 取引電子化・RPA/AI-OCR	▲1,800名※の人員捻出効果を実現 (FY21迄) ※十八親和銀行合併効果含む - 成長分野、新事業への人員再配置
新投信ビジネス - 投信のパレット展開 - 営業スタイルの変革	- ポートフォリオ提案の定着 - 投信パレット残高1,300億円、契約者数28,000名超 - 積立投信契約40億円/月
十八親和銀行 - 合併・システム統合 - 店舗統合・関連会社集約	- コストシナジー59億円 (FY21) - 収益シナジー29億円 (FY21) 38店舗統合完了(10月末)
みんなの銀行 - デジタルバンクの新設 - 新たな金融体験の提供	- 口座数17万件 (11/14時点) - 全国のデジタルネイティブ世代の顧客獲得 - パートナー支店 (BaaS事業) の展開

OHR構造改革



- 中小企業向け貸出金はFY21上半期 + 5.4%と高い年率で進捗。法人債務者先数も増加し基盤拡大
- 取引先の事業全体のサポート “本業支援” に取組む中で、法人ビジネスの持続的な成長を図る

【事業承継】新会社設立によるエクイティの活用強化

FFG成長投資

2021年内
1号ファンド出資予定

- 株主として能動的に事業回復や成長に貢献
- 取引先サポートの選択肢拡大
- FFG人財によるハンズオンの経営支援

【M&A】アライアンスを含めた成長戦略を検討

取引先の高いニーズ

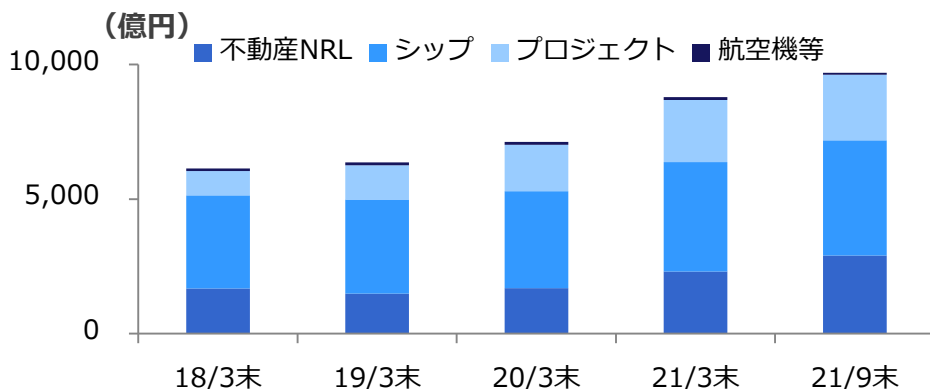
FFGメインバンク先4万社※

※出所：株式会社帝国データバンク「全国メインバンク動向調査（2020年）」



活況なM&Aマーケット
情報・ネットワーク

【ストラクチャードファイナンス】残高1兆円：ノウハウの地元還元



ベンチャー企業と銀行・地域企業の連携強化

ベンチャー投資

投資先

83先

残高

67億円

出資先企業のテクノロジー活用事例

YOLO Card	在留外国人向け後払いチャージ機能付VISAプリペイドカード
ファンズ・レンディング	クラウドファンディングを活用した地域企業支援
AI-OCR with RPA	人工知能とソフトウェアロボットを組合わせた振込業務効率化

十八総合リースを活用したリース事業拡大

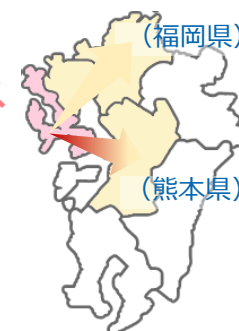
十八総合リース

● 長崎県を基盤

- 営業エリア拡大のサポート
- サービスメニューの拡充
- 人材交流や関連業務の協業



十八総合リース
(長崎県)



- デジタル化支援コンサルティングを展開し、地域企業の課題解決、生産性向上に寄与
- 2020年度に開始した「実証実験プロセス」により、デジタルを活用した商品・サービスを提供

デジタル化支援コンサルティング

- 2019年4月、旧親和銀行・旧十八銀行で開始
⇒2年半の活動で930先から相談受付、340先課題解決
- 2021年10月、福岡銀行、熊本銀行へ展開
⇒開始1ヶ月で200件超の相談あり
- 経済産業省とIT導入補助金等各種支援策について、効果的・効率的な活用を社会実験として検証中



新サービス・ビジネス開発

利便性の高い金融サービスをスピーディーに開発・提供
(デジタルサービスの内製開発にチャレンジ)

□ API 基盤利活用

□ データ利活用

□ アジャイル開発

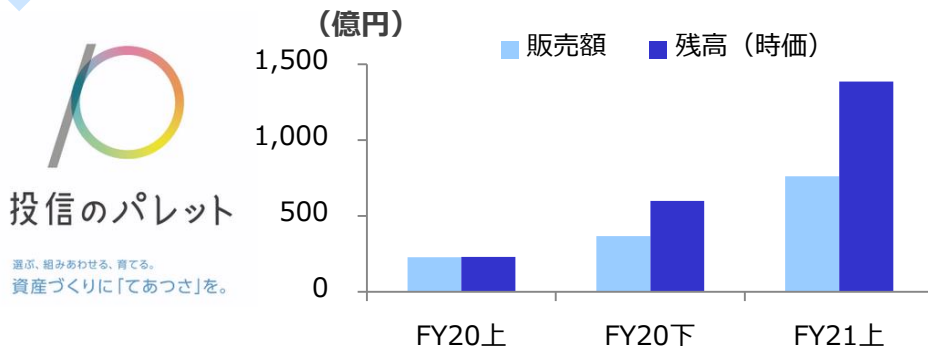
項目	取組例
商用化済	□ オンラインレンディング「フィンディ」 □ 中小企業向けERPサービス「EASYBIZ」 □ 南島原市における地域通貨「MINAコイン」
実証中	□ 更新系APIを活用した口座振替受付サービス「こうふりネット」(12月商用化予定) □ 法人デジタル通帳「DataBiz」 □ オンラインファクタリング 等

- 「投信のパレット」を中心とした営業スタイルの変革 “新投信ビジネス” は着実に進捗し、成果が顕在化
- iBankとの連携強化による顧客接点最大化と利便性の向上により、個人ビジネスの持続的な成長を図る

新投信ビジネス

営業スタイルの変革：ポートフォリオ型営業の確立

- FFG独自の評価・分析システムの開発～専門人財（TAC）育成
- 福岡銀行「投信のパレット」リリース
- オンライン相談サービス・定額換金受取サービスがスタート
- 熊本銀行、十八親和銀行「投信のパレット」リリース



投信のパレット

選ぶ、組みあわせる、育てる。
資産づくりに「てあつさ」を。

投信手数料推移

→投信パレットスタート

（3行合算）	FY19上	FY19下	FY20 上	FY20下	FY21上
販売手数料	9	14	12	22	30
信託報酬	15	14	13	14	17

デジタルチャネル（iBank連携）

Wallet+による顧客接点の最大化

連携金融機関

全12行

累計DL数

170万DL



月間接触累計人数
319万回
（前年比+27%）

最大化

使いやすい
UI/UX

非金融も含む
様々な機能

PDCAに基づく
コミュニケーション

継続的な
機能の高度化

FFGとiBankのマーケティング機能統合

FFGへの貢献

FFG&iBank

iBankの成長

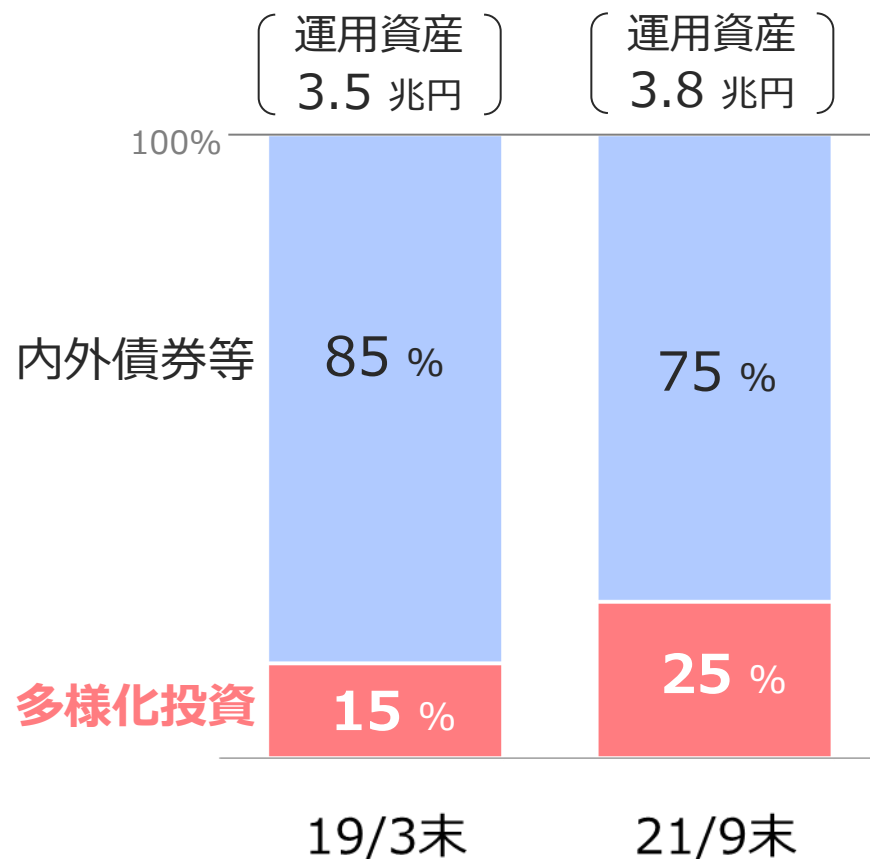
- 顧客接点の拡大
- Wallet+→銀行チャネルへのシームレスな送客
ex：積立投信・カードローン
- マーケティング機能高度化



- Wallet+ユーザー拡大
- Wallet+機能拡張
- データ分析強化
- 非金融領域の拡大（WEBマーケティング・地域総合商社）

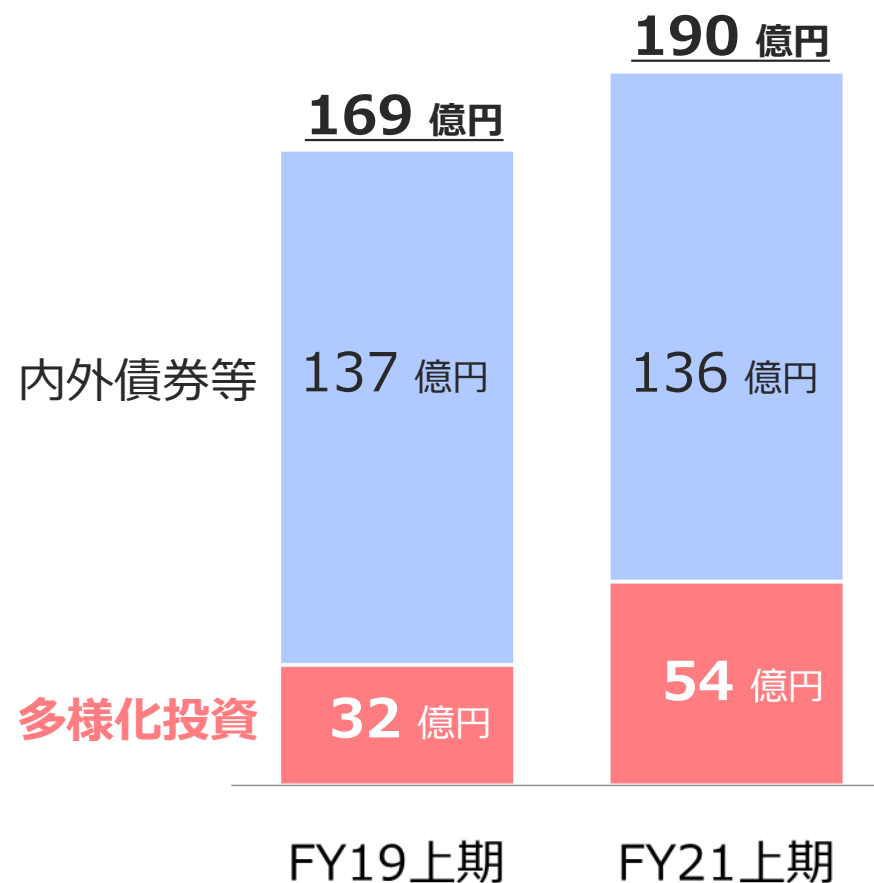
- 今中計期間中の多様化投資は順調に進捗し、市場運用収益は拡大
- 局面変化への柔軟な対応で投資効率を改善し、市場運用をFFGの新たなビジネス展開の原動力へ

今中計のポートフォリオ構成変化



* 純投資有価証券の連結簿価残高（旧十八銀行を含む）

市場運用の収益構造変化



* 売買損益および投信解約損益を除く（内部管理計数）

- SDGs 支援会社「サステナブルスケール」は2021年11月にスコアリングサービスをスタート
- サステナビリティに対する認識や取組みは急速に進化。気候変動対応は経営戦略上の重要課題

SDGs支援（サステナブルスケール）

スコアリングモデルを起点とした取引先サポート

Sustainable Scale Index



評価結果による対話
～企業の動機付け～

- 取組状況や考え・ノウハウの共有
- 企業・銀行双方での課題認識

優先課題への対応
～解決策の提案実践～

- 企業が取組む優先課題の選定
- 課題解決に向けたビジネスマッチング

目標設定・計画導入
～SDGs 経営定着へ～

- 社内体制整備・SDGs関連目標設定
- 事業承継やM&A等の具体策支援

気候変動対応

シナリオ分析結果

	物理的リスク	移行リスク
分析対象としたリスク事象	● 風水災による担保物件の毀損 ● 与信先の事業停止に伴う財務悪化	● 脱炭素社会への移行に伴う売上高減少やコスト増加による、与信先の財務悪化
分析結果	● 2050年までに発生し得る追加信用コスト 最大 50億円	● 2050年までに発生し得る追加信用コスト 累計 140～210億円

指標と目標（2030年度まで）

- サステナブルファイナンス累積実行額2兆円（内、うち環境ファイナンス1兆円）
- 自社CO2排出量削減目標⇒年度内に策定予定

持続的な利益成長

- “主要施策の投資効果”は次期中計期間中に本格化
- 加えて、“新たな成長戦略の推進”と“経営効率の向上”を図り、持続的な利益成長を実現する

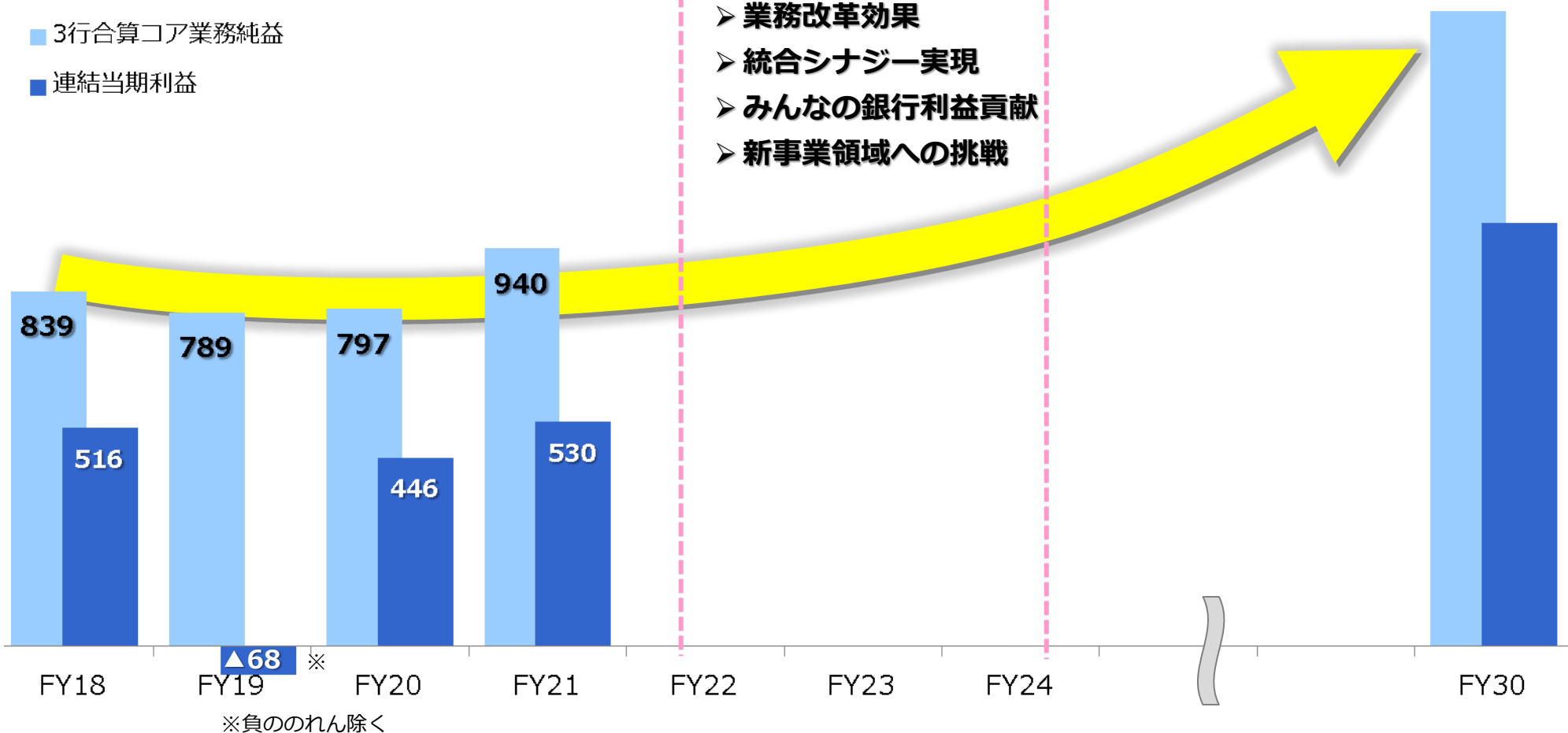
第5次 第6次中計 第7次期中計 第8次中計以降

(単位：億円)

■ 3行合算コア業務純益

■ 連結当期利益

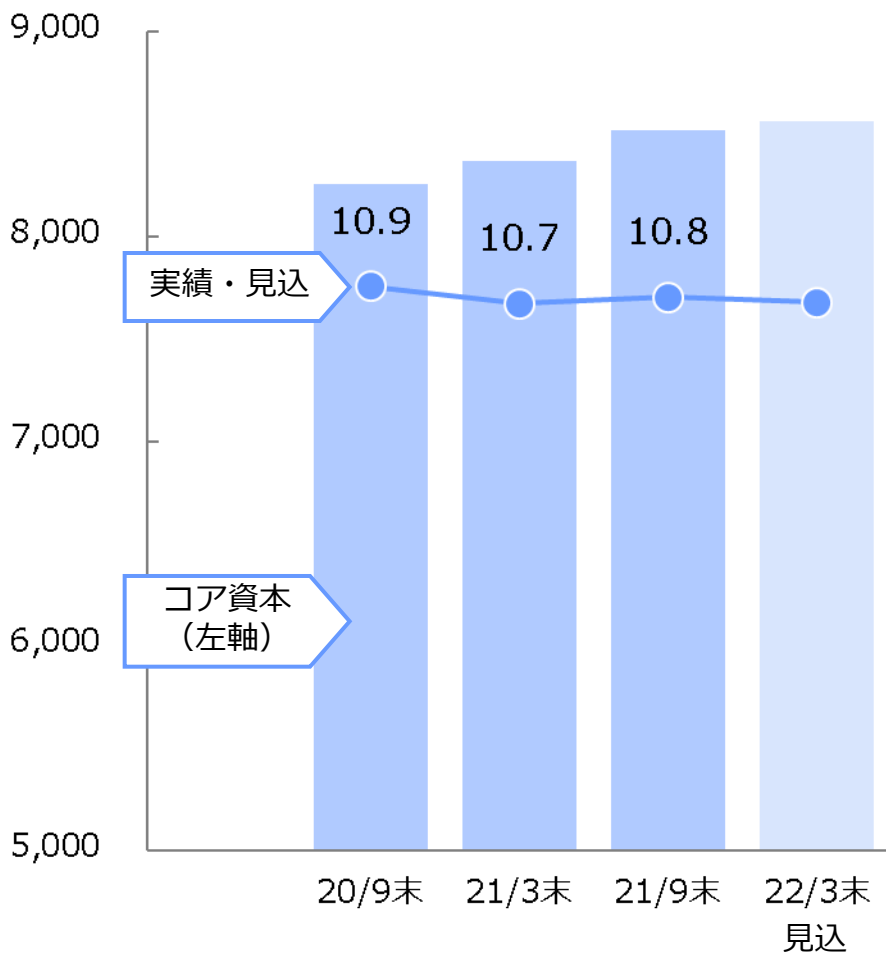
- 業務改革効果
- 統合シナジー実現
- みんなの銀行利益貢献
- 新事業領域への挑戦



資本政策・株主還元

- 資本の健全性維持を前提に、株主還元と企業価値向上に向けた成長投資を行い、バランスのとれた資本運営を目指す

自己資本比率（FFG連結）（億円、％）



資本政策

資本政策

- 健全性の維持を前提に、成長投資と株主還元のバランスをとった資本運営を目指す

株主還元

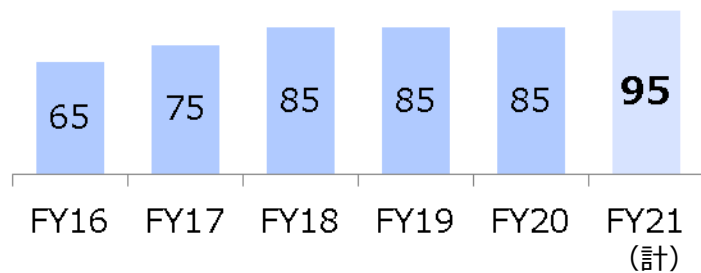
- 安定的な利益成長による継続的な配当（維持・増配）を目指す
- ✓ **配当性向：35%程度**
（配当目安テーブルを設定）

配当方針

2021年度

- 連結当期利益500億円～550億円の配当目安テーブルに沿って**年間95円（増配）**を計画

1株あたり 配当額推移 （単位：円）



Part III

みんなの銀行

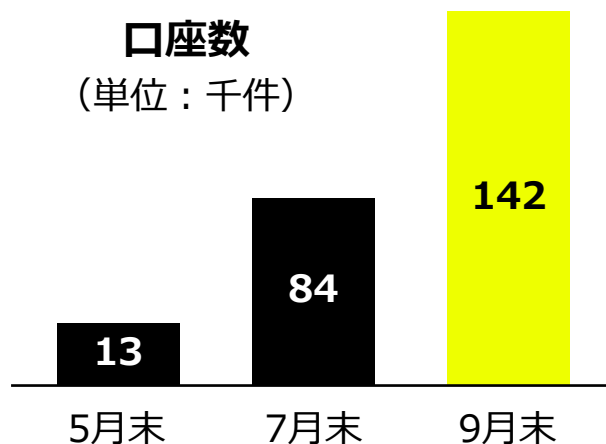
- 当初の狙いどおり「デジタルネイティブ世代」を中心として順調にユーザーを獲得

口座数・ダウンロード数

142千件

口座数
(単位：千件)

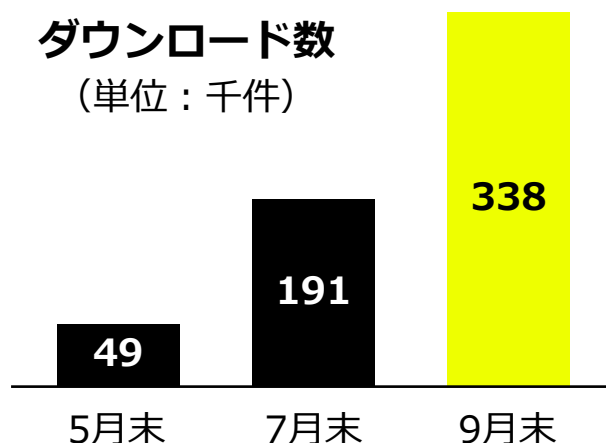
172千件
(2021.11.14時点)



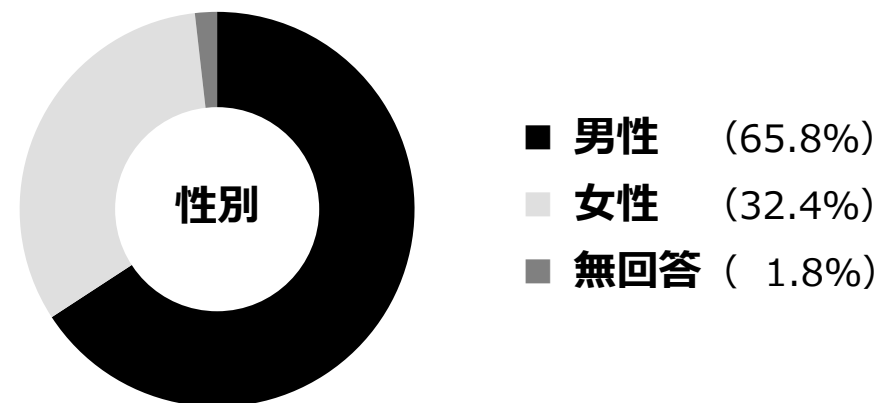
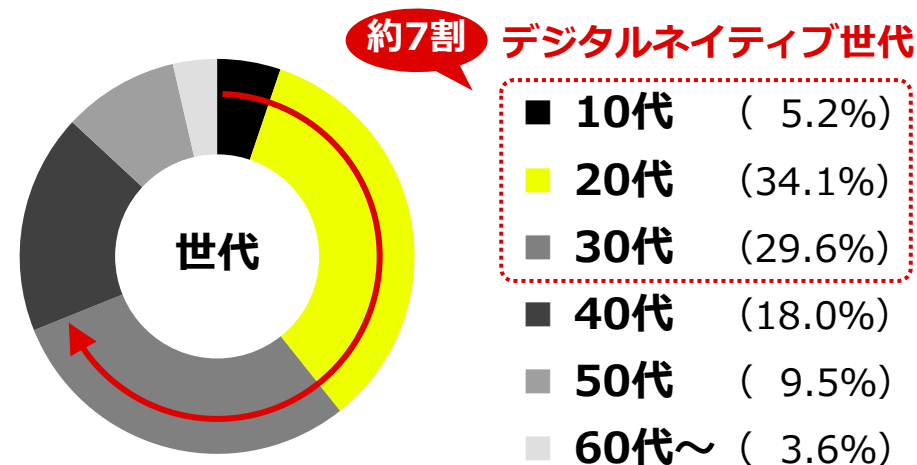
338千件

ダウンロード数
(単位：千件)

433千件
(2021.11.14時点)



ユーザー属性（年代・性別）

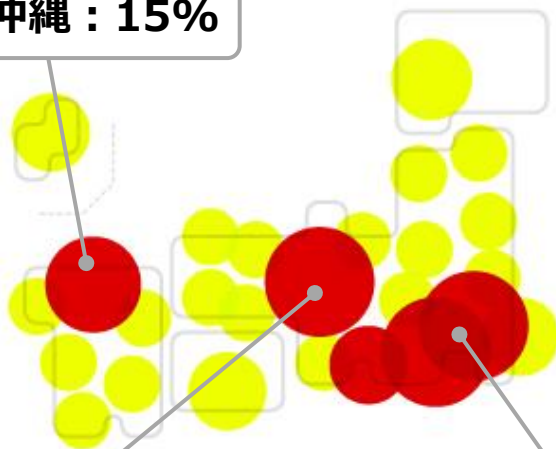


※2021年9月末時点

- お友だち紹介プログラムとSNSを効果的に活用し、全国から満遍なくユーザーを獲得

ユーザーのエリア分布

九州/沖縄：15%



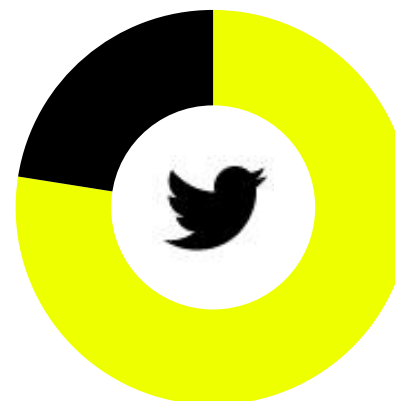
関西圏：16%

関東圏：42%

ユーザーが多い
都道府県
(都道府県別割合)

1位	東京	(15%)
2位	大阪	(8%)
3位	福岡	(8%)
4位	神奈川	(7%)
5位	愛知	(6%)

お友だち紹介（リファラル）プログラム



お友だち紹介プログラム
経由での口座獲得割合

77.5%

SNS（主にTwitter）を通じて
効果的な情報拡散に成功

■ 各サービスの利用率（一部）

項目	アプリ 利用率	入金率	デビット 利用率	口座 解約率
<u>リファラル 経由</u>	<u>44.7%</u>	<u>29.0%</u>	<u>28.6%</u>	<u>2.4%</u>
それ以外	36.9%	23.7%	13.4%	8.0%

- 徹底した“お客さま起点”で開発されたサービスは、実際のユーザーからの反応も好意的

提供中のサービス（1/2）

口座開設

- ✓ 24時間365日いつでも口座開設
- ✓ 手続きにお客さまからの書類の郵送は一切不要(スマホ完結)
- ✓ ビデオ通話による本人確認
- ✓ 開設対象者は15歳以上の個人



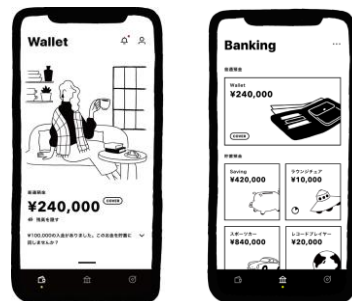
ユーザーの声（SNS・アプリストア等から抜粋）

口座開設

- ・ 面倒な郵送など皆無。ネット経由で撮影、確認が数分で終わり、その後の審査も10分程度で完了しました。このご時世ですし外出せずに家にいて口座開設できるのは有難いです。
- ・ これは革新。UIも非常に直感的で、情報量が非常に少なく、銀行アプリにありがちな「読み込む」動作がいない。

Wallet

- ✓ お財布感覚で使える普通預金
- ✓ 全てのサービスがカードレスでスマートフォン完結
- ✓ セブン銀行ATMでスマホ入出金
- ✓ QRコードを利用した簡易振込



Wallet

- ・ スマホひとつで超便利。cokeONアプリなどと紐付けて毎日の飲み物代支払いに利用してます。バイクで良く出かけるので、小銭持つてく必要がなくなって超便利。
- ・ 従来の銀行及び銀行アプリの比較にならないくらい使いやすいから最高。

Debit Card

- ✓ 口座開設と同時に発行されるバーチャルデビットカード（年会費無料）
- ✓ カードレスだから口座開設後すぐに決済可能（JCBブランド）
- ✓ オンライン決済／スマホ決済



Debit card

- ・ リアルカードの発行の必要が無いので口座を開設したその日から使えるのは仕事が忙しい人からするととてもありがたいし面倒なやりとりが省けて楽ちん。
- ・ みんなの銀行デビットカードはapple payに紐付けられるから実質的にSuica支払いのところでも使える。案外この組み合わせで結構いけそう。

- 徹底した“お客さま起点”で開発されたサービスは、実際のユーザーからの反応も好意的

提供中のサービス（2/2）

Box

- ✓ 普通預金と同時開設の貯蓄預金
- ✓ 最大20個の「ボックス」で、指先ひとつで目的別管理（利用料無料）
- ✓ 日次・週次・月次・年次周期での柔軟な自動積立設定が可能



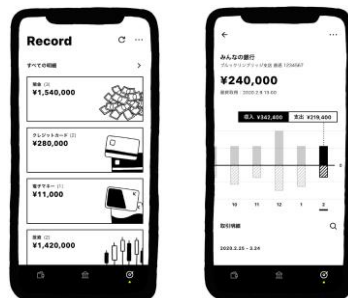
ユーザーの声（SNS・アプリストア等から抜粋）

Box

- ・ 旅行費、化粧品、教育費、医療費、へそくりで使っています。銀行口座をいくつも振り分けていたのですが、このアプリ1つで目的ごとにお金を簡単に振り分けれるのでとても助かる。
- ・ 1つの口座に20個まで目的別の口座を作れるのが最高です。貯金用の口座と生活費の口座を分けられてお金の管理もしやすくなりました。

Record

- ✓ マネーフォワード社と協働により開発した資産管理機能
- ✓ 1,300以上の金融機関等と連携が可能で、ハッシュタグやグラフにより他行資産も含めた一元管理ができる

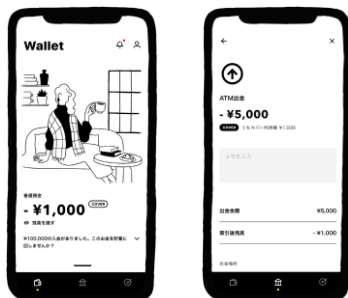


Record

- ・ 他銀行の残高/入出金をまとめて見れる → これもかなり求めてたものでした。私は4つの銀行、5つのクレカがあるので、使い先もまとめて閲覧できるのは重宝しそうです。反映されるのも想像以上にはやいので、下手に使われてしまった！などの防犯対策にも一躍買いそうです。

Cover

- ✓ サブスク型のプレミアムサービスの追加オプション(無料)
- ✓ 最大5万円の当座貸越枠
- ✓ 借入利率は0%、利息負担なし
- ✓ 月々の定額返済不要（あるとき払い）

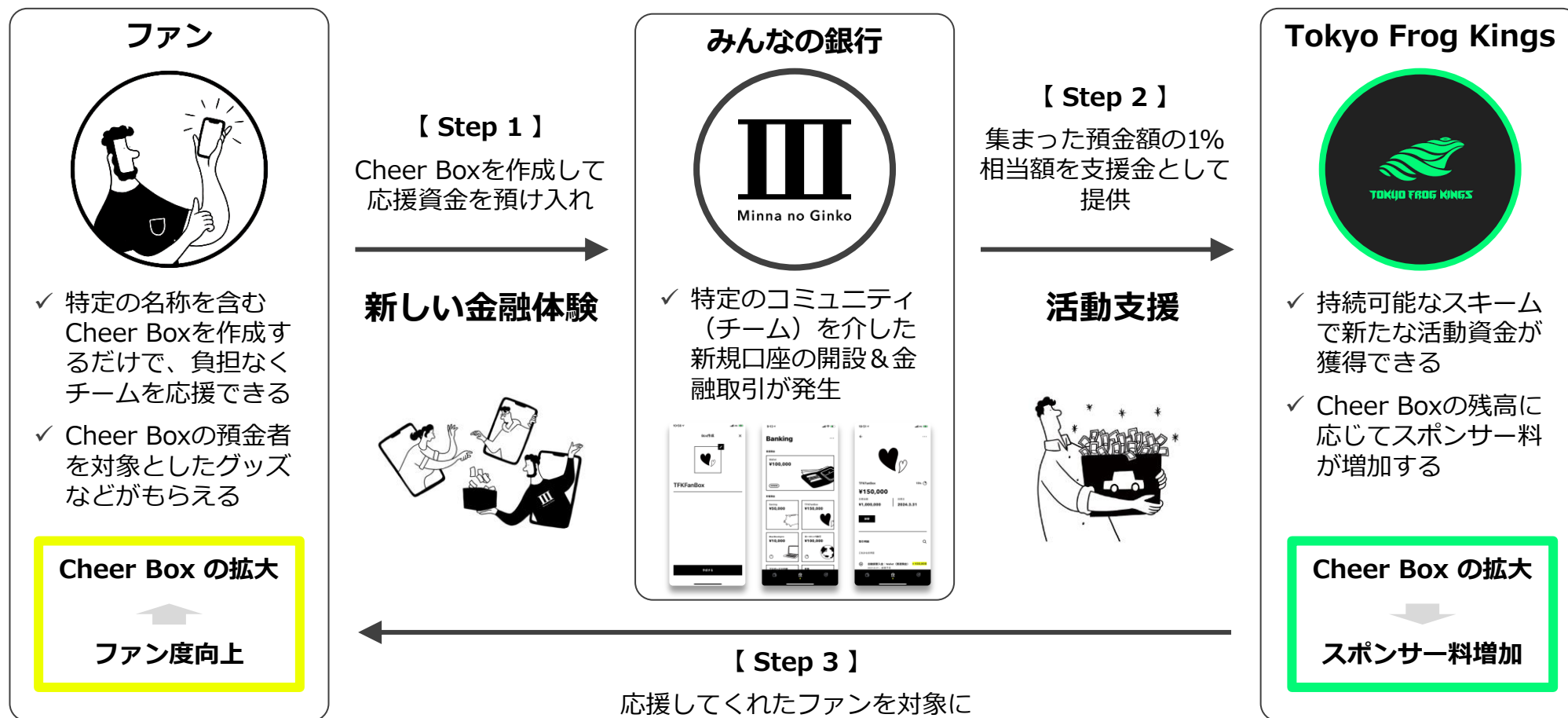


Cover

- ・ coverと呼ばれる当座貸越は利息なし、返済期限なしと銀行業界初のサービスかと。現金で引き出す、振り込む、引き落としで残高不足のときは自動で補填とかなり使えるサービス！
- ・ 本当はPremiumとかすぐ解除するつもりだったのに、無金利で借りられるのはまじで評価されるべきだな。これはみんなの銀行ならではの。

- 2021年8月、みんなの銀行がファンとチームを“つなぐ”プラットフォームになることで、金融を通じた新しいコミュニティ支援のカタチを実現する「みんなのCheer Box」の提供を開始

「みんなのCheer Box」の仕組み

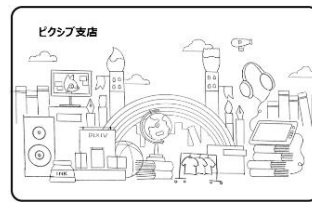


- BaaS事業におけるサービス提供の第一弾として、パートナー企業の世界観を盛り込んだ「パートナー支店」を2つ開設（ピクシブ支店、テンプスタッフ支店）

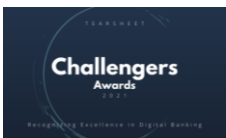
「パートナー支店」の概要

サービス名	パートナー支店
提供チャンネル	みんなの銀行アプリ（スマートフォン）
パートナー企業	① ピクシブ株式会社 ② パーソルテンプスタッフ株式会社
ターゲットユーザー	① ピクシブユーザー L 国内約3,500万アカウント ② テンプスタッフに所属する派遣社員 L 約11万人が派遣社員として稼働中
提供価値	1. みんなの銀行の金融サービスの有効活用 2. パートナーの世界観を盛り込んだデザイン 3. 共同マーケティング施策の展開 4. 将来的にAPI連携も含めたサービスの高度化（パートナー支店ならではの機能追加）
サービス開始	① ピクシブ支店：9/30日開設 ② テンプスタッフ支店：10/2開設
特記事項	- 口座開設時に個人情報の第三者提供同意を取得、その範囲内で共同マーケティングを展開 - 銀行代理業等のライセンスは原則不要

（例）ピクシブ支店での取組み

デザイン	【支店選択画面】 ピクシブの世界観を盛り込んだデザイン 	【デビット券面】 トップクリエイター 森倉円さんデザイン 
	【イラストコンテスト】 	【Cheerコードキャンペーン】 クリエイター森倉円さん応援 Cheerコードを入力して口座開設した方の中から抽選で100名様にプレゼントを進呈 創作活動をもっと応援しよう あなたとクリエイターそれぞれに現金1,000円プレゼント！ 口座開設時に以下のコードを入力すると、応募特典としてあなたとクリエイターの口座に、それぞれ1,000円が入金されます。クリエイターの方は今後抽選追加予定です。 
マーケティング	【支店専用Twitter】 	

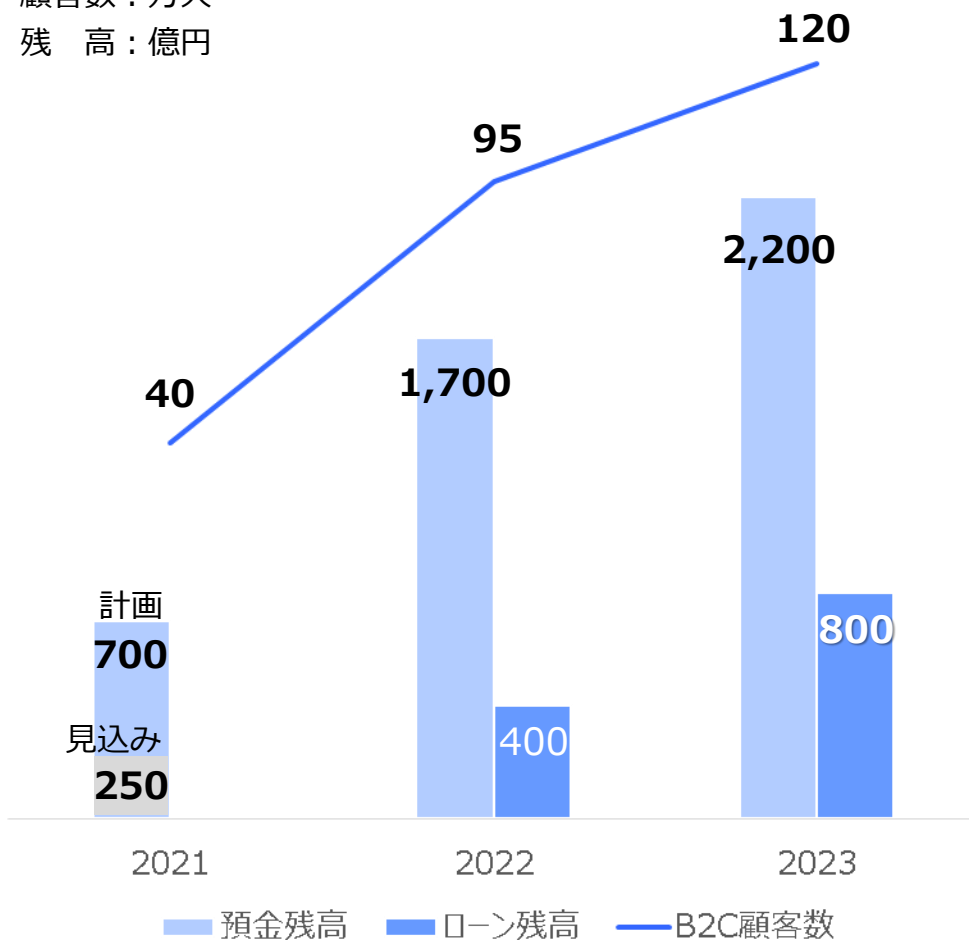
- 国内外のアワードで、極めて高い評価を獲得
- 革新性やデザイン・操作性の客観的評価を獲得 ⇒ サービスの認知度向上・信頼性向上

デザイン アワード	Red Dot Design Award GER	3部門 受賞	 reddot winner 2021	・ブランド・オブ・ザ・イヤー（年間最高賞）他、2部門で受賞 ・世界三大デザイン賞のひとつ ・日本初の年間最高賞、金融機関の受賞は世界初
	グッドデザイン賞 JPN	1部門 受賞	 GOOD DESIGN AWARD 2021	・アプリケーション部門で受賞 ・1957年創設の日本を代表するデザイン賞 ・2020年にはiBankマーケティングのスマホアプリ「Wallet+」も受賞
ビジネス アワード	Efma-Accenture Banking Innovation Awards EU	1部門 受賞		・Neobanks & Specialized Players部門で金賞（第1位）受賞（Global Innovator部門ではファイナリスト） ・金融業界のイノベーションを推進するアワード、通称「金融業界のオスカー」 ・今年度は800を超える応募あり
	Retail Banker International Asia Trailblazer Awards UK	2部門 受賞		・2部門で受賞（日本から唯一の受賞） ・創刊35年の英GlobalData社が主催。アジア圏で革新的且つ優れた顧客サービスを提供しているリテールバンキング機関を表彰
	Challengers Awards US	1部門 ファイナリスト		・Best Banking App部門でファイナリストに選出 ・米フィンテックメディア「Tearsheet」主催 ・デジタルバンキングに焦点をあてたアワード ・この分野の既存企業、スタートアップ問わずに表彰
	Banking Tech Awards UK	4部門 ノミネート		・4部門でファイナリストに選出 ・英グローバル金融専門誌「Fintech Futures」主催 ・金融サービスにおけるIT活用の卓越性と革新性を実現している企業を表彰
Tech アワード	Google Cloud Customer Awards US	1部門 受賞		・金融サービス部門Winner受賞（同部門では日本から唯一受賞） ・Google Cloudを導入している企業の中でも、各業界をリードする革新的な取り組みを行う企業に贈られる

- 初年度は顧客数40万人（計画通り）・預金250億円（計画比▲450億円）を見込む。3年目に同 120万人・2,200億円に加え、2年目から投入する消費性ローンを800億円獲得する計画
- 顧客獲得のためのマーケティング費用等コスト先行もローン主体にマネタイズし3年目の黒字化を目指す

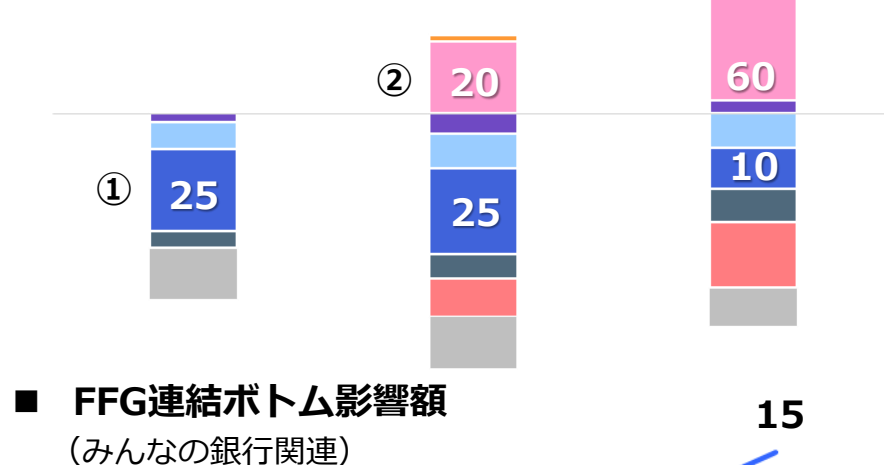
顧客数・ボリューム計画

顧客数：万人
残 高：億円



収益計画

粗利 ■ その他 ■ ローン ■ B2B2X
費用 ■ 人件費 ■ マーケティング ■ システム
■ 信用コスト ■ その他



① 開業後は収益基盤となる顧客獲得のための積極的なマーケティング戦略を展開

② 2年目に消費性ローンを導入し収益を積み上げる計画

※想定するローンポートフォリオ：1件あたり平均40万円、平均金利12%、デフォルト率3%程度

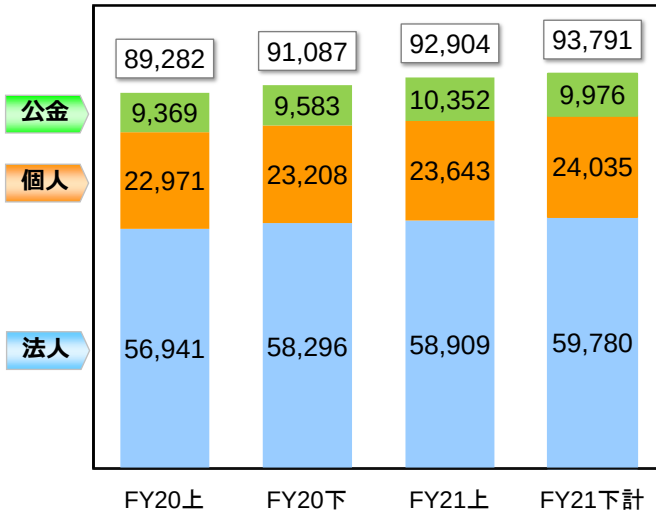
Part IV

【参考資料】計数

国内貸出金平残（銀行別）

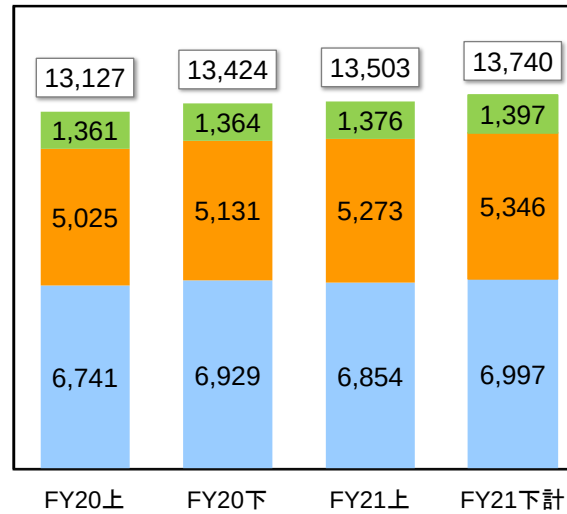
福岡銀行（国内単体）

※FFG・政府向け貸出金除く



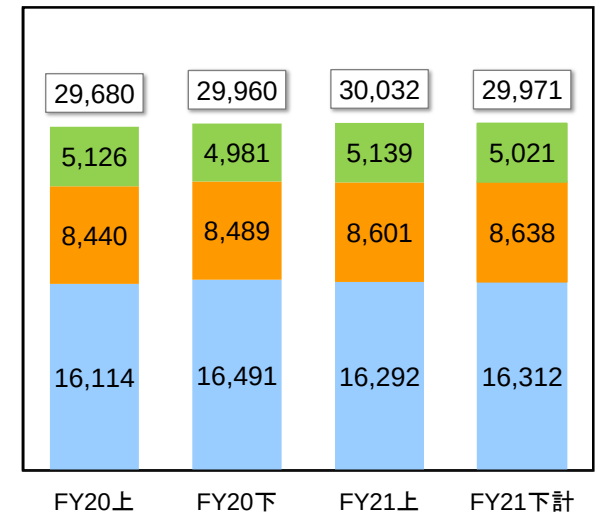
熊本銀行（国内単体）

※政府向け貸出金除く

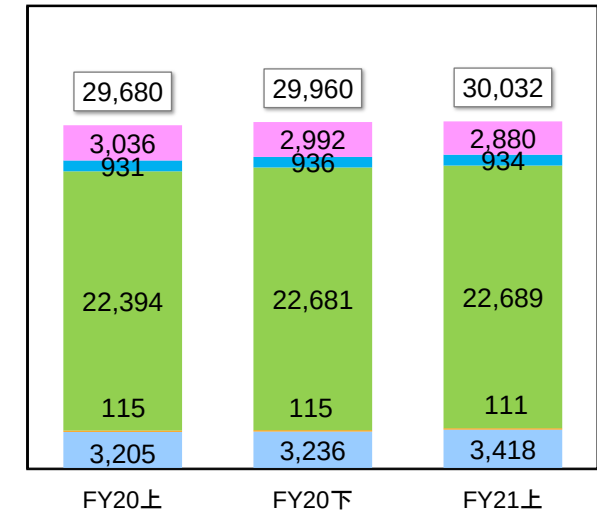
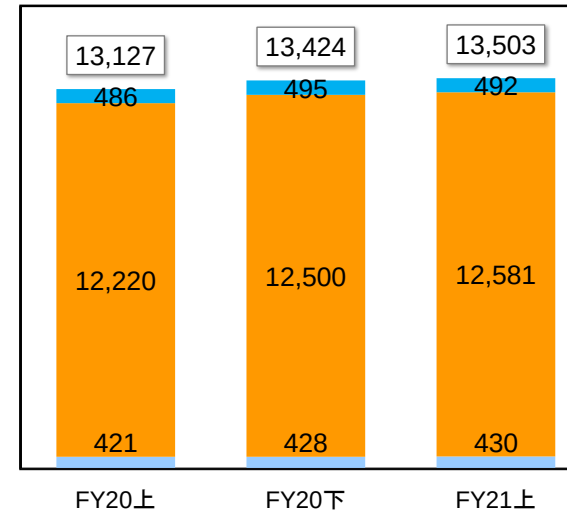
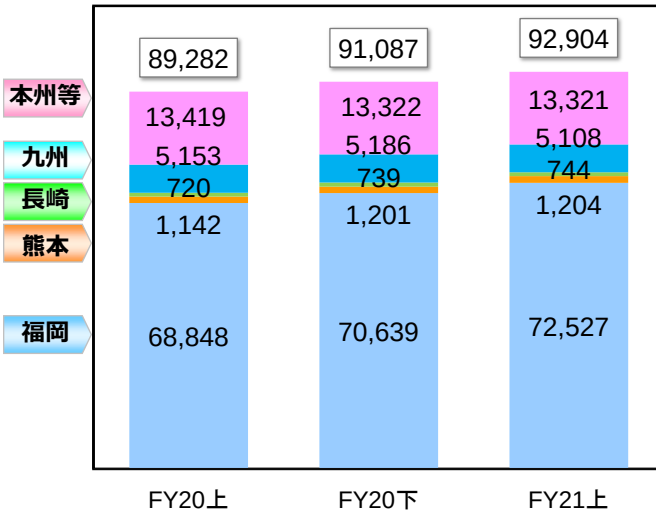


十八親和銀行（国内単体）

※政府向け貸出金除く



地区別平残 (億円)



業種別貸出金

(億円)

	2021年9月末							
	3行単体 合算	構成比	福岡	構成比	熊本	構成比	十八親和	構成比
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定)	169,727	100.0%	111,431	100.0%	18,836	100.0%	39,460	100.0%
製造業	8,431	5.0%	6,118	5.5%	523	2.8%	1,789	4.5%
農業・林業	399	0.2%	199	0.2%	99	0.5%	99	0.2%
漁業	295	0.2%	115	0.1%	30	0.2%	150	0.4%
鉱業・採石業・砂利採取業	212	0.1%	102	0.1%	8	0.0%	101	0.3%
建設業	4,085	2.4%	2,594	2.3%	575	3.1%	914	2.3%
電気・ガス・熱供給・水道業	4,304	2.5%	3,323	3.0%	201	1.1%	778	2.0%
情報通信業	523	0.3%	348	0.3%	29	0.2%	144	0.4%
運輸業・郵便業	8,022	4.7%	6,604	5.9%	220	1.2%	1,197	3.0%
卸売業・小売業	12,887	7.6%	9,380	8.4%	946	5.0%	2,560	6.5%
金融業・保険業	7,580	4.5%	6,921	6.2%	47	0.2%	611	1.5%
不動産業・物品賃貸業	31,198	18.4%	24,026	21.6%	2,517	13.4%	4,653	11.8%
うち不動産業	27,613	16.3%	21,352	19.2%	2,426	12.9%	3,834	9.7%
その他各種サービス業	13,811	8.2%	8,669	7.8%	1,681	8.9%	3,460	8.8%
国・地方公共団体	40,102	23.6%	19,131	17.2%	6,615	35.1%	14,354	36.4%
その他	37,872	22.3%	23,892	21.4%	5,338	28.3%	8,642	21.9%

2021年3月末比			
3行単体 合算	福岡	熊本	十八親和
△3,219	△1,391	21	△1,847
△586	△477	△9	△99
9	11	4	△6
4	3	0	2
△1	△10	1	7
△194	△65	△32	△98
△64	△43	△8	△14
21	△4	△3	28
146	55	14	77
151	151	△11	12
△190	△118	△21	△51
498	338	38	121
416	302	16	97
△219	△106	△27	△86
△3,408	△1,562	△48	△1,799
614	435	123	58

業種別金融再生法開示債権

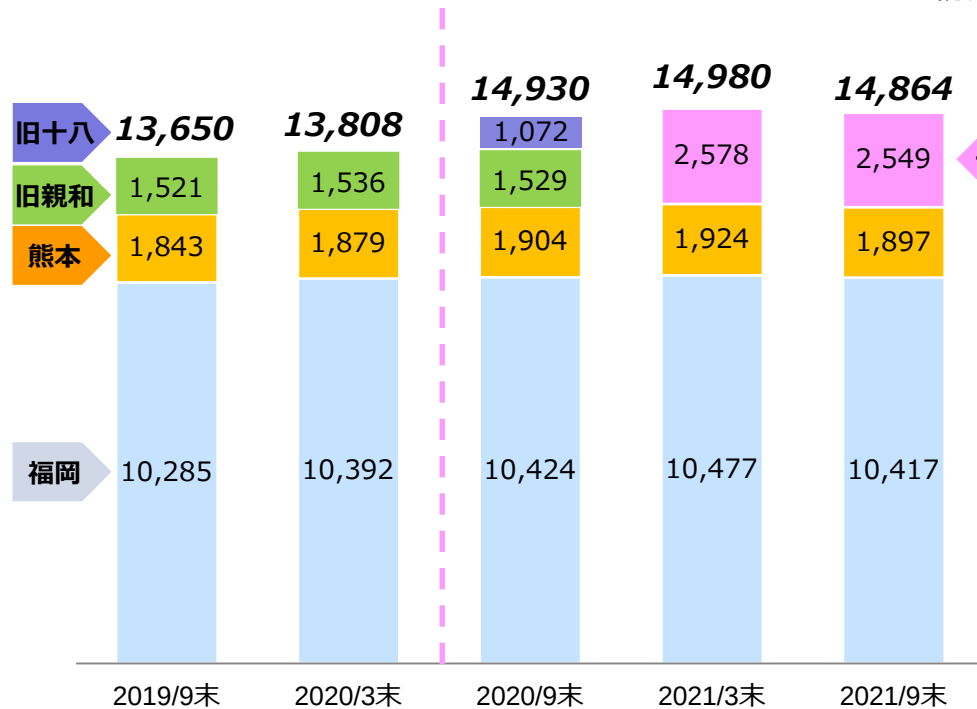
(億円)

	2021年9月末							
	3行単体 合算	構成比	福岡	構成比	熊本	構成比	十八親和	構成比
国内店分 (除く特別国際金融取引勘定)	3,155	100.0%	1,874	100.0%	412	100.0%	869	100.0%
製造業	388	12.3%	245	13.1%	33	8.0%	110	12.7%
農業・林業	33	1.1%	21	1.1%	8	2.0%	5	0.5%
漁業	26	0.8%	4	0.2%	12	2.9%	10	1.1%
鉱業・採石業・砂利採取業	2	0.1%	—	—	0	0.0%	2	0.2%
建設業	101	3.2%	61	3.2%	18	4.3%	23	2.6%
電気・ガス・熱供給・水道業	103	3.3%	93	5.0%	2	0.4%	9	1.0%
情報通信業	11	0.4%	3	0.2%	3	0.8%	5	0.6%
運輸業・郵便業	123	3.9%	56	3.0%	6	1.5%	61	7.0%
卸売業・小売業	717	22.7%	391	20.9%	79	19.2%	246	28.3%
金融業・保険業	74	2.3%	73	3.9%	1	0.3%	0	0.0%
不動産業・物品賃貸業	366	11.6%	246	13.1%	46	11.2%	74	8.5%
うち不動産業	362	11.5%	244	13.0%	45	10.8%	73	8.4%
その他各種サービス業	900	28.5%	485	25.9%	161	39.1%	254	29.2%
国・地方公共団体	—	—	—	—	—	—	—	—
その他	310	9.8%	196	10.4%	42	10.3%	72	8.3%

2021年3月末比			
3行単体 合算	福岡	熊本	十八親和
40	34	18	△11
△19	△12	0	△7
0	0	0	1
△2	△3	0	1
2	—	0	2
△2	△3	1	1
1	2	0	0
△1	0	△1	0
△9	△9	0	△1
1	7	2	△8
△28	△27	0	0
37	39	△3	1
38	40	△2	0
55	36	17	2
—	—	—	—
4	5	1	△1

アパートローン残高（プロパー貸出金）

（億円）



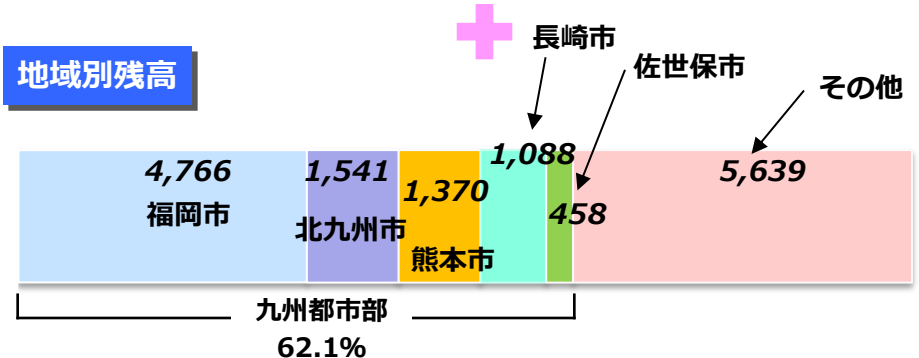
アパートローン（プロパー貸出金）の状況

審査スタンス

- 債務者属性、融資対象物件の両面を検証し、総合的に判断
- 特に物件については、将来性、流動性を調査のうえ、空室リスク、金利リスクを勘案しCFを検証

空室リスク	10年毎に10%空室率が上昇するストレス負荷
金利リスク	5年目以降2%上昇のストレス負荷

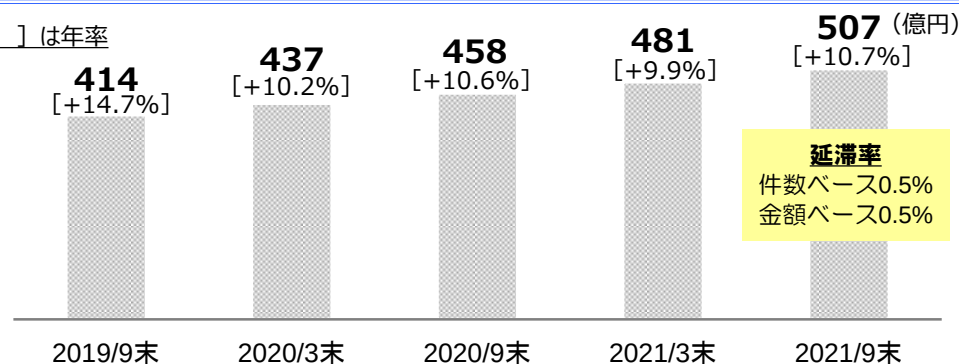
地域別残高



✓ 都市部（福岡/熊本/長崎の中心区域）で6割

投資用不動産ローン残高（プレステージ）

[] は年率



延滞率

件数ベース	0.22%
金額ベース	0.16%

担保評価（時価ベース）

残高①	14,864億円
担保評価②	12,480億円
担保カバー率（②÷①）	84.0%

国内資金平残（銀行別）

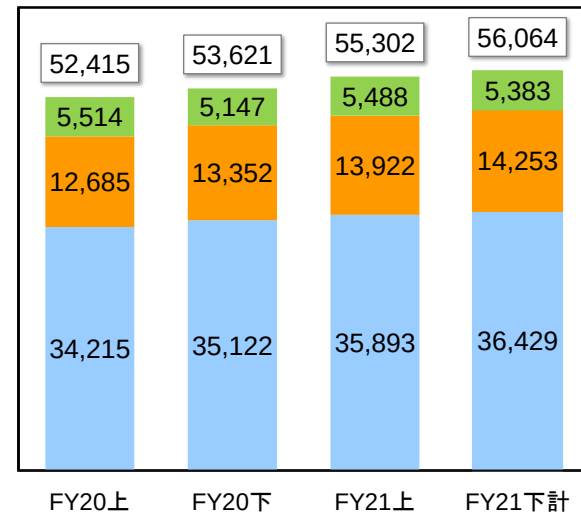
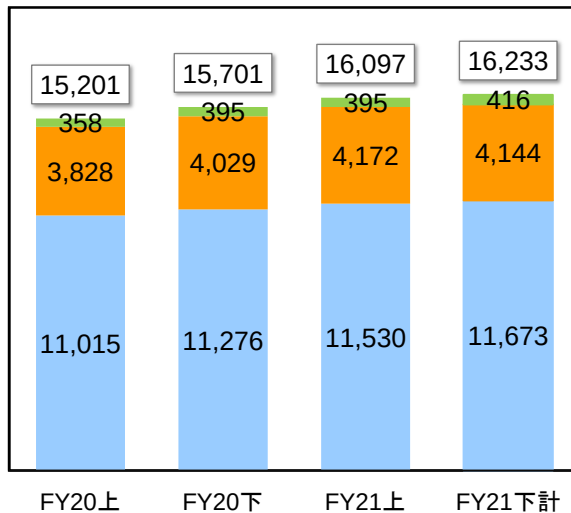
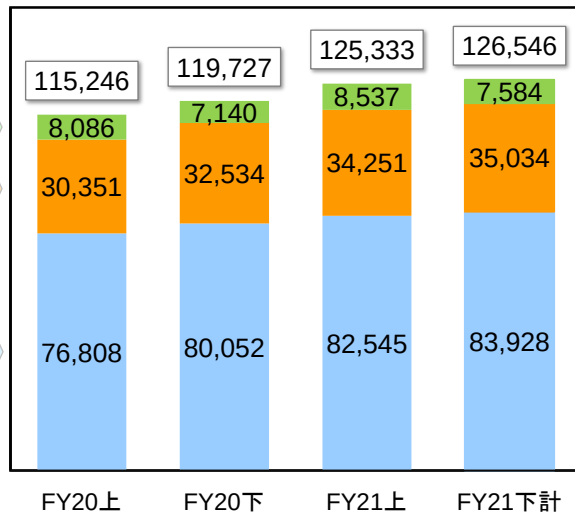
福岡銀行（国内単体）

熊本銀行（国内単体）

十八親和銀行（国内単体）

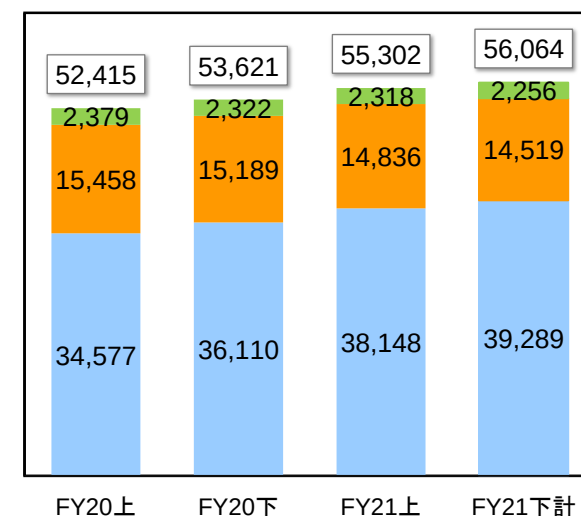
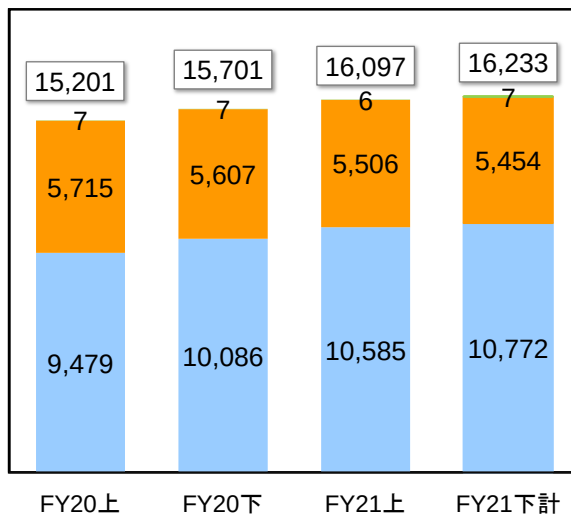
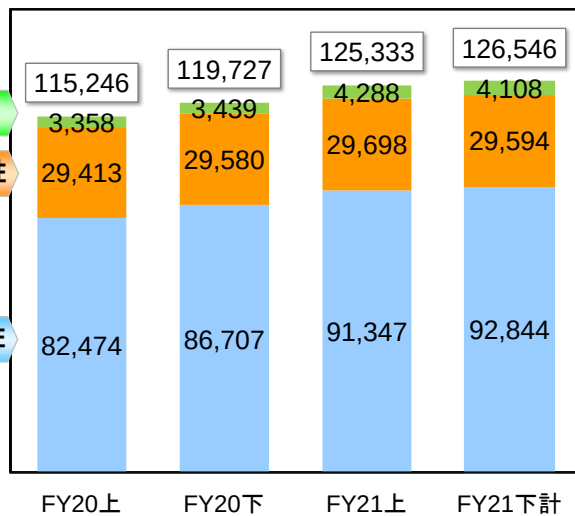
セグメント別平残
(億円)

公金
法人
個人



科目別平残
(億円)

NCD
固定性
流動性

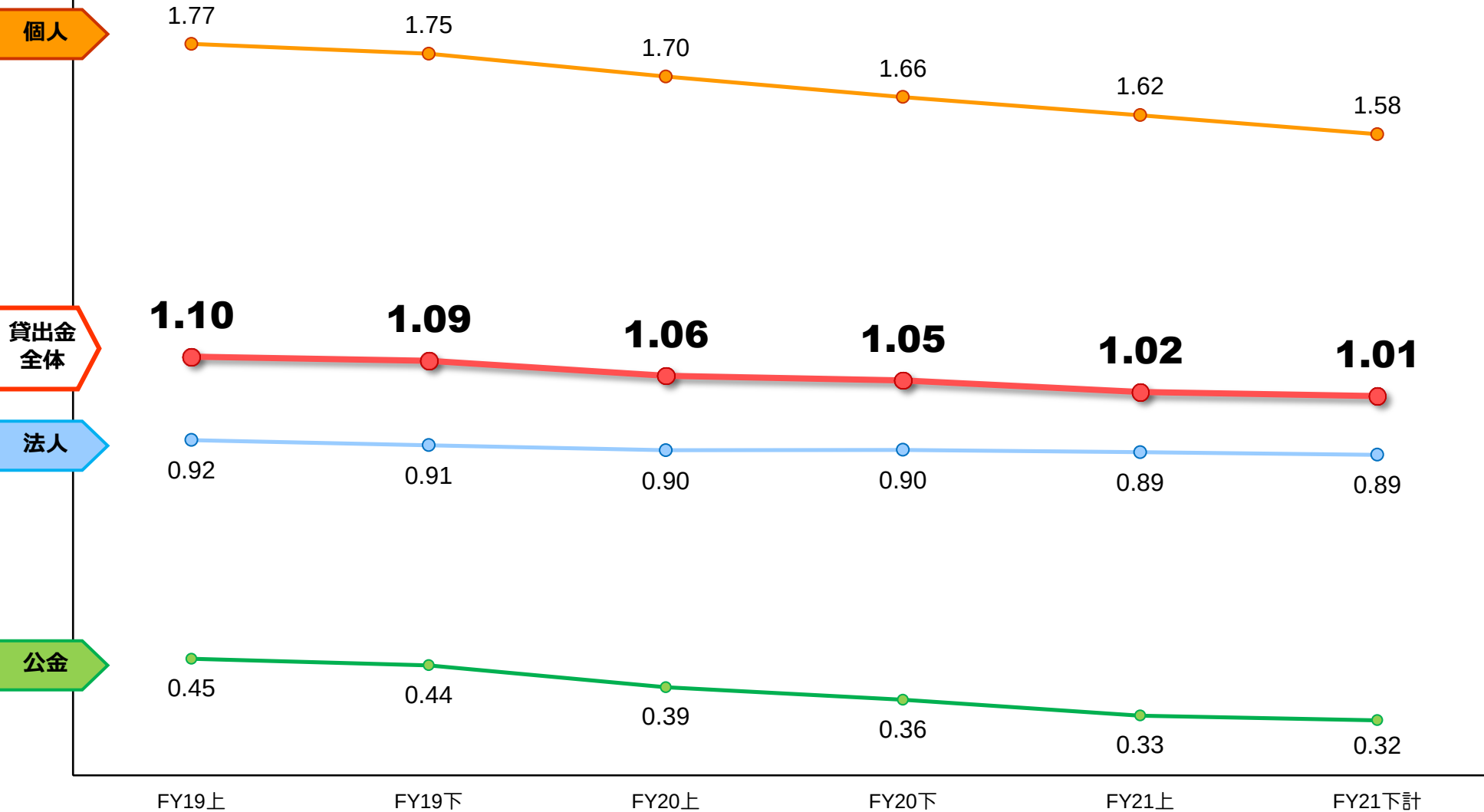


国内貸出金利回り（セグメント別）

3行単体合算

※FFG・政府向け貸出金除く

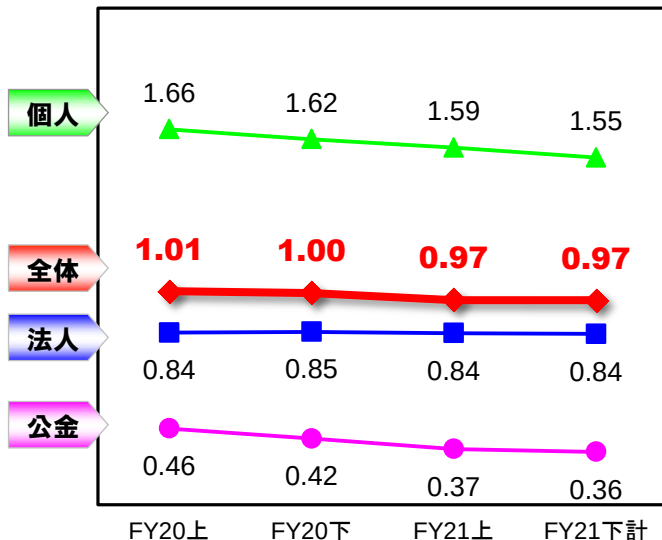
(%)



国内預貸金利回り（銀行別）

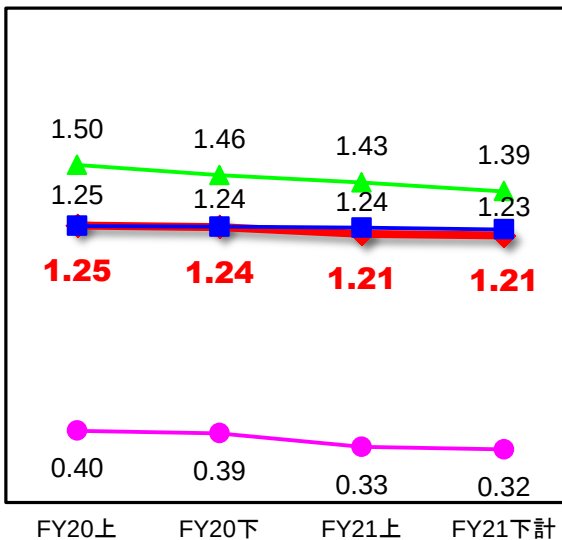
福岡銀行（国内単体）

※FFG・政府向け貸出金除く



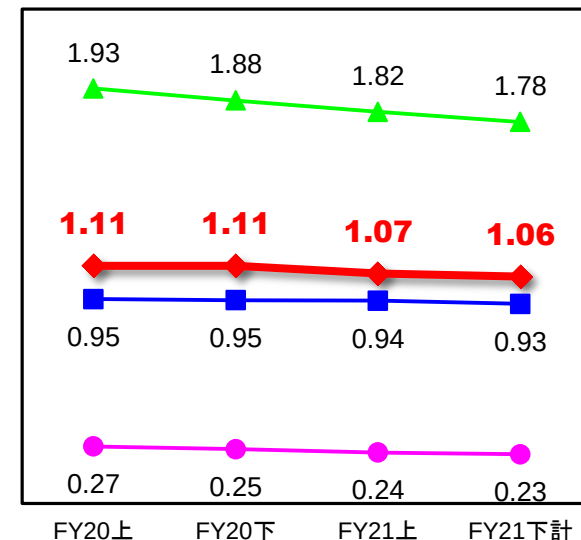
熊本銀行（国内単体）

※政府向け貸出金除く

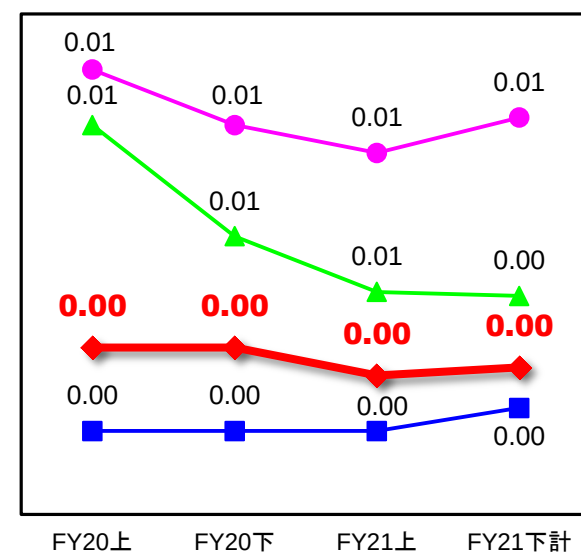
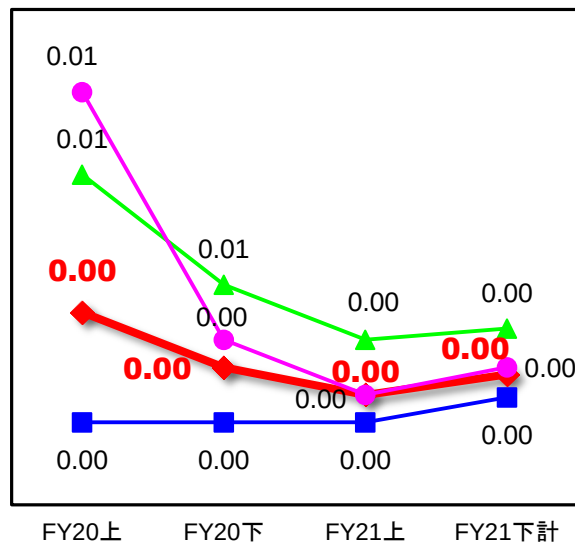
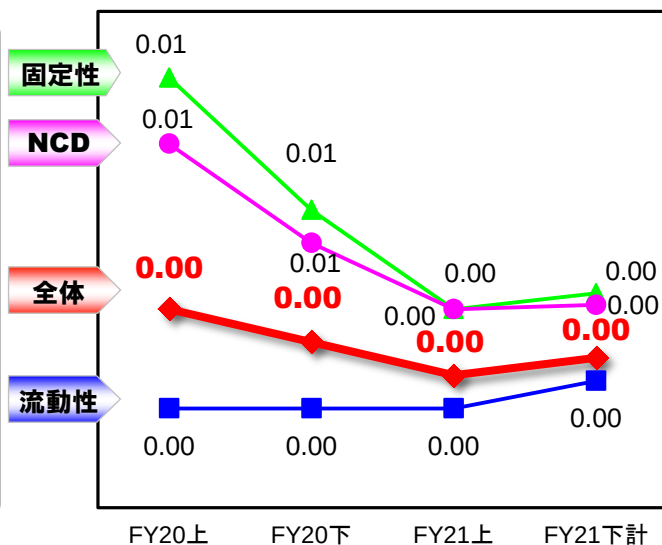


十八親和銀行（国内単体）

※政府向け貸出金除く



預金等金利回り (%)



預貸金の種類別構成比

国内貸出金（21/9末）

	3行合算	福岡	熊本	十八親和
短期プライム基準	20.5%	14.6%	33.1%	29.8%
短期スプレッド	5.5%	6.8%	1.8%	3.9%
短期貸出金	26.0%	21.4%	34.9%	33.7%
変動プライム基準	25.3%	26.3%	32.7%	19.0%
市場金利変動	8.2%	10.4%	1.5%	5.6%
長期変動	33.5%	36.7%	34.2%	24.7%
うち固定住宅ローン	5.1%	4.8%	3.7%	6.5%
長期固定	40.5%	41.9%	30.9%	41.6%
長期貸出金	74.0%	78.6%	65.1%	66.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

国内資金（21/9末）

	3行合算	福岡	熊本	十八親和
有利息	59.2%	60.2%	59.3%	57.1%
無利息	12.0%	13.0%	6.6%	11.5%
流動性預金	71.3%	73.2%	66.0%	68.6%
コア預金	18.3%	18.0%	26.4%	16.8%
大口預金	7.1%	5.7%	7.6%	10.1%
定期性預金	25.4%	23.7%	34.0%	26.8%
NCD	3.3%	3.2%	0.0%	4.6%
定期性預金・NCD	28.7%	26.8%	34.0%	31.4%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

感応金利種類別ポートフォリオ

短プラ連動	45.7%	40.9%	65.8%	48.9%
短期市場金利連動	13.7%	17.2%	3.3%	9.5%
長プラ連動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
固定金利	40.5%	41.9%	30.9%	41.6%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

福岡銀行（連結）

熊本銀行

十八親和銀行（連結）

評価差額

外債等

社債

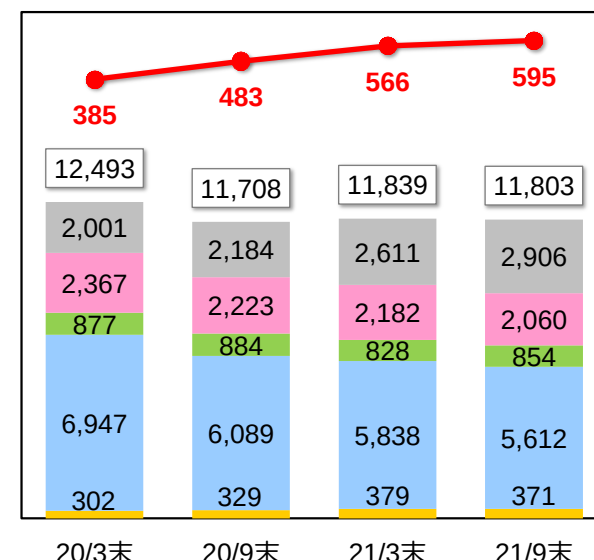
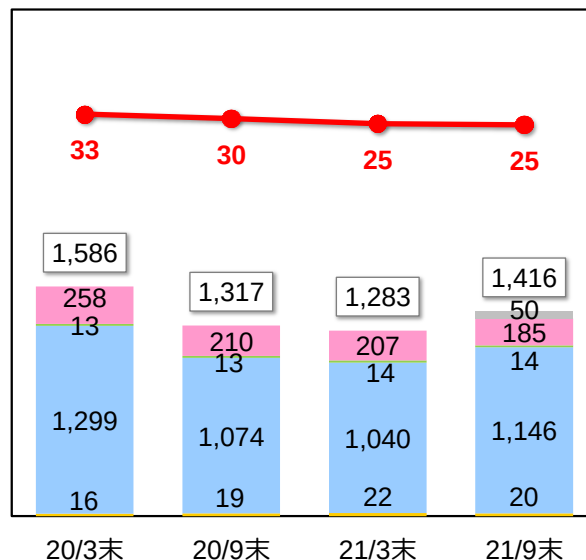
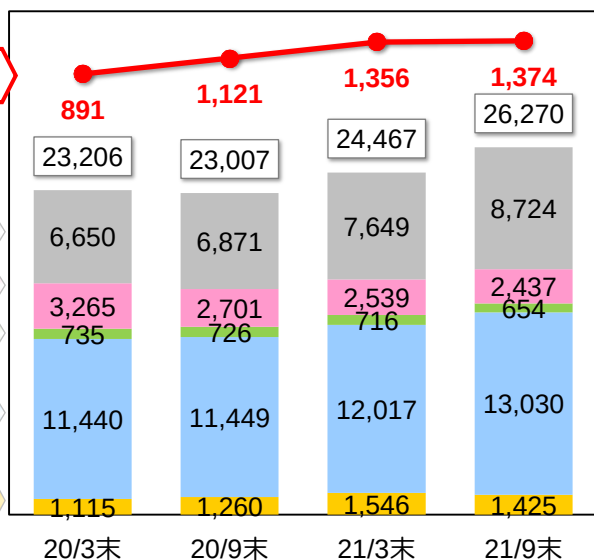
地方債

国債

株式

その他有価証券残高

(億円)



福岡銀行（連結）

熊本銀行

十八親和銀行（連結）

親和銀行

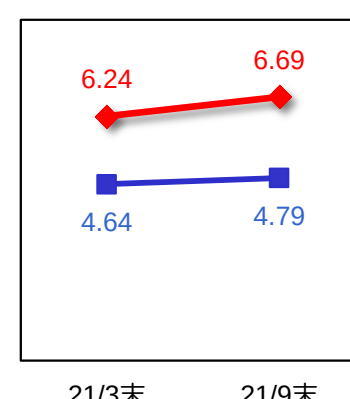
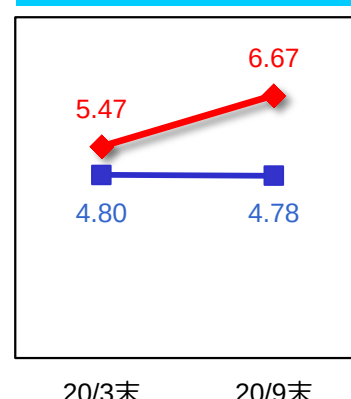
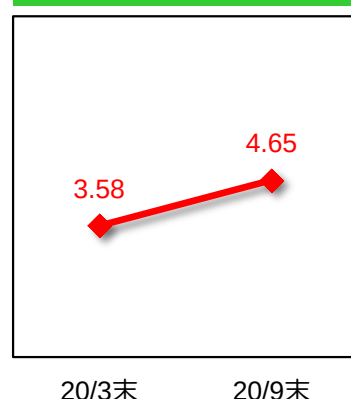
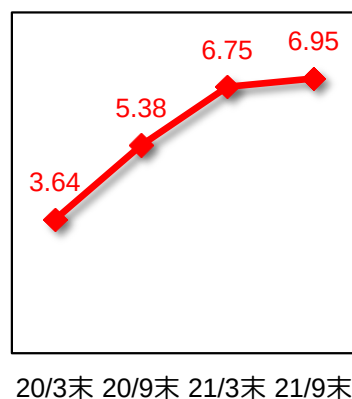
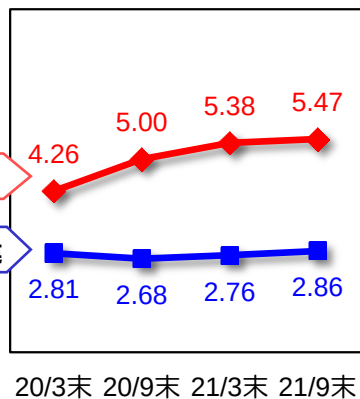
十八銀行（連結）

円建

外貨建

デデュレーション

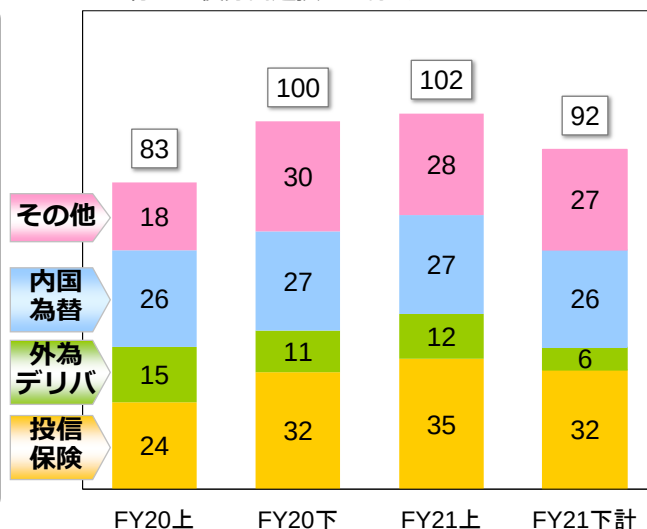
(年)



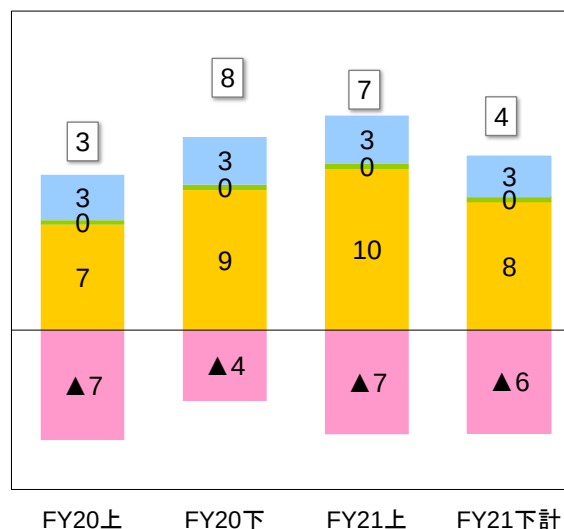
非資金利益・資産運用商品販売額（銀行別）

福岡銀行

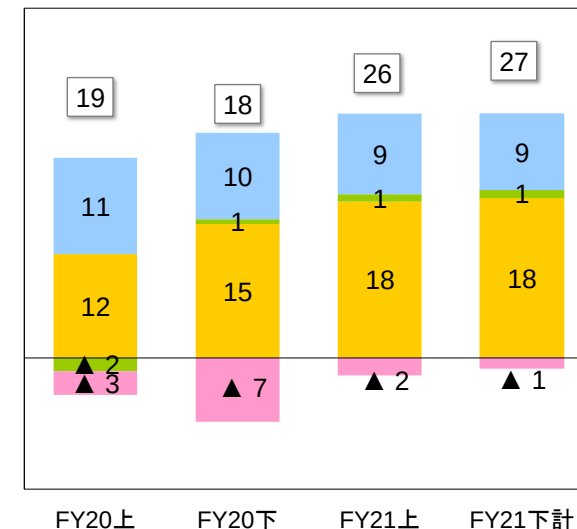
※3行とも債券関連損益を除く



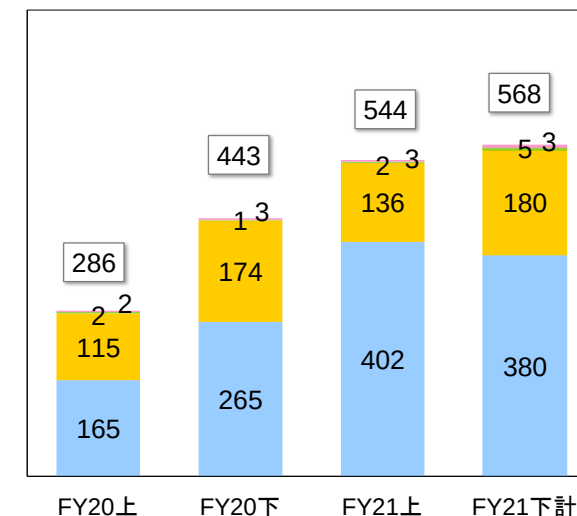
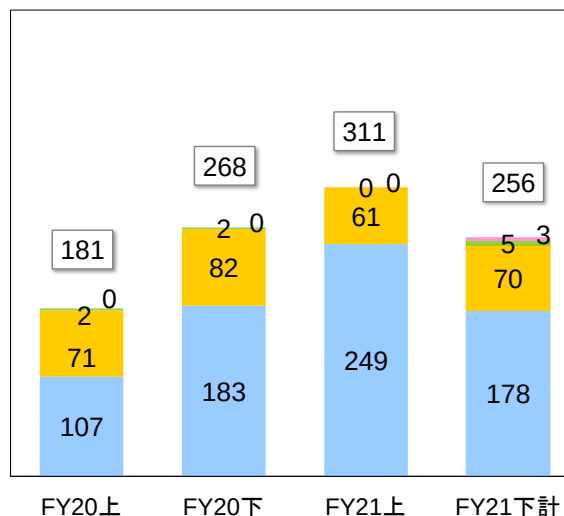
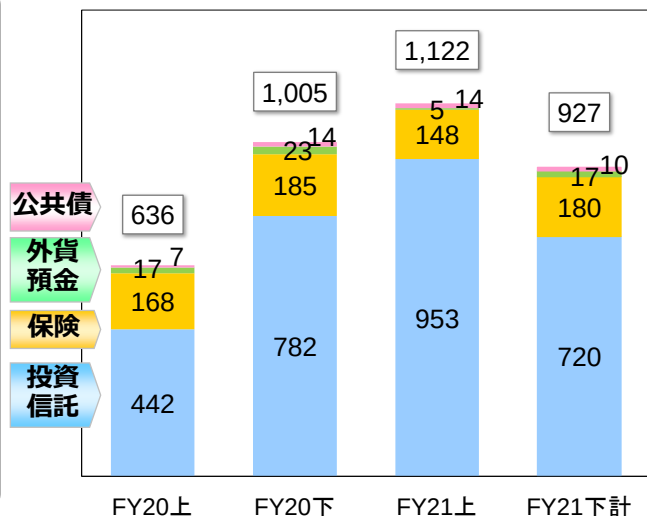
熊本銀行



十八親和銀行



※3行とも投信販売額は法人向け含む（その他は個人向けのみ）



経費・信用コスト（銀行別）

経費・コアOHR

(億円)

信用コスト

(億円)

福岡銀行

熊本銀行

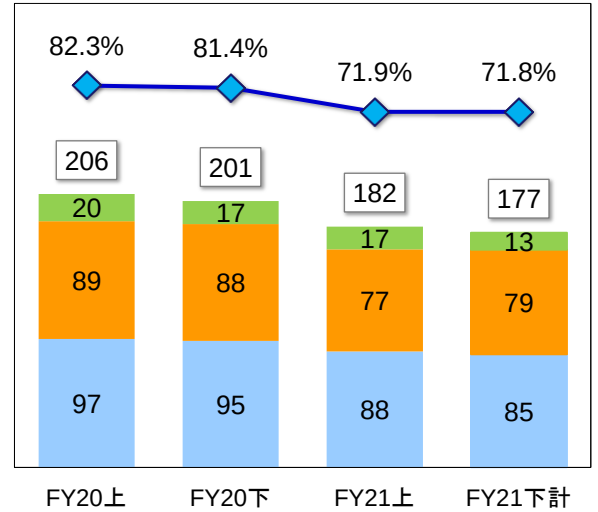
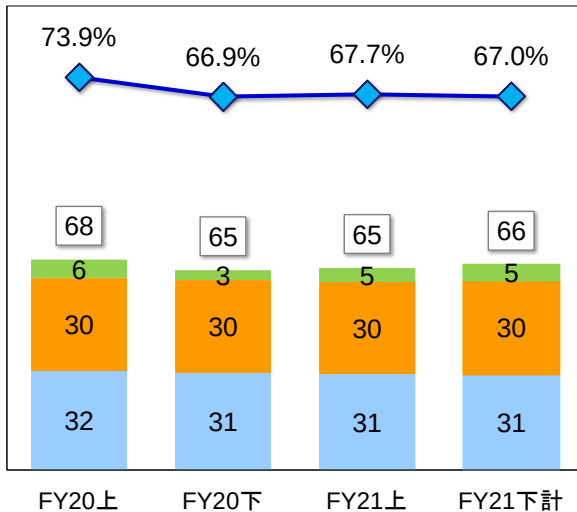
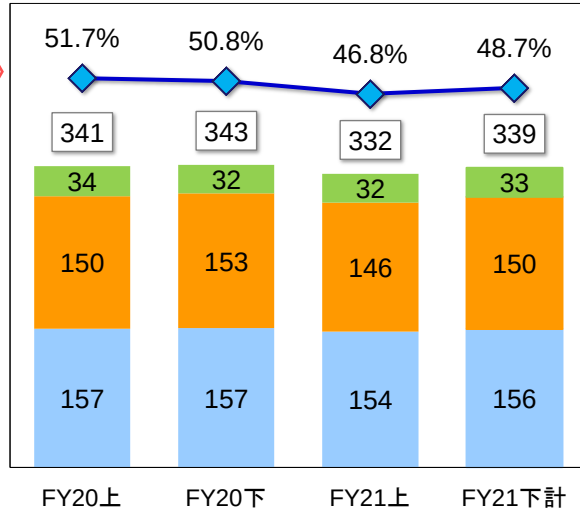
十八親和銀行

コアOHR

税金

物件費

人件費



※コアOHR = 経費 ÷ (業務粗利益-債券関連損益)

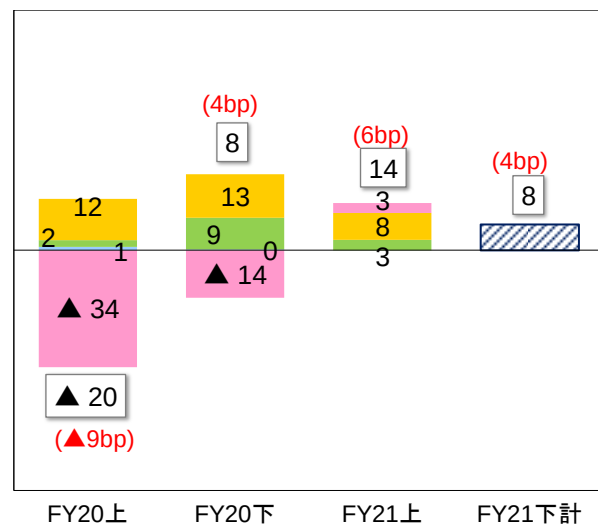
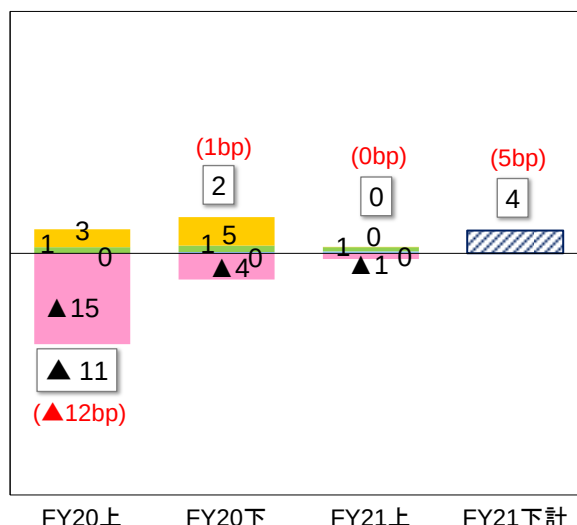
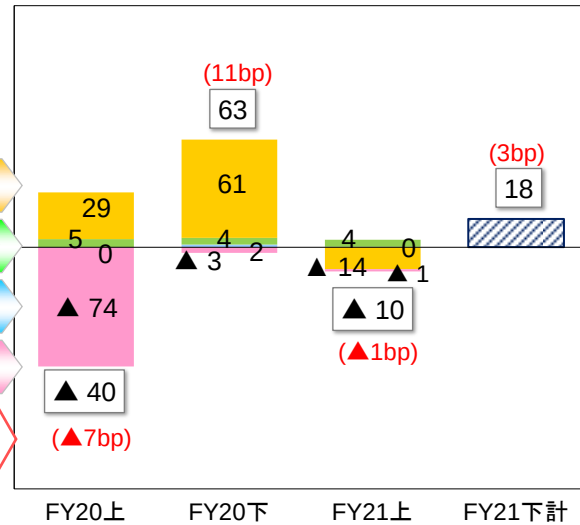
格付変動

担保下落

新規倒産

回収等

与信費用比率



不良債権・自己資本比率（銀行別）

不良債権残高・比率
(億円)

自己資本比率
(億円)

福岡銀行

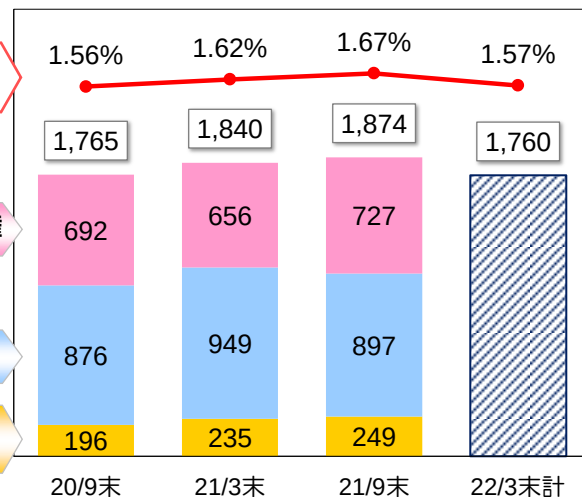
※部分直接償却後

不良債権比率

要管理債権

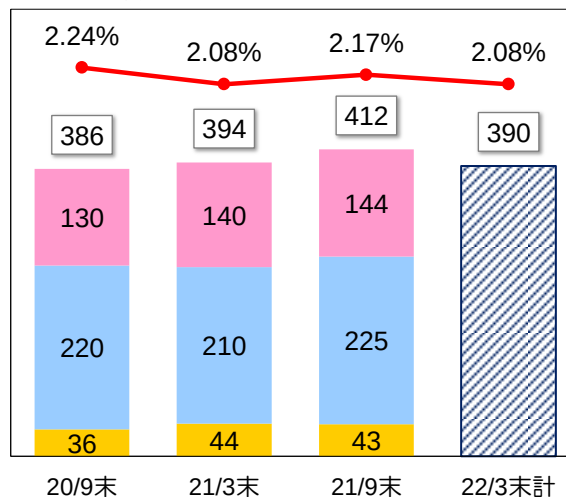
危険債権

破産更生債権



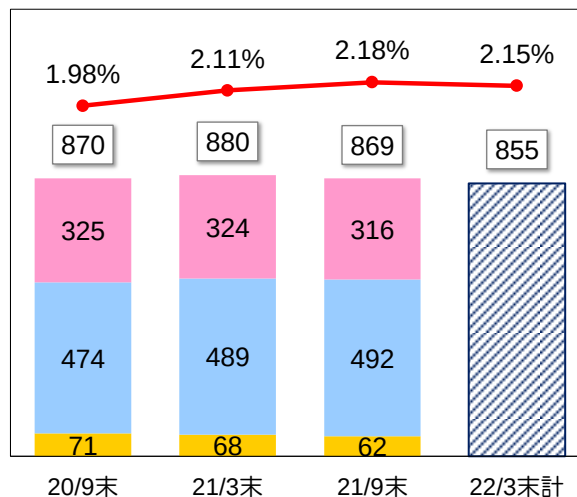
熊本銀行

※部分直接償却後



十八親和銀行

※部分直接償却後

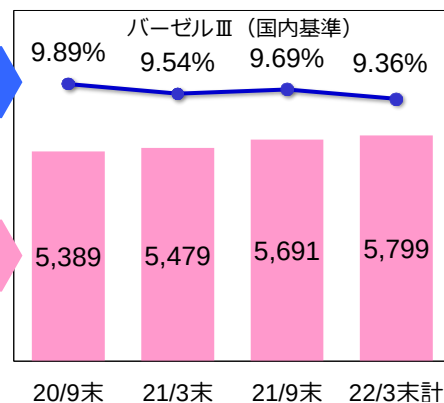


福岡銀行（連結）

信用リスク：先進的内部格付手法
オペリスク：粗利益配分手法

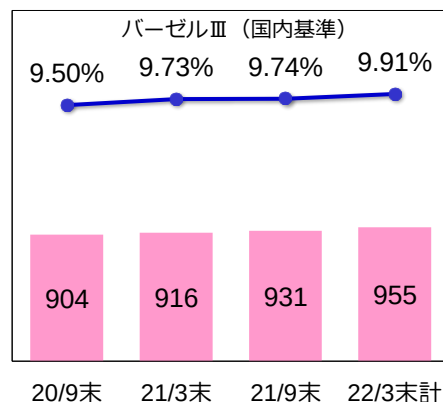
自己資本比率

コア資本



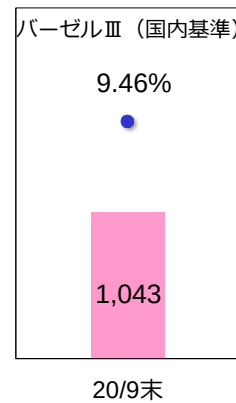
熊本銀行

信用リスク：標準的手法
オペリスク：粗利益配分手法



十八親和銀行（連結）

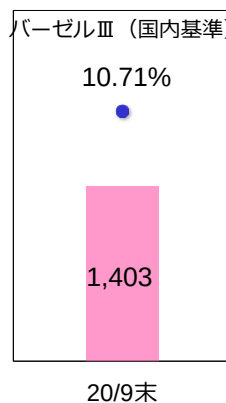
信用リスク：標準的手法
オペリスク：粗利益配分手法



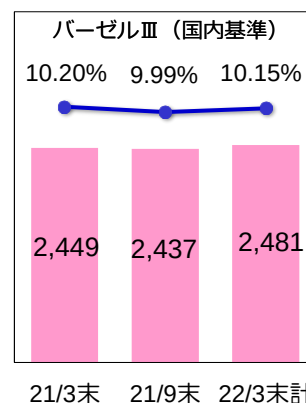
親和銀行

十八銀行（連結）

標準的手法
基礎的手法



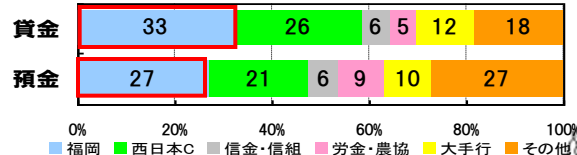
標準的手法
基礎的手法



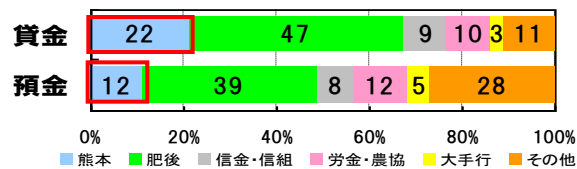
Part V

【参考資料】九州経済

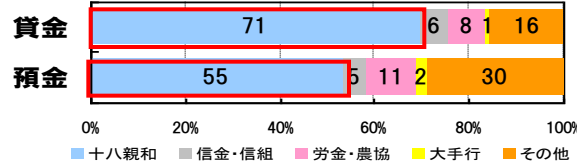
福岡県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	506万人	223千所	22.1兆円	37.2兆円



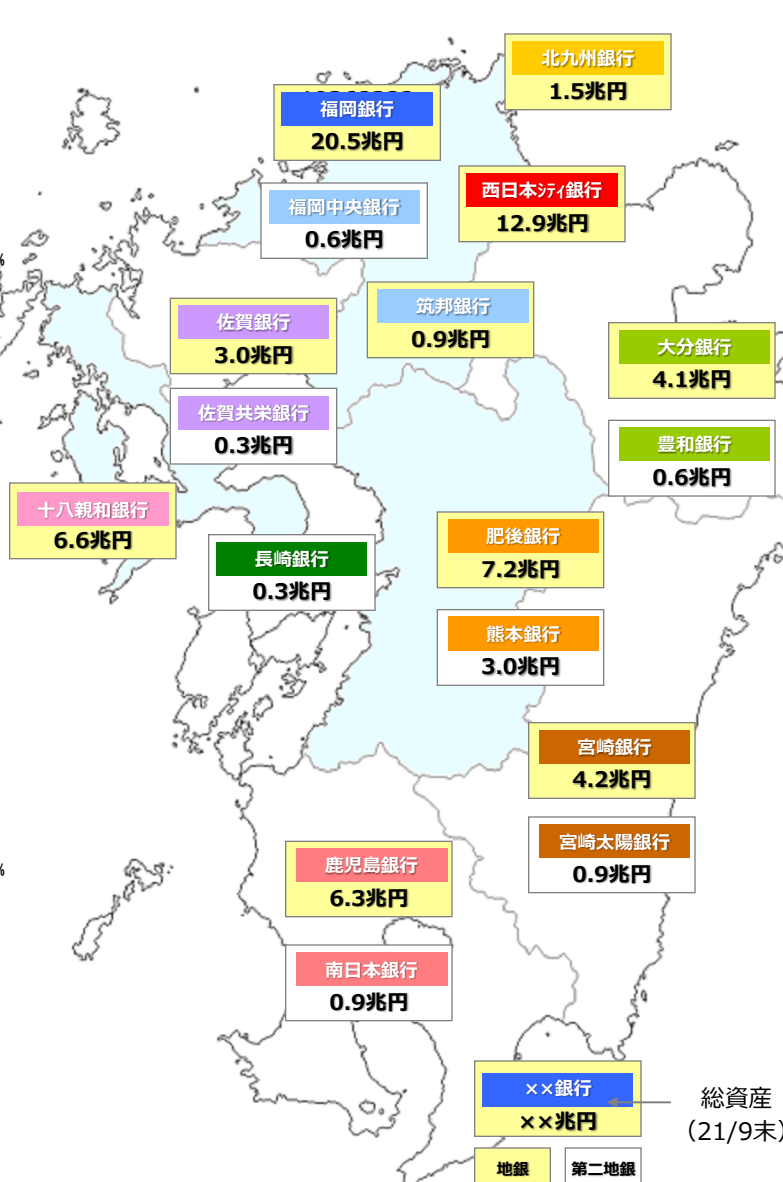
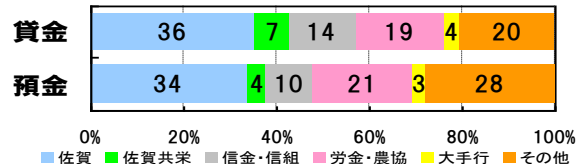
熊本県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	177万人	74千所	5.4兆円	11.3兆円



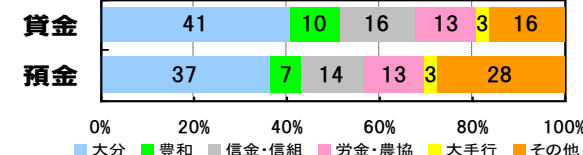
長崎県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	136万人	63千所	3.9兆円	8.4兆円



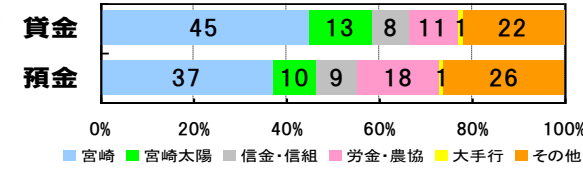
佐賀県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	82万人	38千所	1.9兆円	5.4兆円



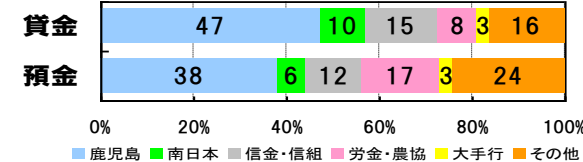
大分県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	115万人	54千所	3.4兆円	7.8兆円



宮崎県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	110万人	53千所	3.2兆円	6.2兆円



鹿児島県	人口	事業所	貸出金	預貯金
	163万人	77千所	5.0兆円	9.9兆円

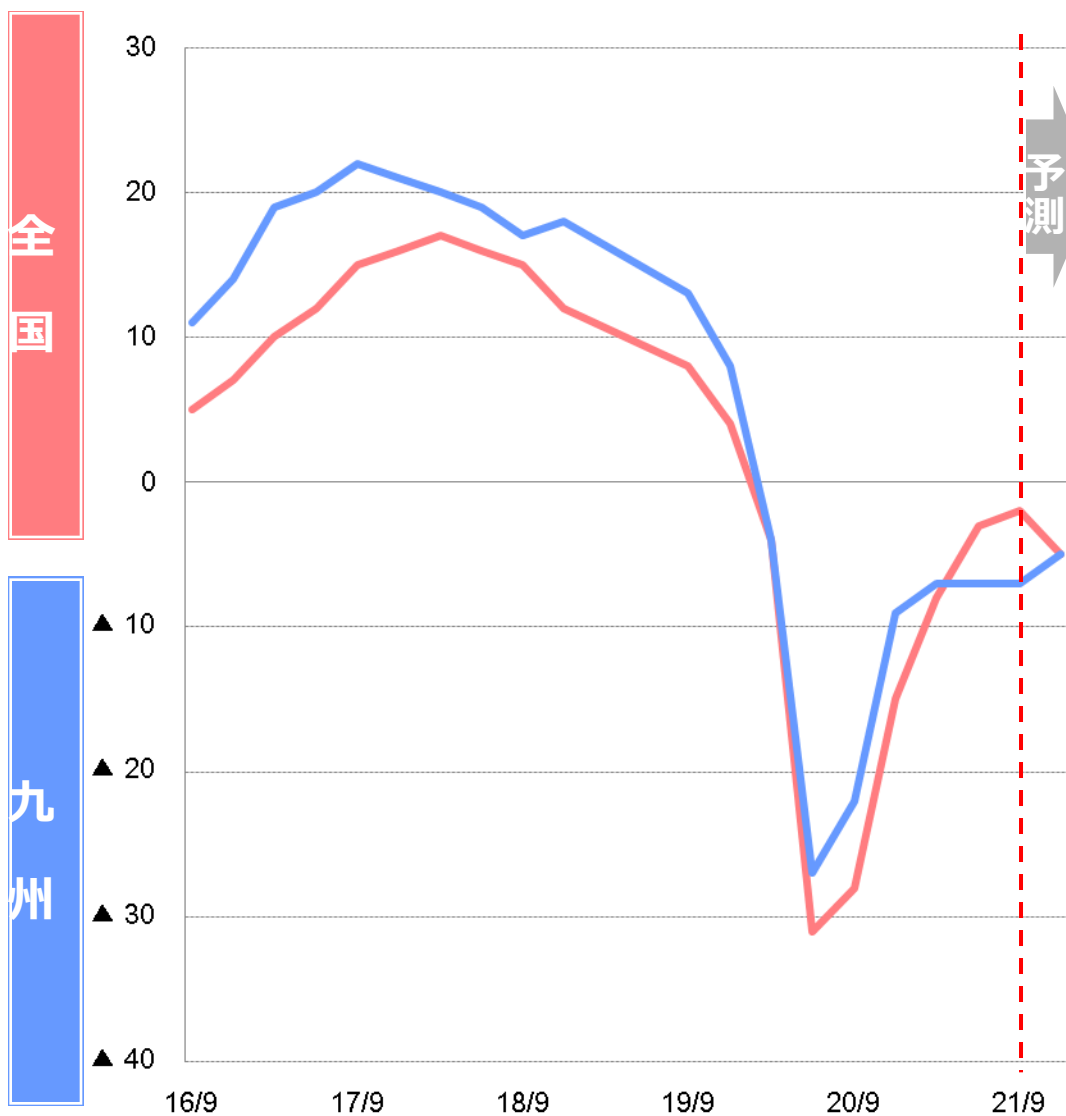


九州	人口	事業所	貸出金	預貯金
	1,287万人	583千所	45.0兆円	86.0兆円

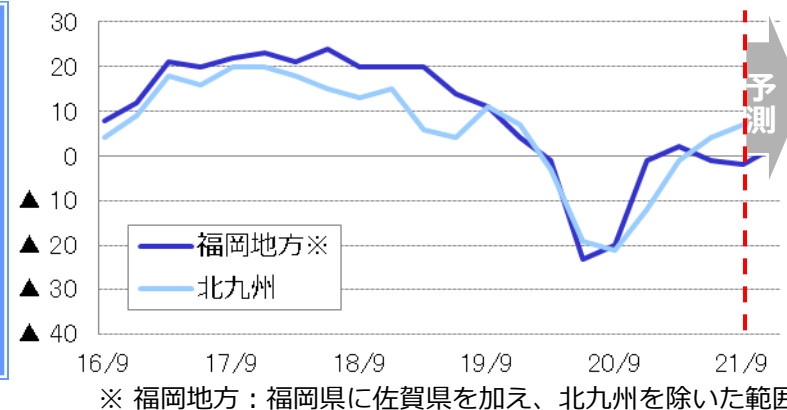
出所：金融ジャーナル「金融マップ2021年版」
総務省「28年経済センサス」

出所：各行決算開示資料

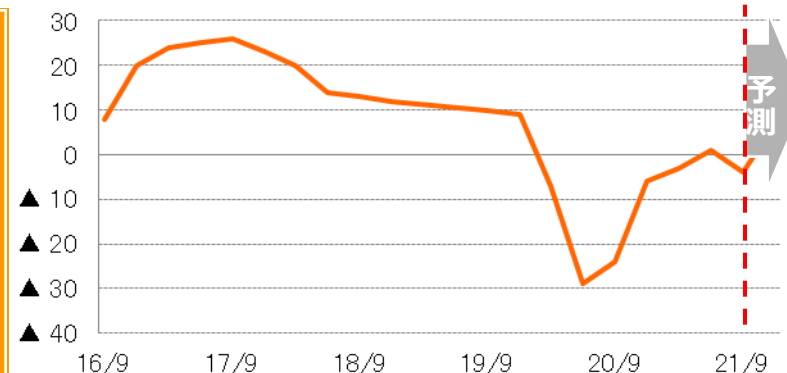
日銀短観 業況判断D.I.



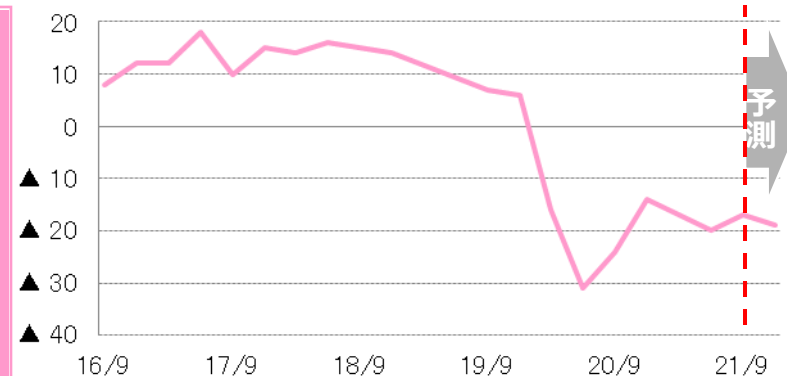
福岡県



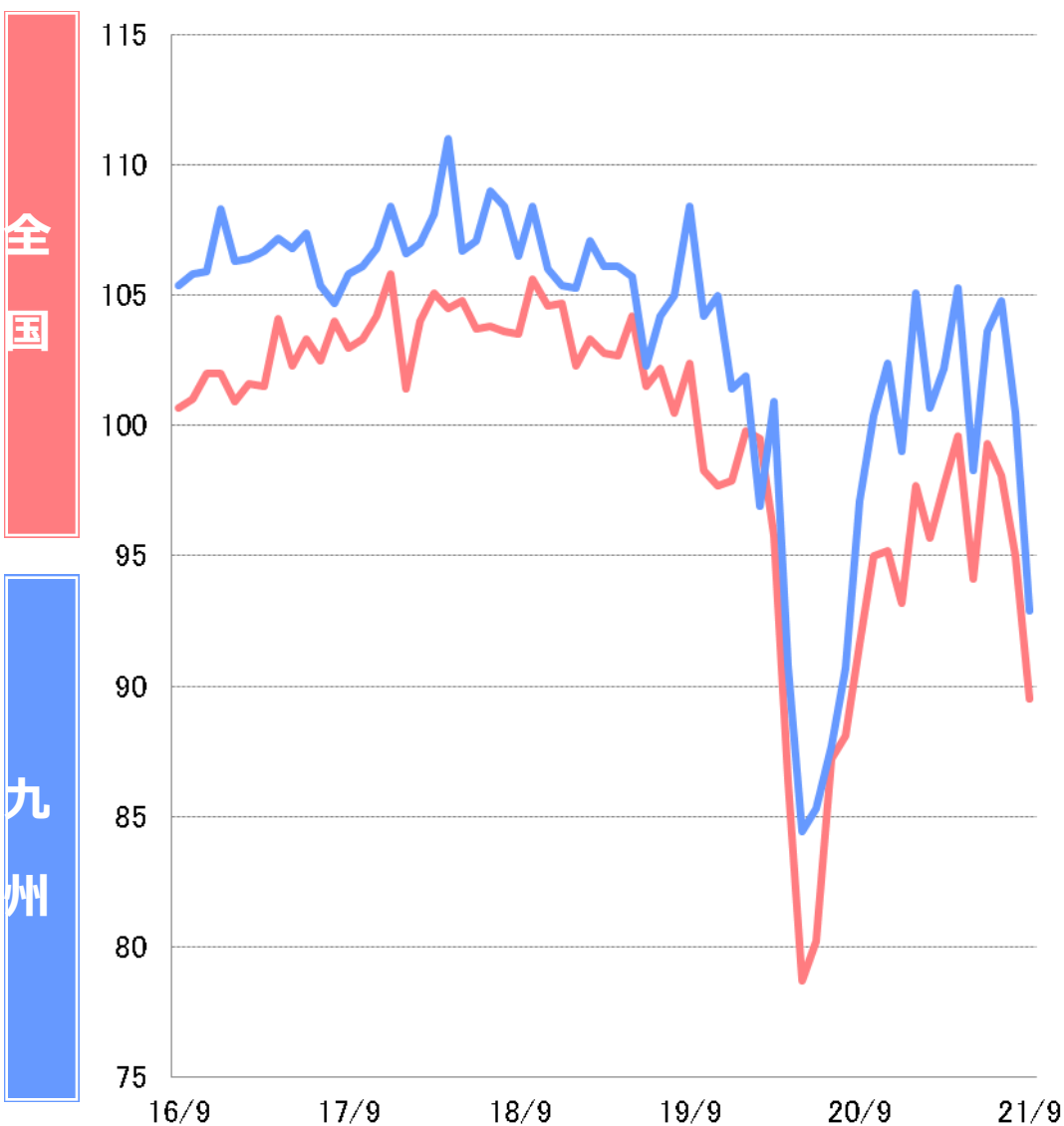
熊本県



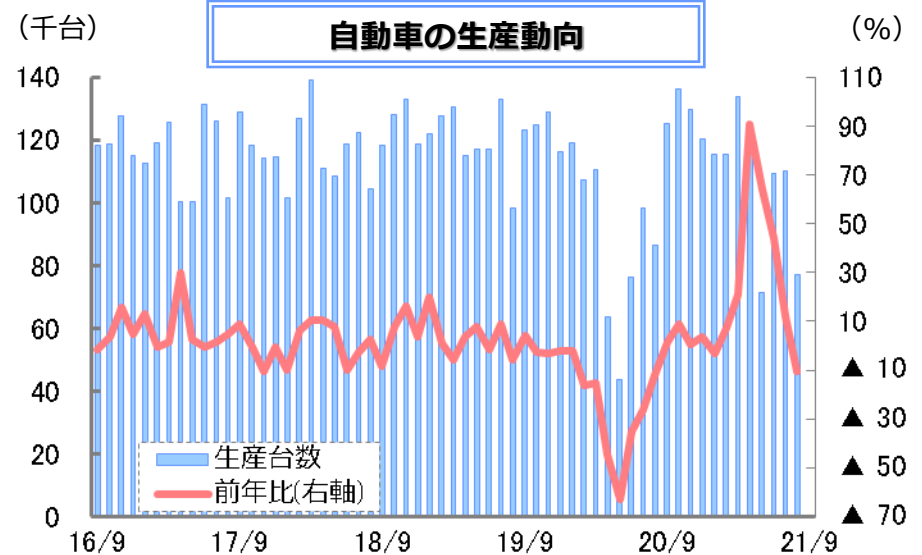
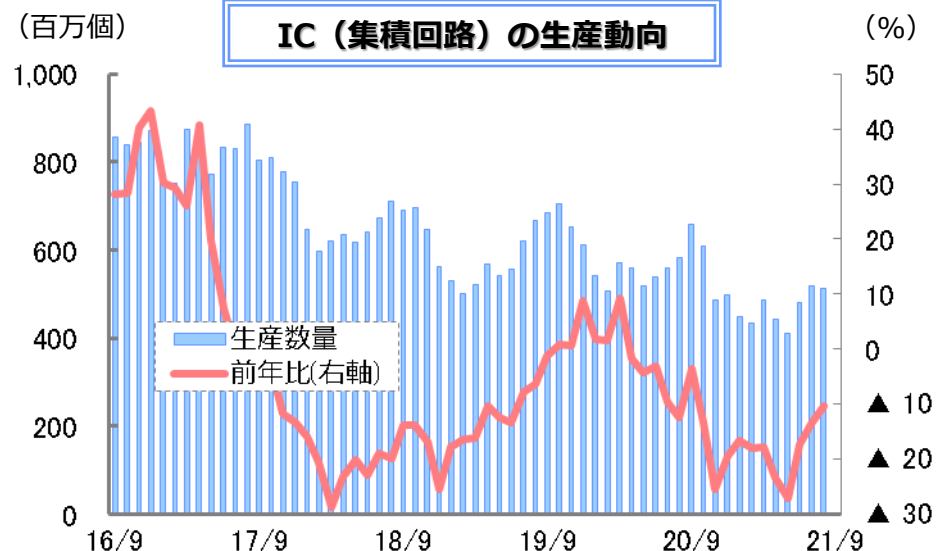
長崎県



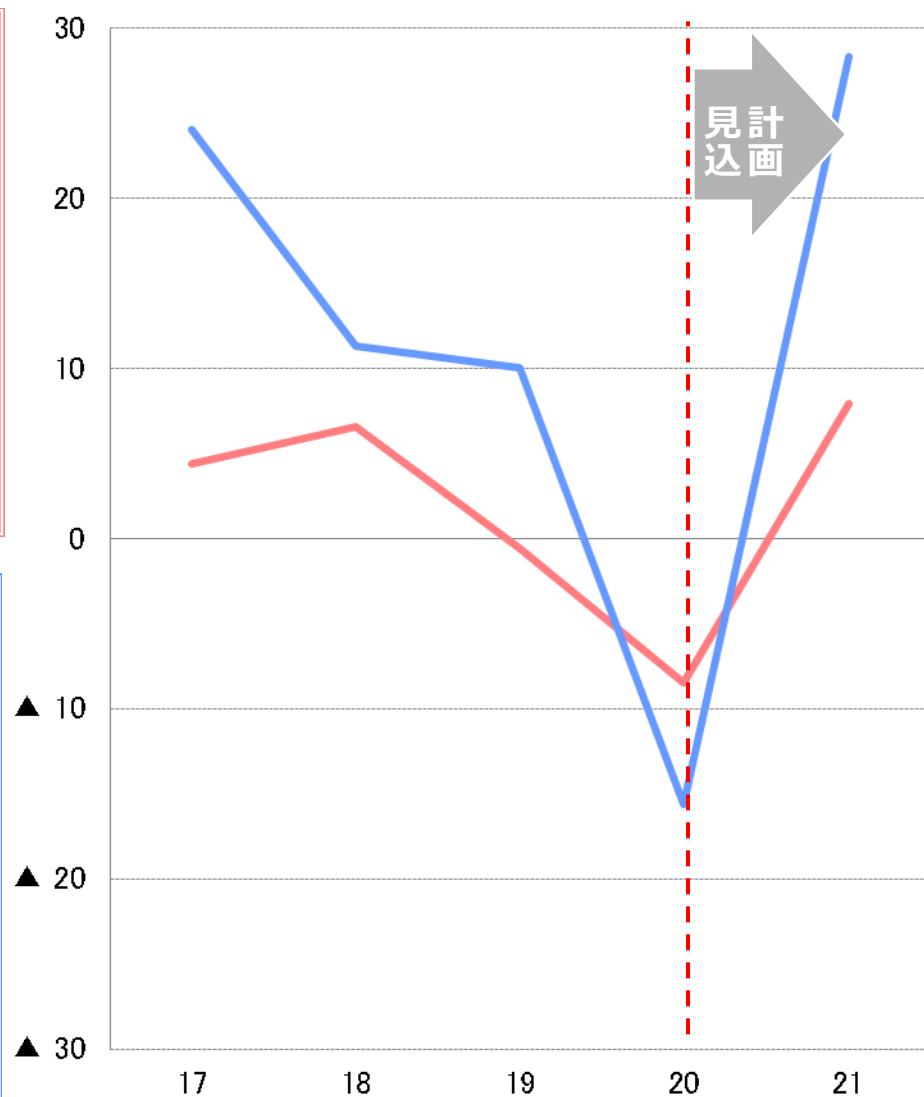
鉱工業生産指数 (FY15=100)



【九州】 主要産業の生産動向

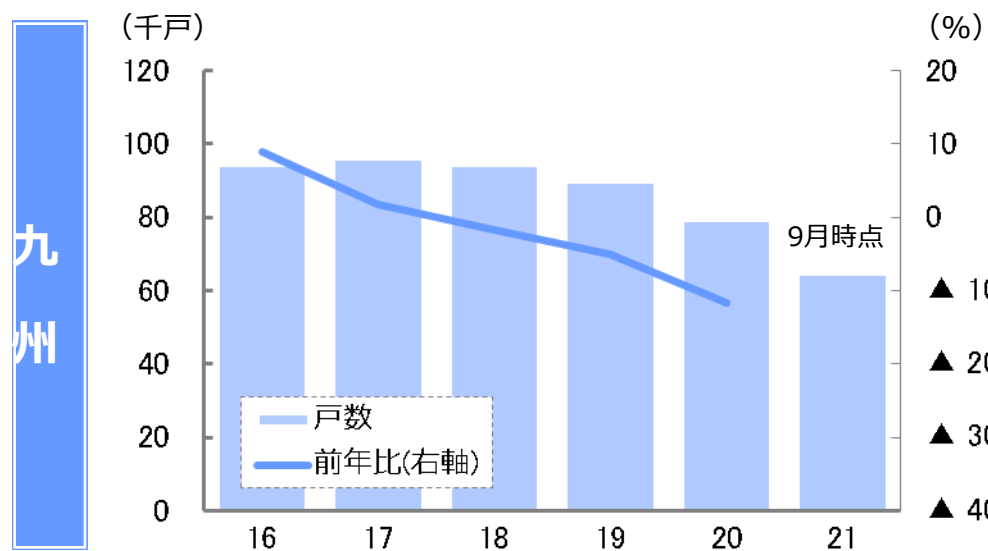
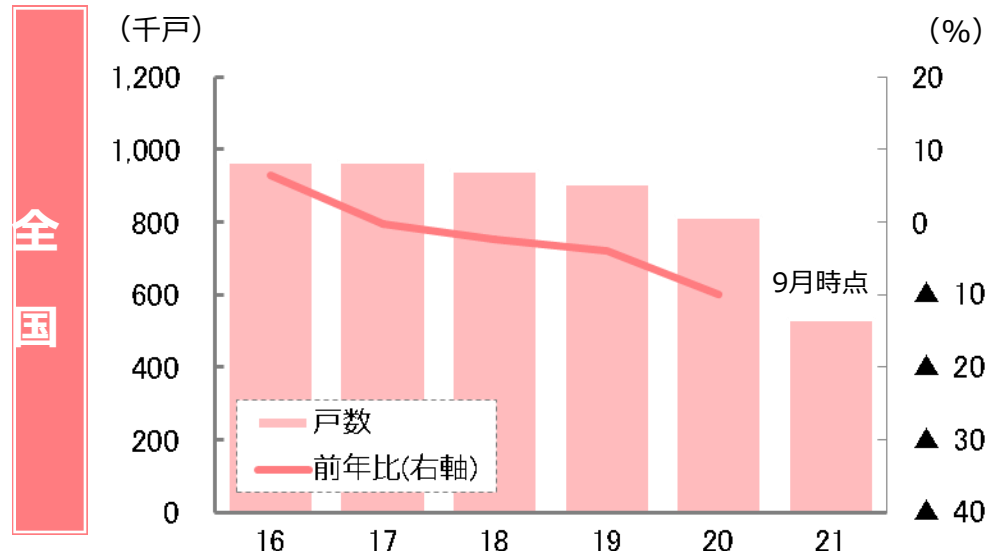


設備投資：日銀短観（前年同期比）



出所：日本銀行

住宅着工件数



出所：国土交通省

公示地価変動率

<国土交通省：令和3年都道府県地価調査の概要> (対前年平均変動率：%)

- 全国平均 : 全用途平均は2年連続の下落
住宅地は下落率が縮小
商業地は2年連続の下落
- 三大都市圏 : 住宅地は下落から横ばい、商業地は上昇継続も上昇幅縮小
- 地方圏 : 地方四市（札幌・仙台・広島・福岡）では住宅地、商業地ともに上昇継続、その他の地域では下落が継続

	住宅地			商業地		
	2020	2021	増減	2020	2021	増減
全国	▲0.7	▲0.5	+0.2	▲0.3	▲0.5	▲0.2
3大都市圏	▲0.3	0.0	+0.3	0.7	0.1	▲0.6
東京圏	▲0.2	0.1	+0.3	1.0	0.1	▲0.9
福岡県	0.8	1.5	+0.7	2.1	2.7	+0.6
佐賀県	▲0.5	▲0.3	+0.2	▲0.5	▲0.4	+0.1
長崎県	▲1.2	▲1.0	+0.2	▲0.9	▲0.8	+0.1
熊本県	▲0.3	▲0.2	+0.1	0.1	▲0.5	▲0.6
大分県	0.1	0.0	▲0.1	▲1.0	▲1.2	▲0.2
宮崎県	▲0.7	▲0.5	+0.2	▲1.4	▲1.2	+0.2
鹿児島県	▲1.5	▲1.4	+0.1	▲1.7	▲1.8	▲0.1
山口県	▲0.7	▲0.6	+0.1	▲0.9	▲0.8	+0.1

福岡県内主要都市

	住宅地		商業地	
	2020	2021	2020	2021
福岡市	3.5	4.4	7.5	7.7
北九州市	0.0	0.4	0.3	0.9

熊本県内主要都市

	住宅地		商業地	
	2020	2021	2020	2021
熊本市	0.7	0.8	2.1	0.6
八代市	▲0.6	▲0.9	▲1.3	▲1.1

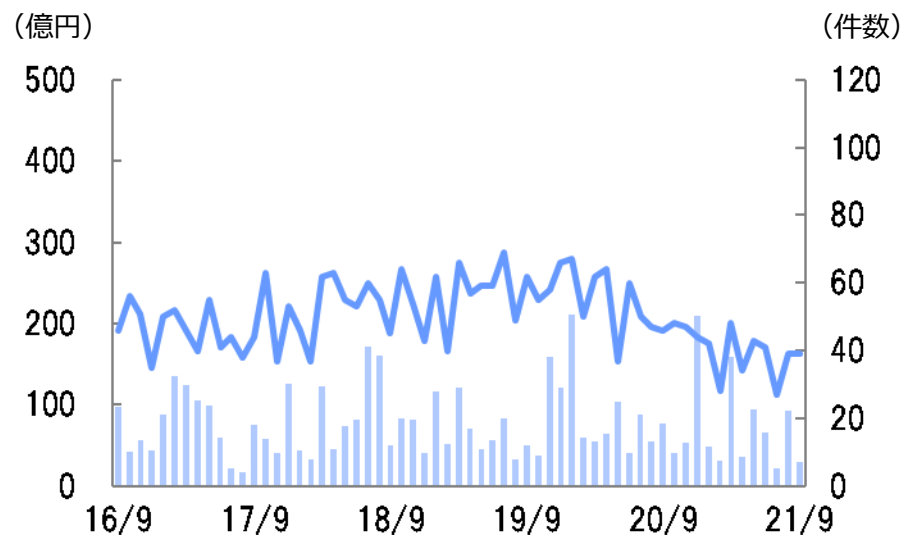
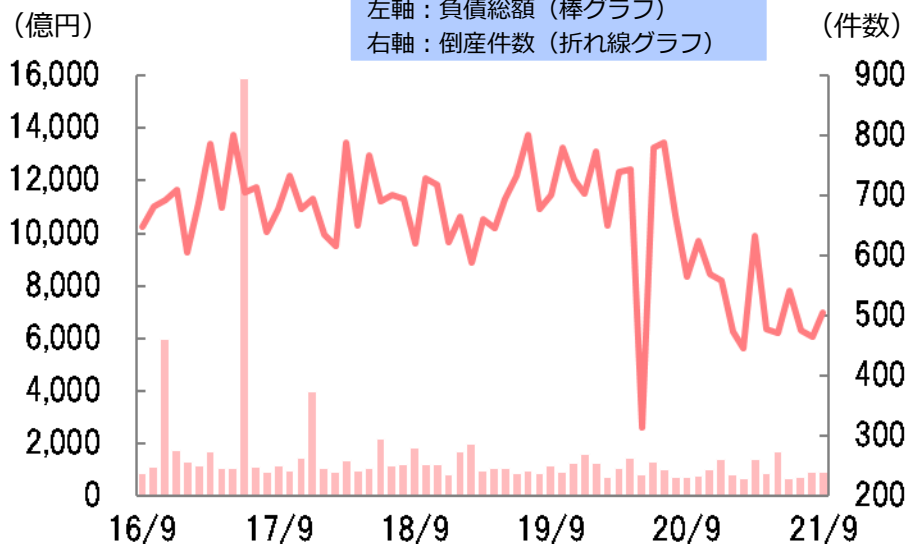
長崎県内主要都市

	住宅地		商業地	
	2020	2021	2020	2021
長崎市	▲0.3	▲0.2	1.6	1.5
佐世保市	▲0.8	▲0.4	▲0.9	▲0.6

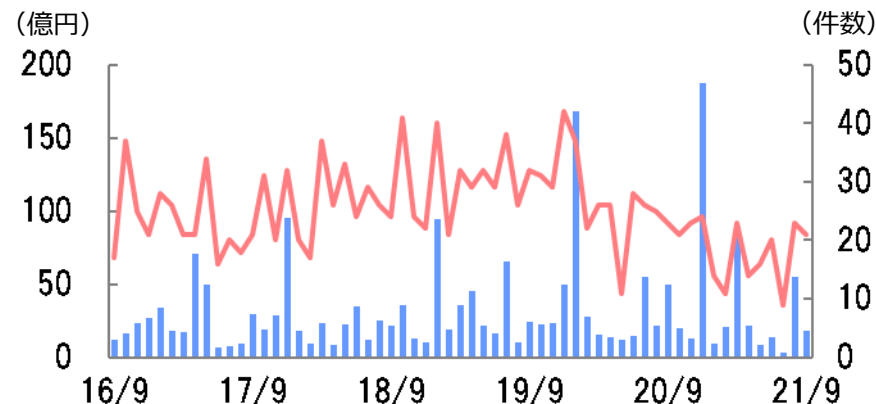
出所：国土交通省

倒産件数・負債総額

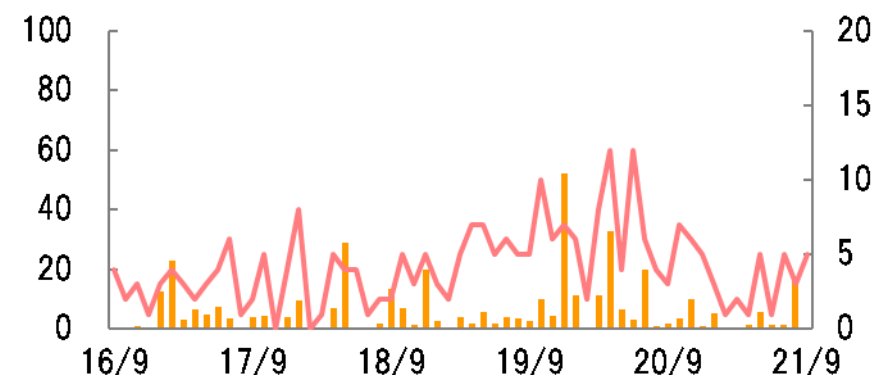
左軸：負債総額（棒グラフ）
右軸：倒産件数（折れ線グラフ）



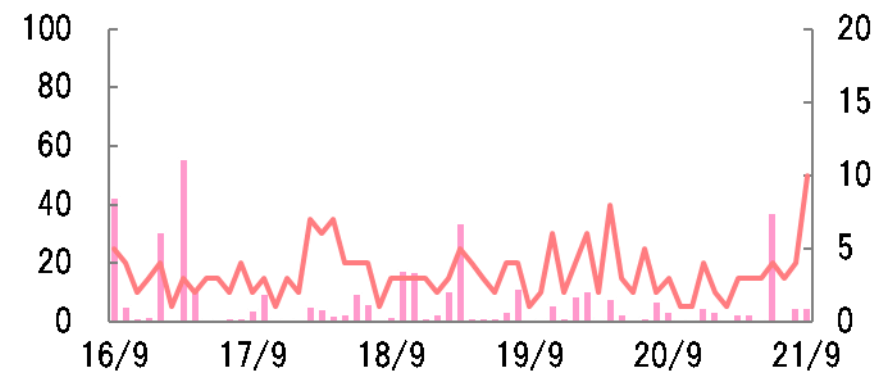
福岡県



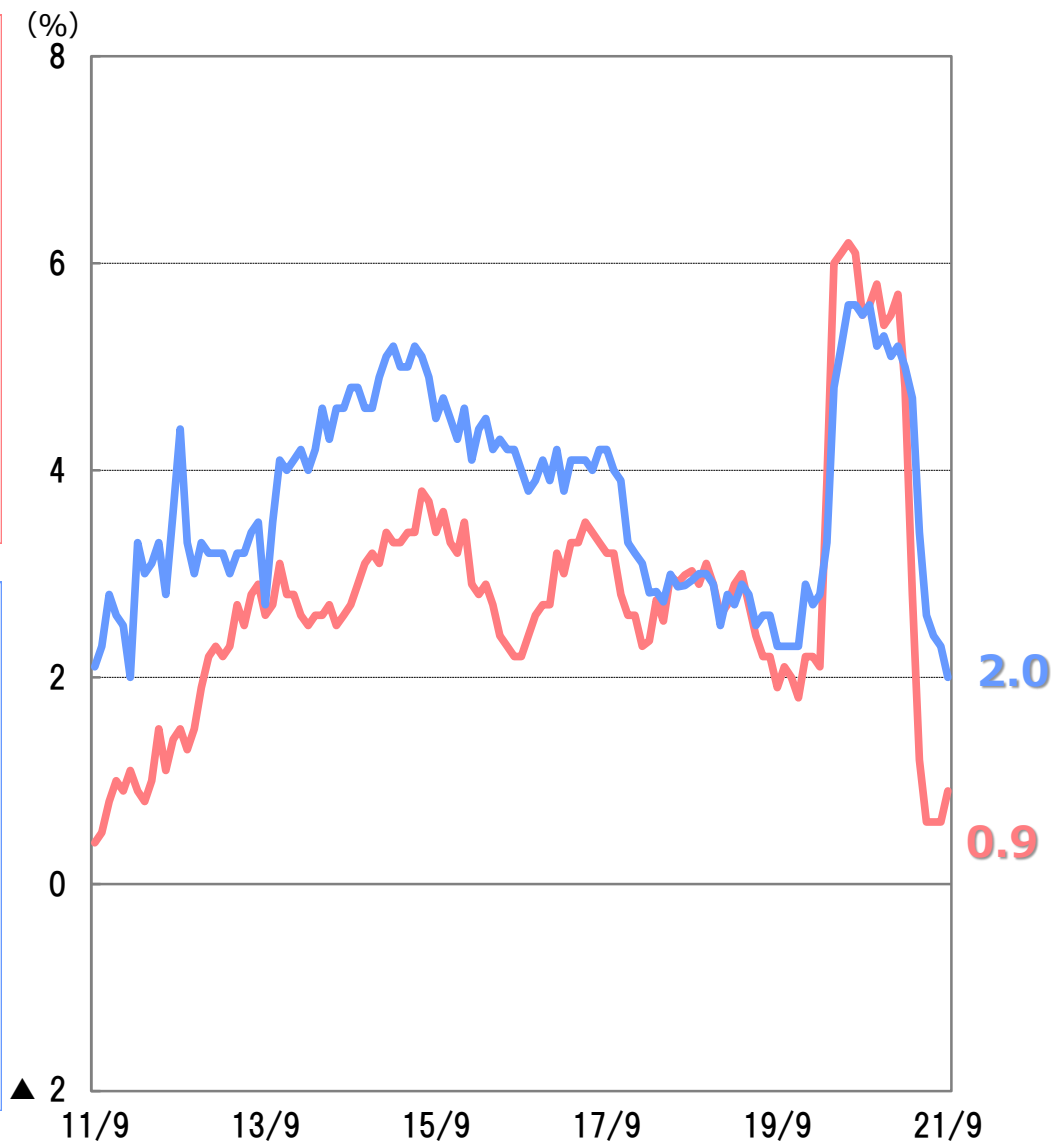
熊本県



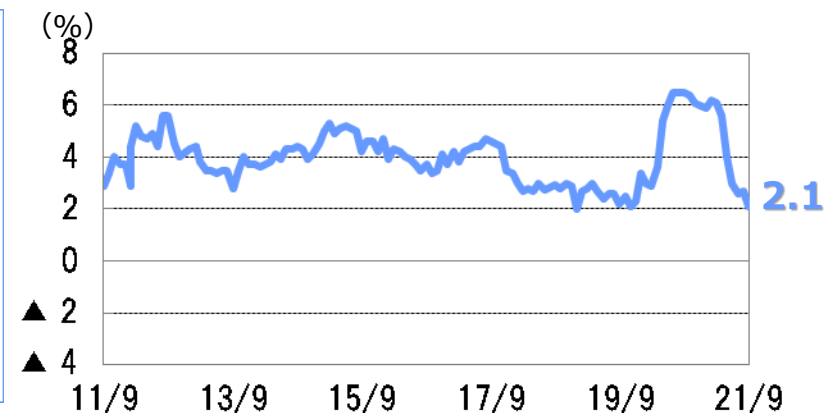
長崎県



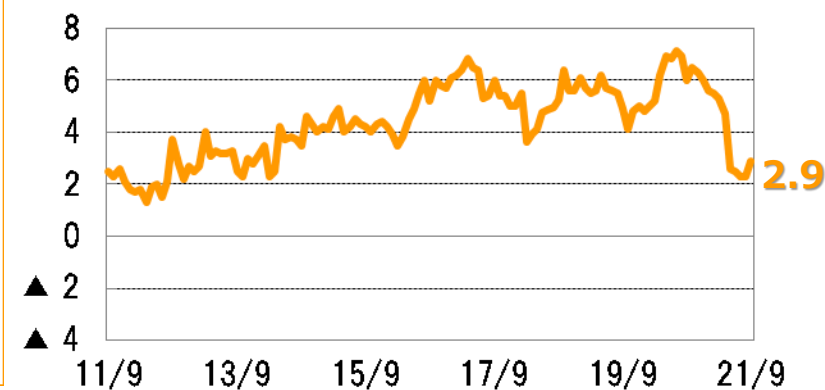
銀行貸出金残高（前年同月対比）



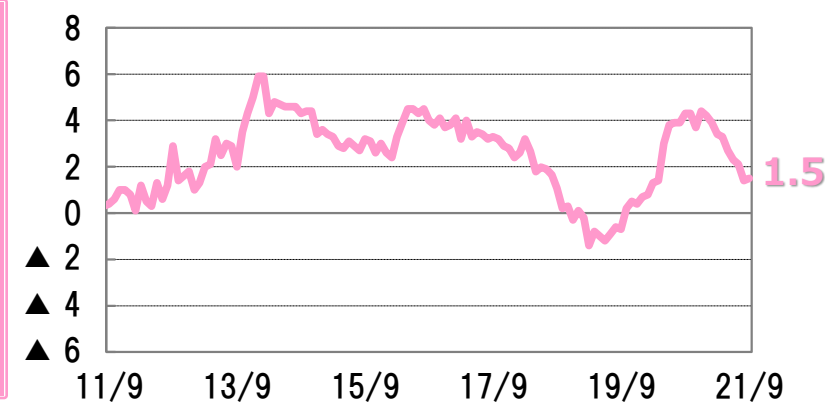
福岡県



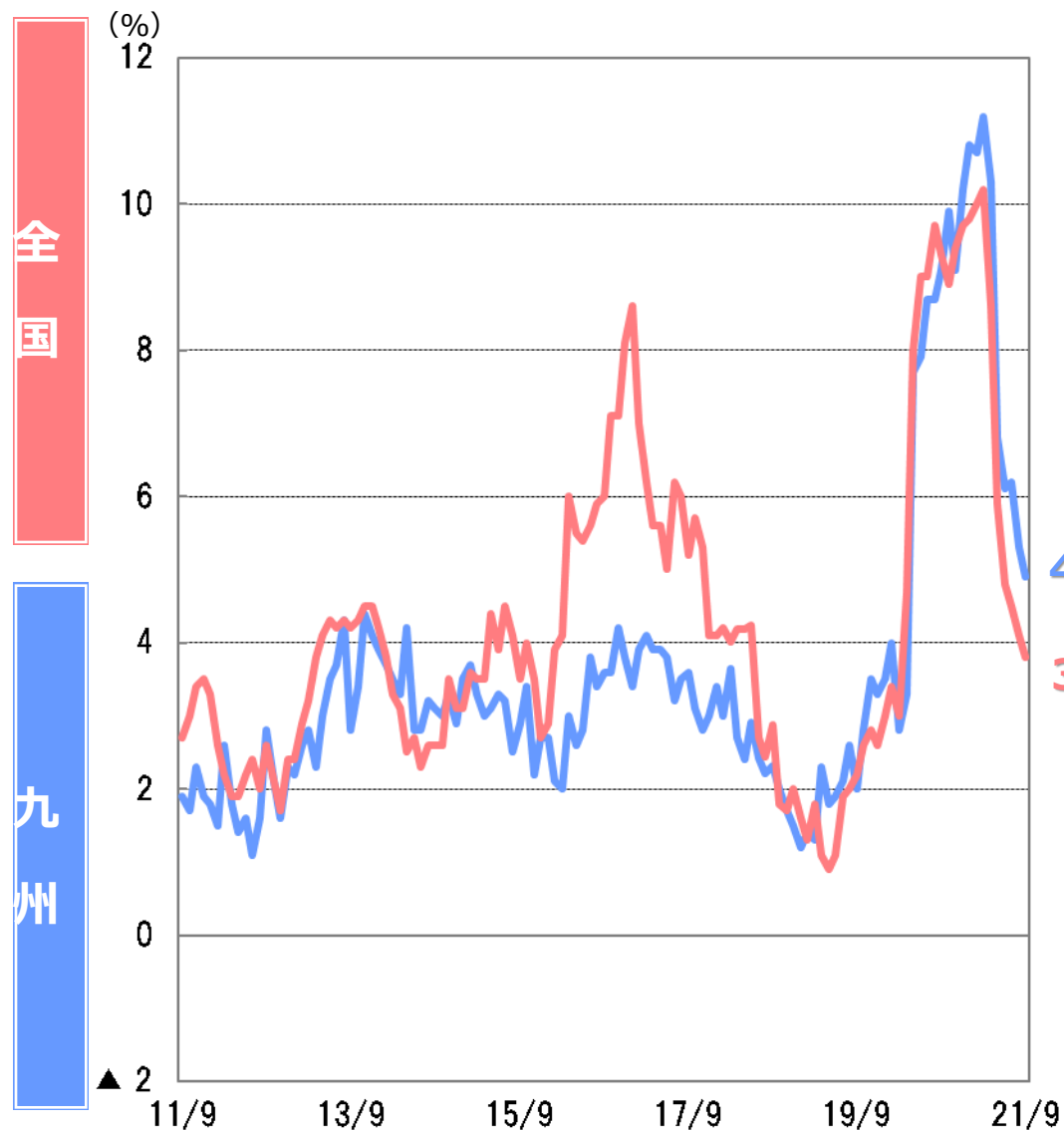
熊本県



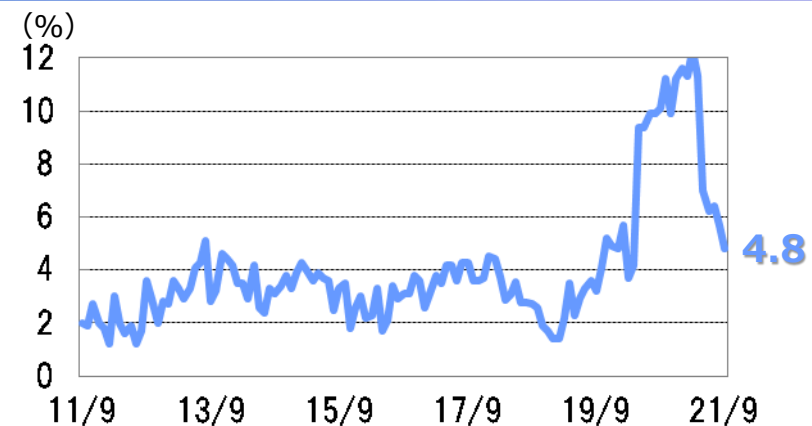
長崎県



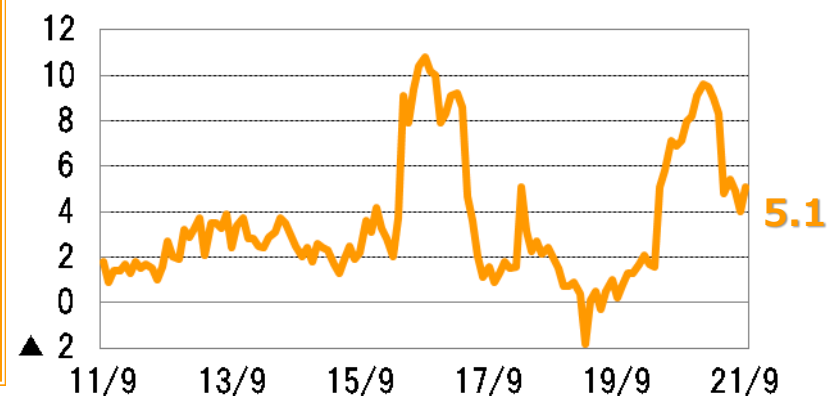
銀行預金残高（前年同月対比）



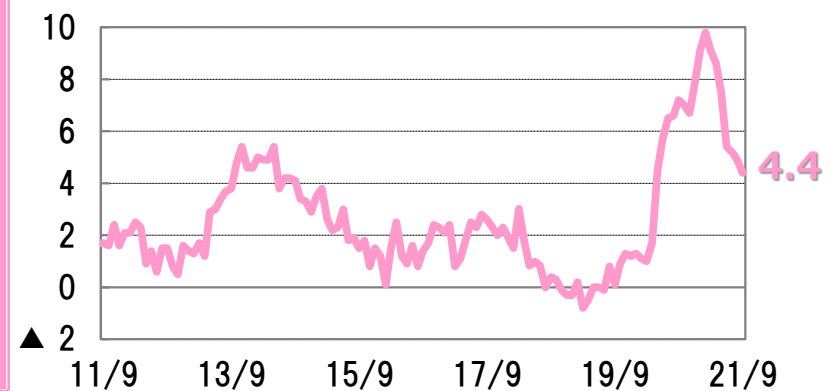
福岡県



熊本県



長崎県



【照会先】

株式会社 ふくおかフィナンシャルグループ 経営企画部 広報グループ

- **TEL** : **092 - 723 - 2255**
- **E-mail** : **ffg-ir@fukuoka-fg.com**
- **H P** : **<https://www.fukuoka-fg.com>**

- 本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、特定の証券の売買を勧誘するものではありません。
- 本資料に記載された事項の全部または一部は予告なく修正または変更されることがあります。
- 本資料に記述されている将来の業績予想等につきましては、経営環境の変化等に伴い、予想あるいは目標対比変化し得ることにご留意ください。
- なお、本資料の全部又は一部を当社の承諾なしに転写・複製し、又は第三者に伝達することはできませんのでご注意ください。